

■ コラボレーション エンドポイント ソフトウェア バージョン 8.3
2017 年 1 月



アドミニストレータ ガイド

Cisco TelePresence SX10 Quick Set

シスコ製品をお選びいただきありがとうございます。

お使いのシスコ製品は、長年にわたり安全かつ信頼できる操作を行えるよう設計されています。

製品マニュアルのこの部分は、ビデオ システムのセットアップと設定を担当する管理者を対象としています。

このアドミニストレータ ガイドの主な目的は、ユーザの目標とニーズに対応することです。このガイドについてのご意見、ご感想をお聞かせください。

定期的にシスコの Web サイトにアクセスし、このガイドの最新版を入手することを推奨します。

ユーザ ドキュメンテーションは次の URL から入手できます。

▶ <http://www.cisco.com/go/sx-docs>

本ガイドの使用方法

本書上部のメニュー バーと目次の各項目には、すべてハイパーリンクが設定されています。クリックすると、そのトピックに移動します。

目次

はじめに.....	4
ユーザ ドキュメンテーションとソフトウェア.....	5
CE8 の新機能.....	6
SX10 Quick Set の概要.....	20
電源のオンとオフ.....	21
LED インジケータ.....	22
ビデオ システムの管理方法.....	23
設定.....	28
ユーザ管理.....	29
システム パスフレーズの変更.....	30
画面上の [設定 (Settings)] メニューの PIN (暗証番号) コードの設定.....	31
システム設定.....	32
サインイン バナーの追加.....	33
ビデオ システムのサービス証明書の管理.....	34
信頼できる認証局 (CA) のリストの管理.....	35
安全な監査ログギングのセットアップ.....	36
Expressway プロビジョニング経由の CUCM 用のブレインストール済み証明書の管理.....	37
CUCM 信頼リストの削除.....	38
永続モードを変更する.....	39
強力なセキュリティ モードの設定.....	40
コンテンツ共有のために Intelligent Proximity をセットアップする.....	41
ビデオ品質対コール レート比の調整.....	46
パケット損失の復元力: ClearPath.....	47
壁紙の選択.....	48
呼出音の選択と呼出音の音量の設定.....	49
ローカル連絡先の管理.....	50
周辺機器.....	51
ディスプレイのリアルタイム通信要件.....	52
Touch 10 コントローラを接続する.....	53
入力ソース数の増加.....	55
メンテナンス.....	56
システム ソフトウェアのアップグレード.....	57
オプション キーの追加.....	59
システム ステータス.....	60
診断の実行.....	61
ログ ファイルのダウンロード.....	62
リモート サポート ユーザを作成する.....	63

設定をバックアップ、または復元する	64	付録	135
以前に使用していたソフトウェア イメージに復元する	65	リモート コントロールと画面上のユーザ インターフェイスの使用法	136
ビデオ システムの工場出荷時設定リセット	66	Touch 10 の使用法	137
Touch 10 を工場出荷時設定へリセットする	68	リモート モニタリングのセットアップ	138
ユーザ インターフェイスのスクリーンショットのキャプチャ	69	Web インターフェイスの使用中に通話情報にアクセスする	139
システム設定	70	Web インターフェイスを使用してコールを発信する	140
システム設定の概要	71	Web インターフェイスを使用してコンテンツを共有する	142
音声設定	75	ローカル レイアウトの制御	143
CallHistory 設定	77	ローカル カメラの制御	144
カメラ 設定	78	遠端カメラの制御	145
会議 設定	80	Touch 10 への室内制御の追加	146
FacilityService 設定	84	スタートアップ スクリプトを管理する	147
H323 設定	85	ビデオ システムの XML ファイルにアクセスする	148
ログ 設定	88	Web インターフェイスから API コマンドと構成を実行する	149
ネットワーク 設定	89	シリアル インターフェイス	150
NetworkServices 設定	96	技術仕様	151
周辺機器 設定	101	サポートされている RFC	153
Phonebook 設定	103	シスコ Web サイト内のユーザ ドキュメンテーション	154
プロビジョニング 設定	104	シスコのお問い合わせ先	155
プロキシミティ 設定	107		
RoomReset 設定	108		
RTP 設定	109		
セキュリティ 設定	110		
SerialPort 設定	112		
SIP 設定	113		
Standby 設定	117		
SystemUnit 設定	119		
時刻設定	120		
UserInterface 設定	123		
UserManagement 設定	125		
ビデオ設定	127		
Experimental 設定	134		

第 1 章 はじめに

ユーザ ドキュメンテーションとソフトウェア

このガイドの対象となる製品

- Cisco TelePresence SX10 Quick Set

このガイドでは、Cisco Spark 登録済みシステムについては説明しません。Cisco Spark ルーム システムの詳細については、次のサイトを参照してください。

▶ <https://help.webex.com/community/cisco-cloud-collab-mgmt>

ユーザ ドキュメンテーション

このガイドでは、エンドポイントの管理に必要な情報を提供します。エンドポイントのインストール方法については、インストール ガイドで説明されており、必要な初期設定については、スタートアップ ガイドで説明されています。

このエンドポイントのガイドについて詳しくは、▶「[シスコ Web サイト内のユーザ ドキュメンテーション](#)」の付録を参照してください。

ユーザ ドキュメンテーションのダウンロード

次のシスコ Web サイトに定期的にアクセスして、ガイドの最新バージョンを確認してください。

▶ <http://www.cisco.com/go/sx-docs>

Cisco Project Workplace

オフィスやミーティング ルームをビデオ会議用に準備する際にヒントを得たり、ガイドラインを確認したりするには、Cisco Project Workplace をご覧ください。

▶ <http://www.cisco.com/go/projectworkplace>

ソフトウェア

シスコの Web サイトからエンドポイントのソフトウェアをダウンロードします。

▶ <http://www.cisco.com/cisco/software/navigator.html>

次のサイトから、ソフトウェア リリース ノート (CE8) を参照することを推奨します。

▶ <http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/telepresence-quick-set-series/tsd-products-support-series-home.html>

CE8 の新機能

この章では、Cisco Collaboration Endpoint ソフトウェア バージョン 8 (CE8) の新しいシステム設定、変更されたシステム設定、新機能、機能向上点について、TC7.3 と比較して説明します。

CE ソフトウェアは TC7 に基づいており、その構造と主な機能は TC ソフトウェアと同じです。詳細については、次のソフトウェア リリース ノートを読むことをお勧めします。

► <http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/telepresence-quick-set-series/tsd-products-support-series-home.html>

CE8 のアップグレード パス



アップグレードする前に、CE8 のアップグレード要件を考慮することが重要です。これを行わないと、CE8.0 以降へアップグレードしてもデプロイメントが機能せず、ダウングレードが必要となる可能性があります。

ソフトウェア リリース ノートと、►「[システム ソフトウェアのアップグレード](#)」の章を参照してください。

CE8.3 の新機能および機能拡張

追加された入力ソースによる外部ビデオ スイッチの制御

タッチ ユーザ インターフェイスをカスタマイズして、サードパーティ製外部ビデオ スイッチに接続している入力ソースを追加できます。これらの外部入力ソースは、ビデオ システムに直接接続しているビデオ ソースと同様に表示され、動作します。ケーブルの交換や、物理入力ソースの手動での変更は不要です。

作成できる外部入力ソースの数は、ビデオ スイッチで使用可能な入力の数によって異なります。ソースの数は最大で 50 個に留めることが推奨されます。

ビデオ スイッチは、ビデオ システムの xAPI と通信できるサードパーティ制御システム (Crestron や AMX などの制御システム) がサポートする必要があります。これはビデオ システムではなく、ビデオ スイッチを制御する制御システムです。

ユーザ インターフェイスのカスタマイズ方法と、xAPI を使用したこの機能のセットアップ方法の詳細については、次のユーザ ガイドを参照してください。► <http://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

CMS 2.1 によりホストされる会議での ActiveControl

ActiveControl は SIP 専用機能であり、Cisco TelePresence Server によりホストされる会議のビデオ システムでしばらくサポートされていました。

CE8.3 以降、ActiveControl は CMS 2.1 によりホストされる会議でもサポートされています。ビデオ システムではデフォルトでは有効になっており、インフラストラクチャでも同様にサポートされている場合には使用可能です (自動ネゴシエーション)。

新しい ActiveControl の機能:

- ビデオ システムがサーバ側からミュートにされると、画面にミュート インジケータが表示され、マイクのミュート LED が点灯します。
- デフォルトではベスト エフォート暗号化が使用されます。
- 自動レイアウトがデフォルトとして導入されています。自動レイアウトに表示されるユーザは、最近の通話中のスピーカーに基づきます。
- 録音ステータス インジケータが画面に表示されます。
- ActiveControl 機能は Web インターフェイスで [コール制御 (Call Control)] ページから使用できます (例: 参加者リスト、参加者ミュート インジケータ、参加者削除ボタンなど)。

xAPI で使用可能なメディア チャンネルの詳細

メディア チャンネルには、現在の通話の音声、ビデオ、データに関する情報が含まれています。チャンネル レート、パケット損失、ジッター、ビデオ フレーム レートなどを xAPI からモニタできます。

xAPI に管理ユーザとしてサインインし、xStatus MediaChannels を実行してメディア チャンネルの詳細情報を確認します。また、Web インターフェイスの [ステータス (Status)] ページでメディア チャンネル ステータスを確認することもできます。

JSON 形式の HTTP フィードバック

HTTP フィードバックは、XML (Extensible Markup Language) の代わりに、サードパーティ フィードバック インタープリタ向けに JSON (JavaScript Object Notation) 形式で送信できます。

TMS はデフォルトで XML を使用しており、JSON 形式のフィードバックには対応していません。

設定可能なネットワーク速度

イーサネット リンク速度は Web インターフェイスまたは xAPI から設定できます。これは、CE ソフトウェアが稼働する他のビデオ システムに対応しています。

リンク速度の自動ネゴシエーション (デフォルト) を選択するか、またはリンク速度を強制的に次のいずれかに設定できます。

- 10 Mbps 半二重
- 10 Mbps 全二重
- 100 Mbps 半二重
- 100 Mbps 全二重

一般に、デフォルト値を変更しないことをお勧めします。デフォルト値では、ビデオ システムはネットワークとネゴシエーションし、速度を自動的に設定します。

Web インターフェイスで使用可能な DTMF トーンのキーパッド

Web インターフェイスの [コール制御 (Call Control)] ページにキーパッドが追加されました。このキーパッドはコール中に使用可能になります。このキーパッドを使用することで、必要な場合に遠端に DTMF トーンを送信できます。

Cisco Proximity 使用時にデフォルトで有効となる、ラップトップからのワイヤレス共有

クライアントからのコンテンツ共有サービスがデフォルトで有効になっています。このサービスにより、ラップトップは Proximity を介してビデオ システムとコンテンツを共有できます。その他のサービス (クライアントへのコンテンツ共有および基本コール制御) は、管理者が明示的に有効にする必要があります。

以前と同様に、Cisco Proximity デスクトップ クライアントからラップトップとビデオ システムをペアリングするには、Proximity モードがオンになっている必要があります。ワイヤレス共有サービスを使用する前にペアリングを行う必要があります。

新しい言語

画面上の表示とユーザ インターフェイスに EnglishUK と SpanishLatin のサポートが追加されました。

CE8.2 の新機能および機能拡張

LDAP ユーザ管理

外部 LDAP サービスから ADMIN ロールを持つユーザを登録して、ビデオ システムの Web インターフェイスと API へのアクセス権限をこれらのユーザに付与できます。これにより、ADMIN ユーザを一元的に管理できます。LDAP サーバを Web インターフェイスから設定できます。LDAP を使用した USER ロールを持つユーザの認証はサポートされていません。

LDAP 設定は CUCM で設定できます。ビデオ システムで LDAP からログイン用の証明書が必要となる場合、CUCM は証明書をプロビジョニングできないため、ビデオ システムに証明書を手動でアップロードする必要があります。

Touch 10 とのリモート ペアリングは管理者クレデンシャルなしで実行可能

Touch 10 コントローラをビデオ システムにリモート ペアリングするときに、管理者クレデンシャルを入力する必要がなくなりました。ペアリングでは、ユーザクレデンシャルの種類を問わず使用できます。タッチ コントローラとビデオ システムのペアリングまたは再ペアリングのために管理者がサイトにアクセスしたり、管理者クレデンシャルを提供したりする必要はありません。

Touch 10 コントローラのペアリング解除と、管理者設定の変更には引き続き ADMIN クレデンシャルが必要です。

室内制御のエントリ ポイントの追加

室内制御が拡張され、複数のパネルを使用できるようになりました。これらのパネルは、コンテキストに応じて使用できます。有効なエントリ ポイントには、[グローバル (Global)] (CE8.1 で導入)、[ホーム画面 (Homescreen)]、および [コール中 (In-Call)] があります。[ホーム画面 (Homescreen)] エントリ ポイントは、ホーム画面のアイコントレイ内の [ダイヤル (Dial)]、[連絡先 (Contacts)]、[共有 (Share)] ボタンの横に表示されます。[コール中 (In-Call)] エントリ ポイントは、ビデオ システムがコール中になるとアイコントレイからアクセスできます。[グローバル (Global)] エントリ ポイントはステータス バーにあります (CE8.1 と同様)。

また、新しいパネル アイコンが追加されました。

Cisco Spark のサポート

CE8.2 では、SX10 (CTS-SX10-K9)、SX20、SX80、MX200 G2、MX300 G2、MX700、MX800、MX800 Dual、DX70、および DX80 での Cisco Spark アクティブ化のサポートが導入されました。Cisco Spark サービスに登録されているビデオ システムは、Cisco Spark モバイル アプリケーションおよびデスクトップ アプリケーションと共に使用できます。

Cisco Spark に登録するには、次の手順に従います。

- Touch 10 を直接ペアリングする必要があります (Spark 登録 SX10N、SX10、SX20、DX70、および DX80 では Touch 10 はサポートされていません)。
- 暗号化オプション キーをインストールする必要があります (DX70 と DX80 には適用されません)。

ビデオ システムは、Cisco Spark でアクティブ化されると、Cisco Spark Room OS の最新バージョンをダウンロードします。

Cisco Spark Room OS では Web インターフェイスとコマンドライン インターフェイスがロックされているため、Collaboration Endpoint Software と同じ管理機能はありません。ルーム システムはシスコにより管理されます。問題が発生した場合は、Cisco Spark モバイル アプリケーションまたは管理ポータルから Cisco Technical Assistance Center にお問い合わせください。

Cisco Spark Room OS とその機能の詳細については、以下を参照してください。▶ <https://help.webex.com>

H.323 のサポート

SX10 を H.323 ゲートキーパーに登録し、SX10 から H.323 プロトコルを使用してコール発信できるようになりました。

Cisco Proximity の更新

アプリケーション名が Proximity から Cisco Proximity に変更されました。

最新リリースでは次の機能強化が行われています。

- デスクトップ アプリケーションを初めて利用するユーザ向けのチュートリアル
- ユーザ インターフェイスの新しい外観
- ペアリング操作の向上
- ユーザのデスクトップの可視性の強化
- 障害シナリオに関する情報と処理の向上
- クライアントでのサポート フォーラムへのリンク

スマートフォンとタブレット (Android と iOS) またはラップトップ (Windows と OS X) 用の Cisco Proximity クライアントは、▶ <http://proximity.cisco.com> からダウンロードできます。スマートフォンとタブレット用のクライアントは、Google Play (Android) と Apple App Store (iOS) から入手することもできます。

Touch 10 ユーザ インターフェイスの変更

ビジュアル更新は、Touch 10 の [セットアップとペアリング (Setup and Pairing)] ウィザードに適用されました。Cisco Spark に登録すると、Touch 10 の新しい GUI を使用できます。これは、Cisco TelePresence SX10 のオンスクリーン ユーザ インターフェイスに似ています。エンドポイントがオンプレミス インフラストラクチャに登録されている場合、Touch 10 コントローラのユーザ インターフェイスは CE8.1 と同じです。

デフォルト オプション キーの削除

すべての Cisco TelePresence ビデオ システムでデフォルトになった機能について、関連するオプション キーが削除されました。これらのオプションの機能は引き続き存在しますが、キーは不要になりました。

削除されたオプション キー：

- PremiumResolution
- NaturalPresenter
- DualDisplay
- HighDefinition

引き続き使用可能なオプション キー：

- Encryption
- MultiSite
- RemoteMonitoring

新しいユーザ ロール: *RoomControl*

管理者以外のユーザまたはインテグレータが室内制御エディタにアクセスできるように、*RoomControl* ユーザ ロールが追加されました。*RoomControl* ロールは、ビデオ システムの Web インターフェイスから新しい非管理者ユーザを作成するときに割り当てることができます。

言語サポートの追加

画面上の表示とタッチ コントローラのメニューに、フランス語 (カナダ) (Français - Canada) のサポートが追加されました。

CE8.1 の新機能および機能拡張

室内制御

室内制御機能を使用すると、会議室の周辺機器（たとえば照明やブラインドなど）を制御できるように、Touch 10 ユーザ インターフェイスをカスタマイズできます。室内のビデオ システムとその他の周辺機器を同一デバイスから制御する際に、一貫性のあるユーザ エクスペリエンスが実現します。

室内制御エディタで Touch 10 のユーザ インターフェイス拡張機能を作成できます。これは使いやすいドラッグアンドドロップ型エディタであり、ビデオ システムの Web インターフェイスから起動できます。また、スタンドアロン バージョンのエディタでオフラインで作業することもできます。このエディタは無料で使用でき、オプション キーは不要です。

周辺機器を制御するには、周辺機器のハードウェア ドライバを搭載したサードパーティ製の制御システム (Crestron、AMX、Apple HomeKit、Android など) が必要です。制御システムはビデオ システムの API に接続し、イベントをリッスンし、プログラミングされたアクションを実行します。

室内制御機能の設定の詳細については、次のユーザ ガイドを参照してください。▶ <http://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

ユーザ インターフェイスの更新

Touch 10 および画面上の表示ユーザ インターフェイスが導入されました。

画面上の表示からのオーバースキャンの調整

TRC6 リモート コントロールを使用してビデオ システムを操作する場合には、画面上の表示からオーバースキャン設定を調整することもできます。以前は Web インターフェイスまたは API を使用する必要がありました。

オーバースキャン設定は、セットアップ ウィザードで調整するか、または設定メニューから [画面調整 (Screen Adjustment)] を選択して調整することができます。これにより、画像の一部が表示されない場合に画面に合わせて画像を調整できます。

ほとんどの画面には画像を調整する組み込み設定があります。最初にこの設定を試行してください。

Cisco Spark のサポート

Collaboration Endpoint Software 8.1 では、SX10 (CTS-SX10N-K9) の Cisco Spark アクティベーションのサポートが導入されました。Cisco Spark サービスに登録されている SX10 は、Cisco Spark モバイル アプリケーションおよびデスクトップ アプリケーションと共に使用できます。

SX10 は、Cisco Spark でアクティブ化されると、Cisco Spark Room OS の最新バージョンをダウンロードします。

Cisco Spark Room OS では Web インターフェイスとコマンドライン インターフェイスがロックされているため、Collaboration Endpoint Software と同じ管理機能はありません。ルーム システムはシスコにより管理されます。問題が発生した場合は、Cisco Spark モバイル アプリケーションまたは管理ポータルから Cisco Technical Assistance Center にお問い合わせください。

Cisco Spark Room OS とその機能の詳細については、以下を参照してください。▶ <https://help.webex.com>

音声のみのアバターの動作の変更

音声のみの参加者について、全画面アバターは削除されました。コール中は音声のみの参加者も引き続きスライドに表示されます。

Intelligent Proximity の更新

Cisco Intelligent Proximity デスクトップ アプリケーションとプレゼンテーションを共有する際に、ラップトップのマウス ポインタが画面に表示されます。この機能を使用するには、Cisco Proximity for Desktop の最新バージョンと CE8.1 が必要です。

TRC6 リモートコントロールでビデオ システムを使用する場合、ユーザは Intelligent Proximity サービスを一時的に有効または無効にできます。この機能はこれまで Touch 10 でのみ提供されていました。

ダイレクト コンテンツ共有

コール中にプレゼンテーション ソースへ接続するときに、遠端の参加者とプレゼンテーションを自動的に共有するようにビデオ システムを設定できます。以前のソフトウェア バージョンでは、遠端とプレゼンテーションを共有する際には常に、リモートコントロールまたはタッチ コントローラで [共有 (Share)] を手動で選択する必要がありました。

コール開始時にプレゼンテーション ソースにすでに接続している場合は、遠端とプレゼンテーションを共有するためには [共有 (Share)] を手動で選択する必要があります。

詳細については、*Video Input Connector [n] Presentation Selection* 設定を参照してください。

CE8.0 の新機能および機能拡張

製品

CE8.0 は以下の製品をサポートしています。

- MX200 G2
- MX300 G2
- MX700
- MX800
- SX10 Quick Set
- SX20 Quick Set
- SX80

EX シリーズ、C シリーズ、および Profile シリーズの Cisco TelePresence 製品は CE ソフトウェアでサポートされません。これらの製品に対しては TC7.3 以前のソフトウェア バージョンを使用してください。

ユーザ インターフェイス

CE ソフトウェアを実行する製品は、次のユーザ インターフェイスを使用する必要があります。

- Touch 10 コントローラ (すべてのシスコ製品で利用可能)。
- TRC6 リモート コントロール (SX10 および SX20 で使用可能)。

Touch 8 コントローラおよび TRC5 リモート コントロールはサポートされていません。

API の変更

API コマンドの数が減りました。削除されたコマンドもあれば、基礎となるアーキテクチャの変更に対応するために構文が変更されたコマンドもあります。

ビデオ システムの Web インターフェイスでは、API の場合よりも多くのステータス情報と設定を使用できます。

パブリック API の変更内容を確認するには、ビデオ システムの API ガイドの「新機能」の章を参照してください。

コンテンツ シェアリング用のインテリジェント プロキシミティ

Cisco Proximity を使用すれば、デバイス (スマートフォン、タブレット、またはラップトップ) が範囲内に入ったときに自動的にビデオ システムとペアリングすることができます。この機能は、デフォルトで無効になっています。

Cisco Proximity は、3 つのサービス (クライアントへのコンテンツ共有、クライアントからのコンテンツ共有、および基本的なコール制御) を提供します。これらのサービスは、デフォルトで無効になっています。

スマートフォンとタブレット (Android と iOS) またはラップトップ (Windows と OS X) 用の Cisco Proximity クライアントは、<http://proximity.cisco.com> からダウンロードできます。スマートフォンとタブレット用のクライアントは、Google Play (Android) と Apple App Store (iOS) から入手することもできます。

マイクの LED 動作

マイクとタッチ 10 での LED の動作が変更されました。以下の状況では、マイク LED が点灯し、ミュート ボタンがアクティブになります。

- 発信コールを開始してからコールが切断されるまで。
- 着信コールを受信してからコールが切断されるまで。
- Web インターフェイスで VU メーターをアクティブ化して音量レベルをテストするとき。

色の表示 (緑色がアクティブ、赤色がミュート) には変更がありません。

PIN コード保護

画面上の [詳細設定 (Advanced Settings)] メニューは、権限のないユーザがビデオ システムの設定を変更できないように PIN コードで保護することができます。

解像度の変更点

コラボレーション エンドポイント ソフトウェアは、16:9 の解像度を備えているディスプレイだけをサポートしています。

ローカルとコール内の両方において、1 秒間に 5 フレームの 1080p 表示の共有をサポートします。

リモート モニタリング

セキュリティを強化するために、ビデオ システムにリモート モニタリング オプション キーがインストールされている場合は、ビデオ システムの Web インターフェイスからしかローカルおよび遠端ビデオ ストリームのスナップショットを撮ることができません。

リモート モニタリングは、オプション キーを追加してシステムをリポートすることによって有効になります。

ビデオ システムのユーザに対して警告メッセージやインジケータは送信されません。システム管理者によってカメラや画面が監視され制御される場合があることを十分にユーザに通知してください。

削除された機能

- Cisco CTMS はサポートされなくなりました。(Cisco TelePresence Server、Cisco TelePresence MCU、または Cisco TelePresence Conductor を使用する) 他のマルチポイント会議ソリューションを代わりに使用できます。
- MediaNet はサポートされなくなりました。

CE8.3 でのシステム設定の変更

新しい構成

Network [1] Speed
Peripherals Profile ControlSystems
Standby AudioMotionDetection

削除された設定

SIP Ice OfferTcpCandidates
Experimental に移行

変更された設定

H323 Encryption KeySize

旧: デフォルト値: Max1024bit

新: デフォルト値: Min1024bit

Logging External Server Port

旧: デフォルト値: 0

新: デフォルト値: 514

Network [1] *

旧: ユーザ ロール: Admin

新: ユーザ ロール: Admin、User

Proximity Services ContentShare FromClients

旧: デフォルト値: Disabled

新: デフォルト値: Enabled

Standby BootAction

旧: ユーザ ロール: Admin

新: ユーザ ロール: Admin、User

Standby WakeupAction

旧: ユーザ ロール: Admin

新: ユーザ ロール: Admin、User

UserInterface/Language

変更: 値スペースに EnglishUK と SpanishLatin を追加

CE8.2 でのシステム設定の変更

新しい構成

Conference DefaultCall Protocol
H323 Authentication LoginName
H323 Authentication Mode
H323 Authentication Password
H323 CallSetup Mode
H323 Encryption KeySize
H323 Gatekeeper Address
H323 H323Alias E164
H323 H323Alias ID
H323 NAT Address
H323 NAT Mode
H323 PortAllocation
NetworkServices H323 Mode
Peripherals Profile Cameras
UserManagement LDAP Mode
UserManagement LDAP Server Address
UserManagement LDAP Server Port
UserManagement LDAP Encryption
UserManagement LDAP MinimumTLSVersion
UserManagement LDAP VerifyServerCertificate
UserManagement LDAP Admin Filter
UserManagement LDAP Admin Group
UserManagement LDAP Attribute
UserManagement LDAP BaseDN

削除された設定

なし

変更された設定

Logging External Server Address
旧: 文字列 (0, 64)
新: 文字列 (0, 255)

NetworkServices NTP Server [1..3] Address
旧: 文字列 (0, 64)
新: 文字列 (0, 255)

NetworkServices SNMP Host [1..3] Address
旧: 文字列 (0, 64)
新: 文字列 (0, 255)

Provisioning Connectivity
旧: ユーザ ロール: ADMIN
新: ユーザ ロール: ADMIN、USER

Provisioning ExternalManager Address
旧: ユーザ ロール: ADMIN
新: ユーザ ロール: ADMIN、USER

Provisioning ExternalManager AlternateAddress
旧: ユーザ ロール: ADMIN
新: ユーザ ロール: ADMIN、USER

Provisioning ExternalManager Domain
旧: ユーザ ロール: ADMIN
新: ユーザ ロール: ADMIN、USER

Provisioning ExternalManager Path
旧: ユーザ ロール: ADMIN
新: ユーザ ロール: ADMIN、USER

Provisioning ExternalManager Protocol

旧: ユーザ ロール: ADMIN

新: ユーザ ロール: ADMIN、USER

Provisioning HttpMethod

旧: ユーザ ロール: ADMIN

新: ユーザ ロール: ADMIN、USER

Provisioning LoginName

旧: ユーザ ロール: ADMIN

新: ユーザ ロール: ADMIN、USER

Provisioning Mode

旧: ユーザ ロール: ADMIN

新: ユーザ ロール: ADMIN、USER

Proximity Mode

旧: ユーザ ロール: ADMIN

新: ユーザ ロール: ADMIN、USER

Proximity Services CallControl

旧: ユーザ ロール: ADMIN

新: ユーザ ロール: ADMIN、USER

Proximity Services ContentShare FromClients

旧: ユーザ ロール: ADMIN

新: ユーザ ロール: ADMIN、USER

Proximity Services ContentShare ToClients

旧: ユーザ ロール: ADMIN

新: ユーザ ロール: ADMIN、USER

Security Audit Server Address

旧: 文字列 (0, 64)

新: 文字列 (0, 255)

Time Zone

変更: タイム ゾーンのリストが更新されます。値スペースの情報は、tz データベース (別名: IANA タイムゾーン データベース) から取得しています。

UserInterface Language

旧: Arabic / Catalan / ChineseSimplified / ChineseTraditional / Czech / Danish / Dutch / English / Finnish / French / German / Hebrew / Hungarian / Italian / Japanese / Korean / Norwegian / Polish / PortugueseBrazilian / Russian / Spanish / Swedish / Turkish

新: Arabic / Catalan / ChineseSimplified / ChineseTraditional / Czech / Danish / Dutch / English / Finnish / French / FrenchCanadian / German / Hebrew / Hungarian / Italian / Japanese / Korean / Norwegian / Polish / PortugueseBrazilian / Russian / Spanish / Swedish / Turkish

Video Input Connector [n] InputSourceType

旧: PC / camera / document_camera / mediaplayer / other / whiteboard

新: PC / camera / desktop / document_camera / mediaplayer / other / whiteboard

Video Input Connector [n] PresentationSelection

旧: AutoShare / Manual / OnConnect

新: AutoShare / Desktop / Manual / OnConnect

CE8.1 でのシステム設定の変更

新しい構成

Audio Input Microphone [2] EchoControl Dereverberation
Audio Input Microphone [2] EchoControl Mode
Audio Input Microphone [2] EchoControl NoiseReduction
Audio Input Microphone [2] Mode
Audio Output Line [n] Delay DelayMs
Audio Output Line [n] Delay Mode
Logging External Mode
Logging External Protocol
Logging External Server Address
Logging External Server Port
Security Session MaxSessionsPerUser
Security Session MaxTotalSessions
SIP Ice OfferTcpCandidates

削除された設定

Conference Presentation RelayQuality
Conference VideoBandwidth MainChannel Weight
SIP Turn BandwidthProbe

変更された設定

Cameras Camera [n] Flip
旧: <Auto / Off / On>
新: <Auto>
Conference DefaultCall Rate
旧: デフォルト値: 1920
新: デフォルト値: 3072

Conference DoNotDisturb DefaultTimeout

旧: 整数 (0 ~ 1440)

新: 整数 (1 ~ 1440)

Conference VideoBandwidth PresentationChannel Weight

旧: 整数 (1 ~ 10)

デフォルト値: 2

新: 整数 (1 ~ 9)

デフォルト値: 5

FacilityService Service [1] Name

旧: デフォルト値: ""

新: デフォルト値: "Live Support"

Phonebook Server [1] Type

旧: <CUCM / Off / TMS / VCS>

新: <CUCM / Off / Spark / TMS / VCS>

Provisioning Mode

旧: <Auto / CUCM / Edge / Off / TMS / VCS>

新: <Auto / CUCM / Edge / Off / Spark / TMS / VCS>

SIP DisplayName

旧: 文字列 (0, 255)

新: 文字列 (0, 550)

Standby BootAction

旧: デフォルト値: DefaultCameraPosition

新: デフォルト値: RestoreCameraPosition

Time Zone

変更: タイム ゾーン のリストが更新されます。値スペースの情報は、tz データベース (別名: IANA タイムゾーン データベース) から取得しています。

UserInterface Wallpaper

旧: <Custom / None>

デフォルト値: None

新: <Auto / Custom / None>

デフォルト値: Auto

Video Input Connector [n] PresentationSelection

旧: <Manual/OnConnect>

新: <AutoShare / Manual / OnConnect>

CE8.0 で *USER* ユーザ ロールに関連付けられていたすべての設定は、現在は *USER* および *ADMIN* の両方のユーザ ロールに関連付けられています。したがって、*USER* ユーザ ロールに指定されたすべての設定は、*ADMIN* ロールにも含まれています。

TC7.3 と比較した場合の CE 8.0 でのシステム設定の変更点

新しい構成

Audio Input Microphone [2] Level
 CallHistory Mode
 NetworkServices UPnP Mode
 NetworkServices UPnP Timeout
 Peripherals Pairing Ultrasound Volume MaxLevel
 Peripherals Pairing Ultrasound Volume Mode
 Proximity Mode
 Proximity Services CallControl
 Proximity Services ContentShare FromClients
 Proximity Services ContentShare ToClients
 Video DefaultMainSource

削除された設定

</パス> * は、</パス> で始まるすべての設定が削除されることを意味します。

Conference [1] Multipoint Mode
 Network [1] DHCP RequestTFTPServerAddress
 NetworkServices CTMS Encryption
 NetworkServices CTMS Mode
 NetworkServices HTTPS Mode
 NetworkServices Medianet Metadata
 SIP AuthenticateTransferor
 SIP OCSP *
 SIP Profile [1] Outbound
 SIP Profile [1] Proxy [n] Discovery
 SystemUnit CallLogging Mode
 SystemUnit MenuLanguage

Time OlsonZone
 UserInterface OSD LanguageSelection
 UserInterface TouchPanel DefaultPanel
 Video AllowWebSnapshots
 Video Layout PresentationDefault View
 Video Layout ScaleToFrame
 Video Layout ScaleToFrameThreshold
 Video Layout Scaling
 Video OSD EncryptionIndicator
 Video OSD LanguageSelection
 Video OSD LoginRequired
 Video OSD Output
 Video SelfviewPosition
 Video Wallpaper

変更された設定

NetworkServices HTTP Mode

旧: <Off / On>
 デフォルト値: On

新: <Off/HTTP+HTTPS/HTTPS>
 デフォルト値: HTTP+HTTPS

Phonebook Server[n] Type

旧: <VCS / TMS / CUCM>
 デフォルト値: TMS

新: <Off / VCS / TMS / CUCM>
 デフォルト値: Off

Standby BootAction

旧: <None/Preset1/Preset2/Preset3/Preset4/Preset5/Preset6/Preset7/Preset8/Preset9/
 Preset10/Preset11/Preset12/Preset13/Preset14/Preset15/RestoreCameraPosition/
 DefaultCameraPosition>

新: <None/RestoreCameraPosition/DefaultCameraPosition>

Standby WakeupAction

旧: <None / Preset1 / Preset2 / Preset3 / Preset4 / Preset5 / Preset6 / Preset7 / Preset8 / Preset9 / Preset10 / Preset11 / Preset12 / Preset13 / Preset14 / Preset15 / RestoreCameraPosition / DefaultCameraPosition>

新: <None / RestoreCameraPosition / DefaultCameraPosition>

Time Zone

変更: タイムゾーンのリストが更新されています。値スペースの情報は、tz データベース (別名: IANA タイムゾーン データベース) から取得しています。

Video DefaultLayoutFamily Local (TC7.3 では Video Layout LocalLayoutFamily)

旧: <Auto/FullScreen/Equal/PresentationSmallSpeaker/PresentationLargeSpeaker/Prominent/Overlay/Single>

新: <Auto/Equal/Prominent/Overlay/Single>

Video DefaultLayoutFamily Remote (TC7.3 では Video Layout RemoteLayoutFamily)

旧: <Auto/FullScreen/Equal/PresentationSmallSpeaker/PresentationLargeSpeaker/Prominent/Overlay/Single>

新: <Auto/Equal/Prominent/Overlay/Single>

Video Input Connector [n] InputSourceType

旧: <other / camera / PC / DVD / document_camera / whiteboard>

新: <other / camera / PC / mediaplayer / document_camera / whiteboard>

Video Input Connector [n] PresentationSelection

旧: <Manual / Automatic / OnConnect>

新: <Manual / OnConnect>

名前が変更された設定

Audio SoundsAndAlerts KeyTones Mode

変更後: UserInterface KeyTones Mode

Cameras Camera [n] Backlight

変更後: Cameras Camera [n] Backlight DefaultMode

Cameras Camera [n] Brightness Level

変更後: Cameras Camera [n] Brightness DefaultLevel

Conference [1] ActiveControl Mode

変更後: Conference ActiveControl Mode

Conference [1] AutoAnswer Delay

変更後: Conference AutoAnswer Delay

Conference [1] AutoAnswer Mode

変更後: Conference AutoAnswer Mode

Conference [1] AutoAnswer Mute

変更後: Conference AutoAnswer Mute

Conference [1] CallProtocolIPStack

変更後: Conference CallProtocolIPStack

Conference [1] DefaultCall Rate

変更後: Conference DefaultCall Rate

Conference [1] DoNotDisturb DefaultTimeout

変更後: Conference DoNotDisturb DefaultTimeout

Conference [1] Encryption Mode

変更後: Conference Encryption Mode

Conference [1] FarEndControl Mode

変更後: Conference FarEndControl Mode

Conference [1] FarEndControl SignalCapability

変更後: Conference FarEndControl SignalCapability

Conference [1] MaxReceiveCallRate

変更後: Conference MaxReceiveCallRate

Conference [1] MaxTotalReceiveCallRate

変更後: Conference MaxTotalReceiveCallRate

Conference [1] MaxTotalTransmitCallRate

変更後: Conference MaxTotalTransmitCallRate

Conference [1] MaxTransmitCallRate

変更後: Conference MaxTransmitCallRate

Conference [1] MicUnmuteOnDisconnect Mode

変更後: Conference MicUnmuteOnDisconnect Mode

Conference [1] Presentation OnPlacedOnHold

変更後: Conference Presentation OnPlacedOnHold

Conference [1] Presentation RelayQuality

変更後: Conference Presentation RelayQuality

Conference [1] VideoBandwidth MainChannel Weight

変更後: Conference VideoBandwidth MainChannel Weight

Conference [1] VideoBandwidth Mode

変更後: Conference VideoBandwidth Mode

Conference [1] VideoBandwidth PresentationChannel Weight

変更後: Conference VideoBandwidth PresentationChannel Weight

NetworkServices NTP Address

変更後: NetworkServices NTP Server [n] Address

SIP Profile [1] Authentication [1] LoginName

変更後: SIP Authentication UserName

SIP Profile [1] Authentication [1] Password

変更後: SIP Authentication Password

SIP Profile [1] DefaultTransport

変更後: SIP DefaultTransport

SIP Profile [1] DisplayName

変更後: SIP DisplayName

SIP Profile [1] Ice DefaultCandidate

変更後: SIP Ice DefaultCandidate

SIP Profile [1] Ice Mode

変更後: SIP Ice Mode

SIP Profile[1] Line

変更後: SIP Line

SIP Profile[1] Mailbox

変更後: SIP Mailbox

SIP Profile [1] Proxy [n] Address

変更後: SIP Proxy [n] Address

SIP Profile [1] TlsVerify

変更後: SIP TlsVerify

SIP Profile [1] Turn BandwidthProbe

変更後: SIP Turn BandwidthProbe

SIP Profile [1] Turn DiscoverMode

変更後: SIP Turn DiscoverMode

SIP Profile [1] Turn DropRflx

変更後: SIP Turn DropRflx

SIP Profile [1] Turn Password

変更後: SIP Turn Password

SIP Profile [1] Turn Server

変更後: SIP Turn Server

SIP Profile [1] Turn UserName

変更後: SIP Turn UserName

SIP Profile [1] Type

変更後: SIP Type

SIP Profile [1] URI

変更後: SIP URI

SystemUnit ContactInfo Type

変更後: UserInterface ContactInfo Type

Video CamCtrlPip CallSetup Duration

変更後: Video Selfview OnCall Duration

Video CamCtrlPip CallSetup Mode

変更後: Video Selfview OnCall Mode

Video DefaultPresentationSource

変更後: Video Presentation DefaultSource

Video Layout LocalLayoutFamily

変更後: Video DefaultLayoutFamily Local

Video Layout RemoteLayoutFamily

変更後: Video DefaultLayoutFamily Remote

Video PIP ActiveSpeaker DefaultValue Position

変更後: Video ActiveSpeaker DefaultPIPPosition

Video PIP Presentation DefaultValue Position

変更後: Video Presentation DefaultPIPPosition

Video SelfviewDefault FullscreenMode

変更後: Video Selfview Default FullscreenMode

Video SelfviewDefault Mode

変更後: Video Selfview Default Mode

Video SelfviewDefault PIPPosition

変更後: Video Selfview Default PIPPosition

SX10 Quick Set の概要

Cisco TelePresence SX10 Quick Set はビデオに対応した小型コラボレーション スペース向けに設計されたオールインワン装置です。

標準フラットパネル ディスプレイに取り付けられたコンパクトなデバイスにカメラとコーデックを統合した高品質の装置です。電源と LAN の両方への単一ケーブルを介して電源とイーサネット (PoE) に接続できます。

カメラには広角視野角があり、狭いスペースでも良好な概観を提供します。高解像度ビデオは 1080p30 解像度に対応しています。

機能とメリット

- 最大 1080p30 の最適解像度による WXGAp5 でのコンテンツ共有。
- 広角 83° 水平視野角 5 倍ズーム (光学およびデジタル)。
- Power over Ethernet (PoE) ですぐに使用できる装置。
- 内蔵マイクとオプションの外部 Cisco TelePresence Table Microphone 20。
- TRC6 リモート コントロール (デフォルト) を使用した操作、または 10 インチのタッチ コントローラ (オプション) を使用した操作。
- 低消費のエネルギー効率 (EU クラス B)。
- Cisco Unified Communications Manager (UCM)、Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS)、および Cisco Spark に登録。



SX10 Quick Set には TRC6 リモート コントロールが付属しています。Cisco TelePresence Touch 10 コントローラをオプションとして注文できます。



標準フラットパネル ディスプレイの上部にマウントさせた SX10 Quick Set

電源のオンとオフ

電源ボタンによる電源オン/オフ

LED インジケータが付いた電源ボタンは、図に示すように前面に配置されています。



LED インジケータ付き
電源ボタン

スイッチ オン

ビデオ システムが自動的に起動しない場合、電源ボタンをやさしく押し、数秒間押し続けます。

ビデオ システムの起動中は LED が点灯します。

スイッチ オフ

電源ボタンをやさしく押し、消灯するまで押し続けます。

スタンバイ モードの開始/終了

電源ボタンを短く押します。ユニットがスタンバイになるまで数秒間かかります。

リモートからシステムの電源をオフにするか再起動する

Web インターフェイスにサインインして、[メンテナンス (Maintenance)] > [再起動 (Restart)] に移動します。

システムを再起動します。

[デバイスの再起動... (Restart device...)] をクリックして、選択内容を確定します。

システムが使用可能になるまでに、数分かかります。

システムの電源をオフにする

[デバイスのシャットダウン... (Shutdown device...)] をクリックして、選択内容を確定します。

 再度リモート操作でシステムの電源をオンにすることはできません。

リモート コントロールまたはタッチ コントローラを使用した再起動とスタンバイ

システムを再起動します

1. ホーム画面またはタッチ コントローラのステータス バーにある設定アイコン (歯車) を選択します。
2. リモート コントロールを使用して [システム情報 (System Information)] > [再起動 (Restart)] を選択するか、またはタッチ コントローラから [設定 (Settings)] > [再起動 (Restart)] を選択します。
3. [再起動 (Restart)] をもう一度選択して選択内容を確定します。

スタンバイ モードの開始/終了

1. ホーム画面またはタッチ コントローラのステータス バーにある設定アイコン (歯車) を選択します。
2. [スタンバイ (Standby)] を選択します。

LED インジケータ



ステータス LED

ステータス LED は、電源ボタンを囲む円です。標準の LED は白色です。赤色のライトはハードウェア障害を示します。

通常の動作 (スタンバイではない):

点灯します。

スタンバイ モード:

LED はゆっくりと点滅します。

ネットワーク接続なし:

LED は 2 回繰り返し点滅します。

起動 (ブート) 中:

LED は点滅します。

カメラ LED

カメラ LED はカメラ レンズの上に位置しています。

着信コール:

LED は点滅します。

コール中:

点灯します。

ビデオ システムの管理方法 (1/5 ページ)

一般的には、このアドミニストレータ ガイドに記載されているように、Web インターフェイスを使用してビデオ システムを管理/保守することをお勧めします。

あるいは、次のような方法でビデオ システムの API にアクセスすることもできます。

- HTTP または HTTPS (Web インターフェイスでも使用されます)
- SSH
- Telnet
- シリアル インターフェイス (RS-232)

さまざまなアクセス方法と API の使用方法の詳細については、ビデオ システムの *API ガイド* を参照してください。

ヒント

API で設定またはステータスを使用できる場合、Web インターフェイスの設定またはステータスが次のように API の設定またはステータスに変換されます。

(Web で) *X > Y > Z* を **Value** に設定することは次と同等です。

xConfiguration X Y Z: 値(API)

(Web で) *X > Y > Z* ステータスにチェックマークを付けることは

次の行と同じになります。

xStatus X Y Z(API)

次に例を示します。

[システムユニット (SystemUnit)] > [名前 (Name)] を **MySystem** に設定することは次と同等です。

xConfiguration SystemUnit Name: MySystem

[システムユニット (SystemUnit)] > [ソフトウェア (Software)] > [バージョン (Version)] ステータスにチェックマークを付けることは次と同等です。

xStatus SystemUnit Software Version

Web インターフェイスでは、API の場合よりも多くの設定とステータスを使用できます。

アクセス方式	注記	方式を有効/無効にする方法
HTTP/HTTPS	<ul style="list-style-type: none"> • ビデオ システムの Web インターフェイスで使用されます。 • 非セキュア (HTTP) またはセキュア (HTTPS) 通信 • HTTP: デフォルトで有効。 • HTTPS: デフォルトで有効。 	<p>[ネットワーク サービス (NetworkServices)] > [HTTP] > [モード (Mode)]</p> <p>変更を有効にするには、ビデオ システムを再起動します。</p>
Telnet	<ul style="list-style-type: none"> • 非セキュア TCP/IP 接続 • デフォルトで無効 	<p>[ネットワークサービス (NetworkServices)] > [Telnet] > [モード (Mode)]</p> <p>ビデオ システムを再起動する必要はありません。変更が有効になるまでに少し時間がかかる場合があります。</p>
SSH	<ul style="list-style-type: none"> • セキュア TCP/IP 接続 • デフォルトで有効 	<p>[ネットワークサービス (NetworkServices)] > [SSH] > [モード (Mode)]</p> <p>ビデオ システムを再起動する必要はありません。変更が有効になるまでに少し時間がかかる場合があります。</p>
シリアル インターフェイス (RS-232)	<ul style="list-style-type: none"> • ケーブルを使用してビデオ システムに接続します。IP アドレス、DNS、ネットワークは必要ありません。 • デフォルトで有効 • セキュリティ上の理由から、デフォルトではサインインするよう求められます ([シリアル ポート (SerialPort)] > [ログインが必須 (LoginRequired)]) 	<p>[シリアル ポート (SerialPort)] > [モード (Mode)]</p> <p>変更を有効にするには、ビデオ システムを再起動します。</p>



すべてのアクセス方式を無効 (off に設定) すると、ビデオ システムを設定することはできなくなります。いずれのアクセス方式も再度有効にする (On に設定する) ことはできないため、復元するにはビデオ システムを工場出荷時設定にリセットする必要があります。

ビデオ システムの管理方法 (2/5 ページ)

ビデオ システムの Web インターフェイス

Web インターフェイスは、ビデオ システムの管理ポータルです。コンピュータから接続して、システムをリモートで管理できます。完全な設定アクセスを提供し、メンテナンスのためのツールとメカニズムが用意されています。

注: Web インターフェイスを使用するには HTTP または HTTPS が有効になっている必要があります ([ネットワーク サービス (NetworkServices)] > [HTTP] > [モード (Mode)] 設定を参照)。

主要な Web ブラウザの最新版を使用することを推奨します。

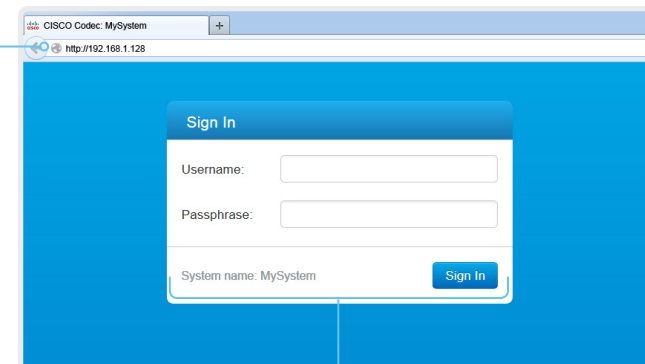
ビデオ システムへの接続

Web ブラウザを開き、ビデオ システムの IP アドレスをアドレス バーに入力します。



IP アドレスの確認方法

1. ホーム画面またはタッチ コントローラのステータス バーにある設定アイコン (歯車) を選択します。
2. リモート コントロールで [システム情報 (System Information)] を選択するか、またはタッチ コントローラで [設定 (Settings)] > [システム情報 (System Information)] を選択します。



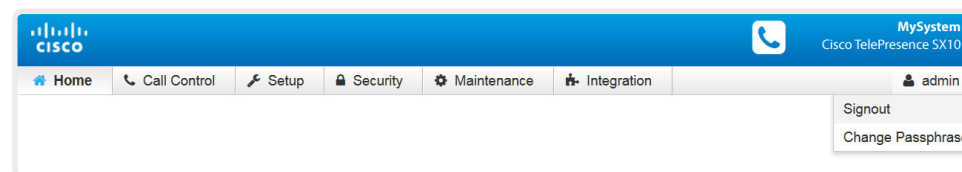
サインイン

エンドポイントのユーザ名とパスフレーズを入力して、[サインイン (Sign In)] をクリックします。



システムには出荷時にデフォルト ユーザ *admin* (パスフレーズなし) が設定されています。初めてサインインするときは、[パスフレーズ (Passphrase)] フィールドを空白のままにします。

admin ユーザのパスワードを設定する必要があります。



サインアウト

ユーザ名の上にカーソルを移動し、ドロップダウン リストから [サインアウト (Sign out)] を選択します。

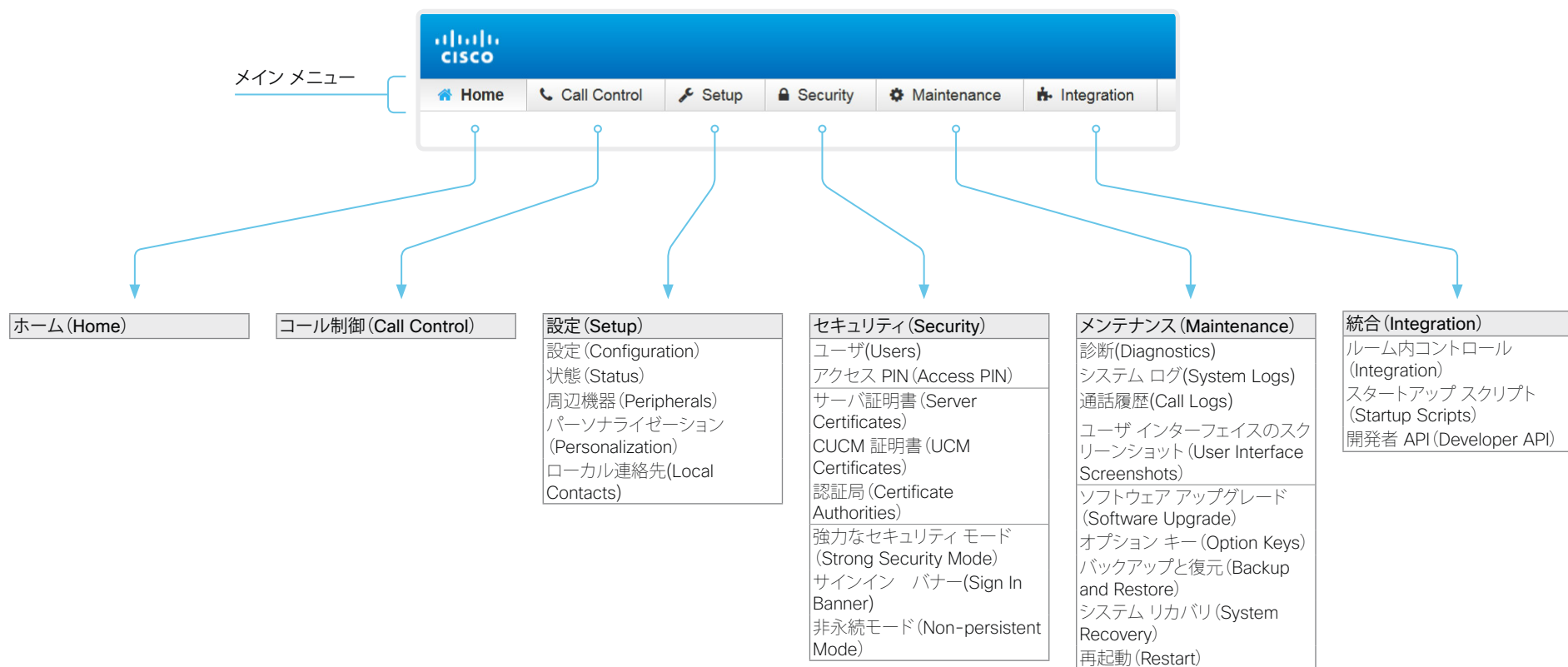
ビデオ システムの管理方法 (3/5 ページ)

Web インターフェイスの構成

Web インターフェイスはサブ ページで構成されています。サインインしているユーザには、そのユーザがアクセス権を持っているページのみが表示されます。

ユーザ管理、ユーザ ロール、およびアクセス権の詳細については、

▶ [「ユーザ管理」](#)の章をお読みください。



ビデオ システムの管理方法 (4/5 ページ)

タッチ コントローラで使用可能な設定

タッチ コントローラでは、次の情報と設定にアクセスできます。

- ・ システム情報、コール ステータス、および診断 (すべてのユーザが使用可能)
- ・ ビデオ システムの再起動 (すべてのユーザが使用可能)
- ・ サウンド、カメラ、メイン ソース、ディスプレイ、言語に関する基本設定 (パスフレーズによって保護されている場合とそうでない場合がある。[ユーザインターフェイス (UserInterface)] > [ユーザ設定 (UserPreferences)] 設定を参照)
- ・ ペアリング、プロビジョニング、ネットワーク、IP、およびコール プロトコルに関する基本設定 (常にパスフレーズで保護されている)

アクセス設定

1. タッチ コントローラのステータス バーで設定アイコン (歯車) をタップします。
2. [設定 (Settings)] をタップします。
3. リストでカテゴリを選択します*。

ビデオ システムのユーザ名とパスフレーズを入力して、[管理者 (Administrator)] 設定を開く必要があります。

設定	
着信音とサウンド (Ringtone & Sound)	
カメラ制御 (Camera Control)	
メイン ソースの選択 (Main Source Selection)	
ディスプレイ (Display)	
言語 (Language)	
システム情報 (System Information)	
コールの状態 (Call Status)	
診断 (Diagnostics)	
再起動 (Restart)	
管理者 (Administrator) >	

すべてのユーザが使用可能

管理者設定	
日時と場所 (Date, Time & Location)	
コールの詳細 (Call Details)	
プロビジョニング (Provisioning)	
ペアリング (Pairing)	
IP と VLAN - コーデック (IP & VLAN - Codec)	
ネットワークのステータス - コーデック (Network Status - Codec)	
IP と VLAN - タッチ (IP & VLAN - Touch)	
ネットワークのステータス - タッチ (Network Status - Touch)	
SIP	
H323	
セキュリティ (Security)	
EMC レジリエンス (EMC Resilience)	
リセット (Reset)	

パスフレーズによって保護

ビデオ システムの Web インターフェイスにサインインして、[セットアップ (Setup)] > [設定 (Configuration)] に移動します。

[ユーザインターフェイス (UserInterface)] > [ユーザ設定 (UserPreferences)] 設定を使用して、これらの設定をすべてのユーザに対して使用可能にするかどうかを決定したり、これらの設定をパスフレーズ保護エリアに移動したりします。

設定	
システム情報 (System Information)	
コールの状態 (Call Status)	
診断 (Diagnostics)	
再起動 (Restart)	
管理者 (Administrator) >	

すべてのユーザが使用可能

管理者設定	
着信音とサウンド (Ringtone & Sound)	
カメラ制御 (Camera Control)	
メイン ソースの選択 (Main Source Selection)	
ディスプレイ (Display)	
言語 (Language)	
日時と場所 (Date, Time & Location)	
コールの詳細 (Call Details)	
プロビジョニング (Provisioning)	
ペアリング (Pairing)	
IP と VLAN - コーデック (IP & VLAN - Codec)	
ネットワークのステータス - コーデック (Network Status - Codec)	
IP と VLAN - タッチ (IP & VLAN - Touch)	
ネットワークのステータス - タッチ (Network Status - Touch)	
SIP	
H323	
セキュリティ (Security)	
EMC レジリエンス (EMC Resilience)	
リセット (Reset)	

パスフレーズによって保護

* 製品と製品セットアップによっては、この図と同じメニューがタッチ コントローラに表示されない場合もあります。

[ユーザ インターフェイス (UserInterface)] > [ユーザ設定 (UserPreferences)]: オン (On) (デフォルト)

[ユーザ インターフェイス (UserInterface)] > [ユーザ設定 (UserPreferences)]: オフ (Off)

ビデオ システムの管理方法 (5/5 ページ)

リモート コントロール使用時に使用可能な設定

TRC6 リモート コントロールの使用時には画面上で次の情報と設定にアクセスできます。

- ・ システム情報
- ・ 警告およびエラー メッセージ
- ・ ビデオ システムの再起動
- ・ スピーカーとマイクのチェック、デフォルトのカメラ プリセットと画面調整、プレゼンテーション共有テスト
- ・ 言語、タイム ゾーン、ネットワーク、プロビジョニング (サービス アクティベーション) の基本設定
- ・ 拡張ロギング
- ・ 工場出荷時の状態へのリセット

システム情報と設定へのアクセス

1. ホーム画面の設定アイコン (歯車) を選択します。
2. [システム情報 (System Information)] を選択してシステム情報と発生している可能性のある問題を確認し、[再起動 (Restart)] ボタンを選択します。
3. 次にシステムの調整と基本的な設定のため [設定 (Settings)] を選択します。

このメニューを表示するには PIN (暗証番号) コードを入力するように求められることがあります。詳細については ►「[画面上の \[設定 \(Settings\)\] メニューの PIN \(暗証番号\) コードの設定](#)」の項を参照してください。

詳細については、ご使用のビデオ システムのスタートアップガイドを参照してください。

第 2 章 設定

ユーザ管理

Web インターフェイスとコマンドライン インターフェイス、およびタッチ コントローラの管理者設定にアクセスするには、サインインする必要があります。ユーザがアクセス可能な対象を指定するため、ユーザにさまざまなロールを割り当てることができます。

デフォルトのユーザ アカウント

ビデオ システムでは初期状態でデフォルトの管理者ユーザ アカウントにフル アクセス権が与えられています。ユーザ名は *admin* で、パスワードは初期設定されていません。



admin ユーザのパスワードを設定する必要があります。

パスワードの設定方法については、▶ [「システム パスワードを変更する」](#)の章を参照してください。

新しいユーザ アカウントを作成する

1. Web インターフェイスにサインインして、[セキュリティ (Security)] > [ユーザ (Users)] に移動します。

2. [新規ユーザを追加 (Add New User)] を選択します。

3. [ユーザ名 (Username)]、[パスワード (Passphrase)]、および [パスワードを再入力 (Repeat passphrase)] 入力フィールドに情報を入力します。

デフォルトでは、ユーザが初めてサインインしたときにパスワードを変更する必要があります。

認証にクライアント証明書を使用する場合にのみ、[クライアント証明書 DN (識別名) (Client Certificate DN)] フィールドに値を入力してください。

4. [ロール (Roles)] の該当するチェック ボックスをオンにします。

ADMIN ロールをユーザに割り当てる場合は、[パスワード (Your passphrase)] 入力フィールドに確認のため各自のパスワードを入力します。

5. ユーザをアクティブにするには、[ステータス (Status)] を [アクティブ (Active)] に設定します。

6. [ユーザの作成 (Create User)] をクリックします。

変更を加えないで終了するには、[戻る (Back)] ボタンを使用します。

既存のユーザ アカウントの編集

ADMIN ロールが割り当てられているユーザを変更する場合は常に、[パスワード (Your passphrase)] 入力フィールドに確認のため各自のパスワードを入力する必要があります。

ユーザ特権を変更する

1. Web インターフェイスにサインインして、[セキュリティ (Security)] > [ユーザ (Users)] に移動します。

2. リスト内の該当ユーザをクリックします。

3. ユーザ ロールを選択して、ステータスを [アクティブ (Active)] または [非アクティブ (Inactive)] に設定し、ユーザが次のサインイン時にパスワードを変更する必要があるかどうかを決定します。

HTTPS で証明書ログインを使用する場合にのみ、[クライアント証明書 DN (識別名) (Client Certificate DN)] フィールドに値を入力してください。

4. [ユーザの更新 (Update User)] をクリックして変更内容を保存します。変更を加えないで終了するには、[戻る (Back)] ボタンを使用します。

パスワードの変更

1. Web インターフェイスにサインインして、[セキュリティ (Security)] > [ユーザ (Users)] に移動します。

2. リストで該当するユーザをクリックします。

3. 該当する入力フィールドに新しいパスワードを入力します。

4. [パスワードの変更 (Change Passphrase)] をクリックして、変更を保存します。

変更を加えないで終了するには、[戻る (Back)] ボタンを使用します。

ユーザ アカウントの削除

1. Web インターフェイスにサインインして、[セキュリティ (Security)] > [ユーザ (Users)] に移動します。

2. リスト内の該当ユーザをクリックします。

3. [ユーザを削除... (Delete user...)] をクリックし、プロンプトが表示されたら確定します。

ユーザ ロールについて

1 つのユーザ アカウントは、1 つのユーザ ロールまたは複数の組み合わせを保持できます。フル アクセス権があるユーザ アカウント (デフォルトの *admin* ユーザなど) は、ADMIN、USER、および AUDIT ロールを所有している必要があります。

ユーザ ロールを次に示します。

ADMIN: このロールが割り当てられているユーザは、新規ユーザの作成、ほとんどの設定の変更、コール発信、および連絡先リストの検索を実行できます。このユーザは、監査証明書のアップロードもセキュリティ監査の設定も変更を行えません。

USER: このロールを持つユーザは、コールの発信と連絡先リストの検索が可能です。このユーザは、呼び出し音の音量の調整や時刻と日付の表示形式の設定など、いくつかの設定を変更できます。

ROOMCONTROL: このロールが割り当てられているユーザは室内制御を作成できます。ユーザは室内制御エディタおよび対応する開発ツールを使用できます。

AUDIT: このロールを持つユーザは、セキュリティ監査の設定の変更および監査証明書のアップロードが可能です。

システム パスフレーズの変更

システム パスフレーズは、以下の操作を行うときに必要となります。

- Web インターフェイスへのサインイン
- コマンドライン インターフェイスへのサインインと使用
- タッチ コントローラからの管理者設定へのアクセス

デフォルトのユーザ アカウント

ビデオ システムには、フル アクセス権を持つデフォルトのユーザ アカウントが付属しています。ユーザ名は *admin* で、初期状態ではパスフレーズは設定されていません。



システム設定へのアクセスを制限するために、デフォルトの *admin* ユーザにパスフレーズを設定する必要があります。ADMIN 権限を持つ他のユーザすべてにパスフレーズを設定する必要もあります。

admin ユーザのパスフレーズが設定されるまでは、システム パスフレーズが設定されていないことを示す警告が画面上に表示されます。

他のユーザ アカウント

ビデオ システムには多くのユーザ アカウントを作成できます。

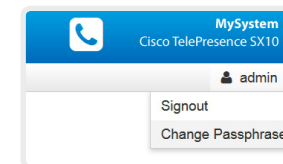
詳細については、▶ [「ユーザ管理」](#)の章のユーザ アカウントの作成と管理の方法について確認してください。

パスフレーズを変更する

1. Web インターフェイスにサインインして、ユーザ名の上にカーソルを移動し、ドロップダウン リストで [パスフレーズの変更 (Change Passphrase)] を選択します。
2. 入力フィールドに現在のパスフレーズと新しいパスフレーズを入力し、[パスフレーズの変更 (Change passphrase)] をクリックします。
パスフレーズの形式は、0 ～ 64 文字の文字列です。



パスフレーズが現在設定されていない場合は、[現在のパスフレーズ (Current passphrase)] フィールドを空白のままにします。



別のユーザのパスフレーズの変更

管理者アクセス権を持っている場合は、任意のユーザのパスワードを変更できます。

1. Web インターフェイスにサインインして、[セキュリティ (Security)] > [ユーザ (Users)] に移動します。
2. リスト内の該当ユーザをクリックします。
3. [パスフレーズ (Passphrase)] と [パスフレーズを再入力 (Repeat passphrase)] 入力フィールドに新しいパスフレーズを入力します。
ADMIN ロールが割り当てられているユーザの場合は、[パスフレーズ (Your passphrase)] 入力フィールドに確認のため各自のパスフレーズを入力する必要があります。
4. [パスフレーズの変更 (Change Passphrase)] をクリックして、変更を保存します。
変更を加えないで終了するには、[戻る (Back)] ボタンを使用します。

画面上の [設定 (Settings)] メニューの PIN (暗証番号) コードの設定

TRC6 リモート コントロールを使用する場合には、画面上の [設定 (Settings)] メニューにアクセスできます。

権限のないユーザがビデオ システムの設定を変更できないようにしたい場合は、画面上の [設定 (Settings)] メニューに PIN (暗証番号) コードを設定することを推奨します。

PIN (暗証番号) コードの設定

1. Web インターフェイスにサインインして、[セキュリティ (Security)] > [PIN へのアクセス (Access PIN)] に移動します。
2. PIN (暗証番号) コードを入力フィールドに入力して、[PIN (暗証番号) の設定 (Set PIN)] をクリックします。
PIN (暗証番号) には数字だけを使用できます。

PIN (暗証番号) コードの変更

1. Web インターフェイスにサインインして、[セキュリティ (Security)] > [PIN へのアクセス (Access PIN)] に移動します。
2. [PIN (暗証番号) の (Clear PIN)] をクリックします。

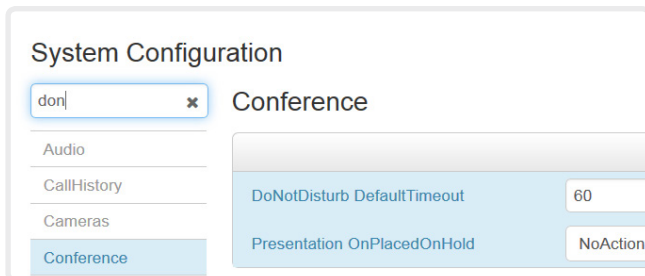
システム設定

Web インターフェイスにサインインして、[セットアップ (Setup)] > [設定 (Configuration)] に移動します。

システム設定の検索

設定の検索

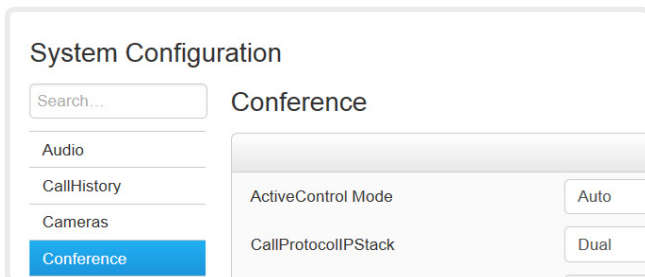
検索フィールドに必要な数の文字を入力します。これらの文字を含むすべての設定が右側のペインに表示されます。値スペースにこれらの文字が含まれる設定も表示されます。



The screenshot shows the 'System Configuration' page. On the left, there is a search bar with 'don' entered and a dropdown menu showing 'Conference' selected. On the right, under the 'Conference' category, two settings are listed: 'DoNotDisturb DefaultTimeout' with a value of '60' and 'Presentation OnPlacedOnHold' with a value of 'NoAction'.

カテゴリを選択して設定に移動する

システム設定はカテゴリ別に分類されています。左ペインでカテゴリを選択すると、関連する設定が表示されます。

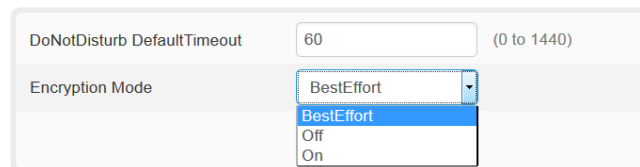


The screenshot shows the 'System Configuration' page. On the left, the 'Conference' category is selected in the dropdown menu. On the right, under the 'Conference' category, two settings are listed: 'ActiveControl Mode' with a value of 'Auto' and 'CallProtocolIPStack' with a value of 'Dual'.

システム設定の変更

値スペースのチェック

設定の値スペースは、入力フィールドの後のテキストにより、または矢印をクリックして表示されるドロップダウン リストにより指定されます。

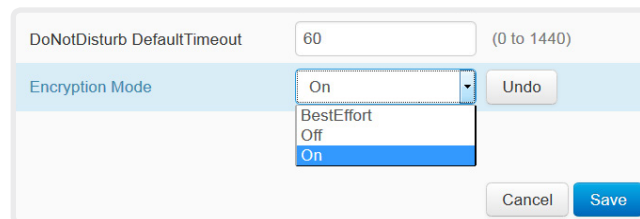


The screenshot shows a dropdown menu for 'Encryption Mode'. The current value is 'BestEffort'. The dropdown list shows 'BestEffort', 'Off', and 'On'.

値を変更する

1. ドロップダウン リストから適切な値を選択するか、入力フィールドに新しいテキストを入力します。
2. [保存 (Save)] をクリックして変更を有効にします。

変更を加えない場合は、[元に戻す (Undo)] または [キャンセル (Cancel)] ボタンを使用します。



The screenshot shows the 'Encryption Mode' dropdown menu with 'On' selected. To the right of the dropdown are 'Undo', 'Cancel', and 'Save' buttons.

変更が保存されていないカテゴリには、編集記号 (✎) のマークが付きます。

システム設定について

Web インターフェイスからすべてのシステム設定を変更できます。

各システム設定については、[「システム設定」](#)の章を参照してください。

異なる設定には、異なるユーザ クレデンシャルが必要である場合があります。管理者はすべてのシステム設定を変更できるように、すべてのユーザ ロールを所有している必要があります。

ユーザ管理およびユーザ ロールに関する詳細情報は、[「ユーザ管理」](#)の章で確認できます。

サインイン バナーの追加

Web インターフェイスにサインインして、[セキュリティ (Security)] > [サインイン バナー (Sign In Banner)] に移動します。

1. ユーザがサインインしたときに表示するメッセージを入力します。
2. [保存 (Save)] をクリックして、バナーをアクティブにします。

Sign In Banner

The Sign In Banner will be displayed when signing in using SSH, telnet, web and RS-232.

The information you type here will be shown to all users when they sign in.

CISCO Codec: MySystem

http://192.168.1.128

login as: admin

The information you type here will be shown to all users when they sign in.

Using keyboard-interactive authentication.

Password: █

The information you type here will be shown to all users when they sign in.

Sign In

Username:

Passphrase:

System name: MySystem

サインイン バナーについて

システム管理者がすべてのユーザに初期情報を提供したい場合、サインイン バナーを作成できます。メッセージは、ユーザが Web インターフェイスまたはコマンドライン インターフェイスにサインインすると表示されます。

ビデオ システムのサービス証明書の管理

Web インターフェイスにサインインして、[セキュリティ (Security)] > [サービス証明書 (Service Certificates)] に移動します。

次のファイルが必要です。

- 証明書 (ファイル形式: .PEM)
- 個別のファイルとして、または証明書と同じファイルに含まれる秘密キー (ファイル形式: .PEM 形式)
- パスフレーズ (秘密キーが暗号化されている場合にのみ必要)

証明書と秘密キーは、ビデオ システムの同じファイル内に保存されます。

証明書の有効化、無効化、表示、または削除

各サービスの証明書を有効または無効にするには、On ボタンと off ボタンを使用します。

証明書を表示または削除するには、対応するボタンを使用します。

証明書の追加

1. [参照... (Browse...)] をクリックしてコンピュータ上の証明書ファイルと秘密キー ファイル (オプション) を見つけます。
2. 必要に応じて、[パスフレーズ (Passphrase)] に値を入力します。
3. [証明書の追加... (Add certificate...)] をクリックして、証明書をビデオ システムに保存します。

Service Certificates

Certificate	Issuer	HTTPS server	SIP	802.1X	Audit log		
Certificate_A	CertificateAuthority_A	On	Off	Off	Off	Delete...	View Certificate
Certificate_B	CertificateAuthority_B	Off	Off	Off	Off	Delete...	View Certificate

Add Certificate

Certificate

Browse...

No file selected.

Private key (optional)

Browse...

No file selected.

Passphrase (optional)

This system supports PEM formatted certificate files (.pem). The certificate file may contain the certificate and a RSA or DSA encrypted private key with or without a passphrase. Optionally the private key file may be supplied separately.

Add certificate...

図に示している証明書および証明書発行者は一例です。お使いのシステムには別の証明書があります。

ビデオ システムのサービス証明書について

証明書の検証は、TLS (Transport Layer Security) を使用する場合に必要になることがあります。

通信をセットアップする前に、有効な証明書をビデオ システムが提供するよう、サーバまたはクライアントが要求することがあります。

ビデオ システムの証明書は、システムの信頼性を確認するテキスト ファイルです。これらの証明書は、認証局 (CA) によって発行される場合があります。

これらの証明書は、HTTPS サーバ、SIP、IEEE 802.1X、および監査ロギングの各サービスで使用されます。

複数の証明書をビデオ システムで保存できますが、サービスごとに一度に有効化できる証明書は 1 つだけです。

認証が失敗した場合、接続は確立されません。

信頼できる認証局 (CA) のリストの管理

Web インターフェイスにサインインし、[セキュリティ (Security)] > [認証局 (Certificate Authorities)] に移動して、[カスタム CA (Custom CAs)] タブを開きます。

次のファイルが必要です。

- CA 証明書のリスト (ファイル形式: PEM)。

証明書を表示または削除する

証明書を表示または削除するには、対応するボタンを使用します。

証明局のリストをアップロードする

- [参照... (Browse...)] をクリックして、お使いのコンピュータで CA 証明書のリストを含むファイル (ファイル形式: PEM) を探します。
- [証明局の追加... (Add certificate authority...)] をクリックして、新しい CA 証明書をビデオ システムに保存します。

図に示している証明書および証明書発行者は一例です。お使いのシステムには別の証明書があります。



過去に保存した証明書は自動的には削除されません。

CA 証明書を持つ新しいファイルのエントリが既存のリストに追加されます。

信頼できる CA について

証明書の検証は、TLS (Transport Layer Security) を使用する場合に必要になることがあります。

通信をセットアップする前に、サーバまたはクライアントからシステムに証明書を提示することを要求するよう、ビデオ システムを設定できます。

証明書は、サーバまたはクライアントの信頼性を確認するテキスト ファイルです。証明書は、信頼できる CA によって署名されている必要があります。

証明書の署名を検証するには、信頼できる CA のリストがビデオ システム上に存在する必要があります。

このリストには、監査ロギング用および他の接続用に証明書を検証するのに必要なすべての CA が含まれる必要があります。

認証が失敗した場合、接続は確立されません。

安全な監査ロギングのセットアップ

Web インターフェイスにサインインして、[セットアップ (Setup)] > [設定 (Configuration)] に移動します。



監査サーバの証明書を検証する認証局 (CA) が、ビデオ システムの「信頼できる認証局」リストに含まれている必要があります。存在しない場合、ログは外部サーバに送信されません。

リストを更新する方法については、「[信頼できる認証局 \(CA\) のリストを管理する](#)」の章を参照してください。

1. [セキュリティ (Security)] カテゴリを開きます。
2. [監査 (Audit)] > [サーバ (Server)] 設定を見つけて、監査サーバの [アドレス (Address)] を入力します。
[ポート割り当て (PortAssignment)] を [手動 (Manual)] に設定した場合は、監査サーバの [ポート (Port)] 番号も入力する必要があります。
[保存 (Save)] をクリックして変更を有効にします。
3. [監査 (Audit)] > [ロギング (Logging)] > [モード (Mode)] を [外部セキュア (ExternalSecure)] に設定します。
[保存 (Save)] をクリックして変更を有効にします。

安全な監査ロギングについて

監査ロギングを有効にすると、ビデオ システムでのすべてのサインイン アクティビティと設定変更が記録されます。

[セキュリティ (Security)] > [監査 (Audit)] > [ロギング (Logging)] > [モード (Mode)] 設定を使用して、監査ロギングを有効にします。監査ロギングはデフォルトで無効になっています。

ExternalSecure 監査ログ モードでは、ビデオ システムは暗号化された監査ログを外部監査サーバ (syslog サーバ) に送信します。そのサーバの ID は署名された証明書によって検証される必要があります。

監査サーバの署名は、他のサーバ/クライアントと同じ CA リストを使って検証されます。

監査サーバの認証に失敗した場合は、監査ログが外部サーバに送信されません。

Expressway プロビジョニング経由の CUCM 用のプレインストール済み証明書の管理

Web インターフェイスにサインインし、[セキュリティ (Security)] > [認証局 (Certificate Authorities)] に移動して、[プレインストール済み CA (Preinstalled CAs)] タブを開きます。

証明書の表示または無効化

証明書を表示または無効にするには、[詳細... (Details...)] ボタンまたは [無効化 (Disable)] ボタンを使用します。

Certificate Authorities

Custom CAs Preinstalled CAs

This CA list is used for Cisco UCM via Expressway (Edge) provisioning only.

[Configure provisioning now.](#)

These certificates are used to validate the servers contacted over the Internet when the endpoint uses Cisco UCM via Expressway provisioning.

Certificate	Issuer			Disable All
Certificate_01	Issuer_1	Details...	✓	Disable
Certificate_02	Issuer_2	Details...	✓	Disable
Certificate_03	Issuer_3	Details...	✓	Disable

図に示している証明書および証明書発行者は一例です。お使いのシステムには別の証明書があります。

i プレインストール済み証明書を使用する代わりに、必要な証明書を手動で証明書リストに付加することもできます。

信頼できる証明書のリストを更新する方法については、[「信頼できる認証局 \(CA\) のリストの管理」](#)の章を参照してください。

プレインストール済み証明書について

このリスト内のプレインストール済み証明書は、ビデオシステムが Expressway (Edge) 経由で Cisco Unified Communications Manager (CUCM) によってプロビジョニングされた場合にのみ使用されます。

Cisco Expressway インフラストラクチャ証明書のみがこのリストに照らして検査されます。

Cisco Expressway インフラストラクチャ証明書の検証が失敗した場合、ビデオシステムのプロビジョニングと登録は行われません。

ビデオシステムを出荷時の状態にリセットしても、プリインストールされた証明書のリストは削除されません。

CUCM 信頼リストの削除

この章の情報は、Cisco Unified Communications Manager (CUCM) に登録されているビデオ システムにのみ該当します。

Web インターフェイスにサインインして、[セキュリティ (Security)] > [CUCM 証明書 (CUCM Certificates)] に移動します。

CUCM 信頼リストの削除

信頼リストを削除するには、[CTL/ITL の削除 (Delete CTL/ITL)] をクリックします。



一般的に言って、古い CTL (証明書信頼リスト) ファイルと ITL (初期信頼リスト) ファイルを削除すべきではありません。

ただし、次のケースではこれらを削除する必要があります。

- CUCM IP アドレスを変更した場合。
- CUCM クラスタ間でエンドポイントを移動した場合。
- CUCM 証明書を再生成または変更する必要がある場合。

信頼リストのフィンガープリントと証明書についての概要

信頼リストのフィンガープリントとリストの証明書の概要は、Web ページに表示されます。

この情報は、トラブルシューティングに役立つ可能性があります。

信頼リストについての詳細情報

CUCM と信頼リストの詳細については、シスコの Web サイトから入手可能な『*Deployment guide for TelePresence endpoints on CUCM*』をお読みください。

永続モードを変更する

Web インターフェイスにサインインして、[セキュリティ (Security)] > [非永続モード (Non-persistent Mode)] に移動します。

永続状態を確認する

ビデオ システムの現在の永続性ステータスは、アクティブ ラジオ ボタンで示されます。

または、[セットアップ (Setup)] > [ステータス (Status)] > [セキュリティ (Security)] > [永続性 (Persistence)] に移動してステータスを確認できます。

永続設定を変更する

デフォルトでは、すべての永続設定は [永続 (Persistent)] に設定されます。これらの設定を変更する必要があるのは、これらを [非永続 (Non-Persistent)] に変更する場合だけです。

1. 設定、通話履歴、内部ロギング、ローカル電話帳 (ローカル ディレクトリとお気に入り)、および IP 接続 (DHCP) 情報の永続性を設定するラジオ ボタンをクリックします。
2. [保存して再起動... (Save and reboot...)] をクリックします。
ビデオ システムが自動的に再起動します。再起動後に、新しい永続設定に従って動作が変化します。



非永続モードへの切り替え前に保存されたログ、設定、その他のデータは消去/削除されません。

永続モード

デフォルトでは、設定、通話履歴、内部ログ、ローカル電話帳 (ローカル ディレクトリとお気に入りリスト)、IP 接続情報が保存されます。すべての永続性設定は [永続 (Persistent)] に設定されているため、システムを再起動してもこの情報は削除されません。

通常、永続設定は変更しないことを推奨します。**非永続モード**に変更するのは、以前のセッションで記録された情報をユーザが確認したり、トレースバックしたりできないようにする必要がある場合に限ります。

非永続モードでは、システムが再起動されるたびに次の情報が削除または消去されます。

- ・ システム設定の変更
- ・ 発信コールと着信コールに関する情報 (コール履歴)
- ・ 内部ログ ファイル
- ・ ローカル連絡先またはお気に入りリストの変更内容
- ・ 前回のセッションでのすべての IP 関連情報 (DHCP)



非永続モードに変更する前に保存された情報は、自動的に消去または削除されません。このような情報を削除するには、ビデオ システムを工場出荷時設定にリセットする必要があります。

初期設定へのリセットに関する詳細については、「[ビデオ システムを工場出荷時設定にリセットする](#)」の章を参照してください。

強力なセキュリティ モードの設定

Web インターフェイスにサインインして、[セキュリティ (Security)] > [強力なセキュリティ モード (Strong Security Mode)] に移動します。

強力なセキュリティ モードの設定

続行する前に、強力なセキュリティ モードによる影響について注意してお読みください。

1. 強力なセキュリティ モードを使用する場合は、[強力なセキュリティ モードの有効化... (Enable Strong Security Mode...)] をクリックして、表示されるダイアログボックスで選択内容を確認します。

ビデオ システムが自動的に再起動します。

2. プロンプトが表示されたら、パスフレーズを変更します。新しいパスフレーズは、記載されている厳格な基準を満たす必要があります。

システムのパスフレーズを変更する方法については、「[システムのパスフレーズの変更](#)」の章を参照してください。

通常モードに戻る

[強力なセキュリティ モードの無効化... (Disable Strong Security Mode...)] をクリックします。ビデオ システムが通常モードに戻ります。表示されるダイアログボックスで選択内容を確認します。

ビデオ システムが自動的に再起動します。

Strong Security Mode

Strong Security Mode is **not** enabled.

Strong Security Mode is required to adhere to U.S. Department of Defense JITC regulations.

It will introduce the following:

- All users and administrators must change their passphrase and PIN on the next sign in
- New passphrases must meet the following criteria:
 - Minimum 15 characters
 - Minimum 2 uppercase alphabetic characters
 - Minimum 2 lowercase alphabetic characters
 - Minimum 2 numerical characters
 - Minimum 2 non-alphanumeric (special) characters
 - No more than 2 consecutive characters may be the same
 - Must be different from the last 10 previous passphrases used
 - Not more than 2 characters from the previous passphrase can be in the same position
- Passphrases must be changed at least every 60 days
- Passphrases cannot be changed more than once per 24 hours
- 3 failed signins will lock the user account until an administrator re-activates the account

[Enable Strong Security Mode...](#)

Strong Security Mode

Strong Security Mode is **enabled**.

[Disable Strong Security Mode...](#)

強力なセキュリティ モードについて

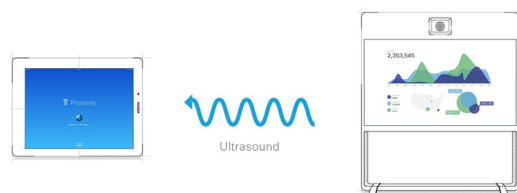
強力なセキュリティ モードは、DoD JITC 規制への準拠が必要な場合にのみ使用してください。

強力なセキュリティ モードでは非常に厳格なパスフレーズ要件が設定され、すべてのユーザが次のサインイン時にパスフレーズを変更することを要求します。

コンテンツ共有のために Intelligent Proximity をセットアップする (1/5 ページ)

Cisco Proximity を使用すると、ユーザは、自分のモバイル デバイス (スマートフォン、タブレット、またはラップトップ) がビデオ システムの近くにある場合に、コンテンツをデバイスで直接表示、制御、キャプチャ、および共有することができます。

モバイル デバイスは、ビデオ システムから送信される超音波の範囲内に入ると、自動的にビデオ システムとペアリングできます。



同時プロキシミティ接続の数は、ビデオ システムのタイプによって異なります。接続の最大数に達するとクライアントは新しいユーザに警告を出します。

ビデオ システム	最大接続数
SX80	10
SX20	7
SX10	7
MX700、MX800	10
MX200 G2、MX300 G2	7
DX70、DX80	3

プロキシミティ サービス

コールの発信とビデオ システムの制御:

- ・ ダイヤル、ミュート、音量の調整、通話の切断
- ・ スマートフォンとタブレット (iOS および Android) で使用可能

モバイル デバイスでの共有コンテンツの表示:

- ・ 共有コンテンツの表示、以前のスライドの再表示、選択したスライドの保存
- ・ スマートフォンとタブレット (iOS および Android) で使用可能
- ・ DX70 と DX80 では、このサービスはコール中にのみ使用可能

デスクトップ クライアントからのワイヤレス共有:

- ・ プレゼンテーション ケーブルを接続しないコンテンツ共有
- ・ ラップトップ (OS X および Windows) で使用可能



コンテンツ シェアリング用のインテリジェント プロキシミティのセットアップ (2/5 ページ)

Cisco Proximity クライアントのインストール

クライアントの入手先

スマートフォンとタブレット (Android および iOS)、およびラップトップ (Windows および OS X) 向けの Cisco Proximity クライアントは、
▶ <http://proximity.cisco.com> から無償でダウンロードできます

スマートフォンやタブレットのクライアントは、Google Play (Android) および Apple App Store (iOS) から直接、入手することもできます。

エンド ユーザ ライセンス契約書

次のページのエンド ユーザ ライセンス契約書をよくお読みください。

▶ http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/warranty/English/EU1KEN_.html

サポートされるオペレーティング システム

- iOS 7 以降
 - Android 4.0 以降
 - Mac OS X 10.9 以降
 - Windows 7 以降
- Windows 8 で導入されたタイル ベースのインターフェイスはサポートされません。

コンテンツ シェアリング用のインテリジェント プロキシミティのセットアップ (3/5 ページ)

超音波放出

シスコのビデオ システムは、プロキシミティ機能の一部として超音波を発します。

[プロキシミティ (Proximity)] > [モード (Mode)] 設定を使用して、プロキシミティ機能 (および超音波放出) を On または off に切り替えます。

業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

人によっては空中の超音波によって何らかの影響を自覚する場合もありますが、75 dB 未満のレベルで影響が生じることはほとんどありません。

SX10N および *MX* シリーズ:

- ・ スピーカーから 50 cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 75 dB 未満になります。

DX70 および *DX80*:

- ・ スピーカーから 20 cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 75 dB 未満になります。

SX10, *SX20*, *SX80*:

- ・ これらのシステムはサードパーティ製スピーカーから超音波を発するため、超音波の音圧レベルを制御できません。

スピーカー自体の音量コントロールと、[周辺機器 (Peripherals)] > [ペアリング (Pairing)] > [超音波 (Ultrasound)] > [音量 (Volume)] > [最大レベル (MaxLevel)] 設定が、超音波の音圧レベルを制御します。リモート コントロールまたはタッチ コントローラの音量制御では超音波の音圧レベルは制御されません。

ヘッドセット

DX70, *DX80*, *SX10N*:

次の理由から、これらのシステムでは常にヘッドセットを使用できます。

- ・ *DX70* および *DX80* にはヘッドセット専用出力があり、この出力から超音波は放出されません。
- ・ *SX10N* には超音波用の内蔵スピーカーがあるため、HDMI 出力またはスピーカー出力から超音波が放出されることはありません。

SX10, *SX20*, *SX80*, または *MX* シリーズ:

- ・ これらのビデオ システムでヘッドセットを使用する場合には、超音波放出をオフにすることを強く推奨します ([プロキシミティ (Proximity)] > [モード (Mode)] を off に設定)。その後はプロキシミティ機能を使用できません。

これらのシステムにはヘッドセット専用出力がないため、接続するヘッドセットからの音圧レベルを制御できません。

SX10 と SX10N

Cisco TelePresence SX10 Quick Set は *SX10* と *SX10N* という 2 つのバージョンで提供されます。

SX10N には超音波用の内蔵スピーカーがありますが、*SX10* には超音波とその他の音声信号に同じスピーカー (サードパーティ) が使用されます。

使用しているバージョンの確認

SX10 または *SX10N* が次の文字列に含まれています。

- ・ ビデオ システムの背面にあるレーティング ラベルの PID フィールドを確認します。
- ・ Web インターフェイスで [セットアップ (Setup)] > [ステータス (Status)] に移動し、[システム ユニット (SystemUnit)] > [ハードウェア (Hardware)] > [UDI] ステータスを確認します。

コンテンツ シェアリング用のインテリジェント プロキシミティのセットアップ (4/5 ページ)

プロキシミティ サービスの有効化

1. Web インターフェイスにサインインして、[セットアップ (Setup)] > [設定 (Configuration)] に移動します。
2. [プロキシミティ (Proximity)] > [モード (Mode)] に移動して、Proximity を On にします。
ビデオ システムで超音波のペアリング メッセージの送信が開始されます。

3. 許可するサービスを有効にします。デフォルトでは [モバイル デバイスからのワイヤレス共有 (Wireless share from a mobile device)] だけが有効になっています。
プロキシミティ機能を完全に利用するためには、すべてのサービスを有効にすることを推奨します。

コールの発信とビデオ システムの制御:

- ・ [プロキシミティ (Proximity)] > [サービス (Services)] > [通話制御 (CallControl)] に移動して、[有効 (Enabled)] を選択します。

モバイル デバイスでの共有コンテンツの表示:

- ・ [プロキシミティ (Proximity)] > [サービス (Services)] > [コンテンツ共有 (ContentShare)] > [クライアントから (FromClients)] に移動して、[有効 (Enabled)] を選択します。

デスクトップ クライアントからのワイヤレス共有:

- ・ [プロキシミティ (Proximity)] > [サービス (Services)] > [コンテンツ共有 (ContentShare)] > [送信先クライアント (ToClients)] に移動して、[有効 (Enabled)] を選択します。

プロキシミティ サービスの一時的な無効化

室内のデバイスがコンテンツを受信しないようにするセッションまたはミーティングでは、ビデオ システムのユーザ インターフェイスを使用してプロキシミティ サービスを一時的に無効にできます。



ビデオ システムはこのようなセッション中に引き続き超音波ペアリング メッセージを送信します。これにより、クライアントが周辺のビデオ システムを認識でき、ユーザに対して接続できない理由を提示できます。

1. ホーム画面またはタッチ コントローラのステータス バーにある設定アイコン(歯車)を選択して、ドロップダウン パネルを開きます。
2. トグル ボタンを使用してプロキシミティをオンまたはオフにします。

プロキシミティ インジケータ

プロキシミティが On であり、1 つ以上のプロキシミティ サービスが有効な場合、プロキシミティ インジケータがメイン ディスプレイとタッチ コントローラの両方に表示されます。

プロキシミティ インジケータには 2 つの状態があります。



プロキシミティ サービスが使用可能です。



プロキシミティ サービスが一時的に無効です。プロキシミティ サービスを再び使用可能にするには、[設定 (Settings)] ドロップダウン パネルのトグル ボタンを使用します。

プロキシミティについて

サードパーティ製スピーカーの使用時にプロキシミティが期待どおりに動作するように追加テストが必要な可能性があるため、プロキシミティ機能はデフォルトで off になっています。超音波によってまれにオーディオ アーチファクトが生じることがあります。このアーチファクトが生じた場合、[周辺機器 (Peripherals)] > [ペアリング (Pairing)] > [超音波 (Ultrasound)] > [音量 (Volume)] > [最大レベル (MaxLevel)] の設定を使用して超音波の最大音量を下げることを検討してください。

プロキシミティがオンになっていると、ビデオ システムは超音波のペアリング メッセージを発信します。

超音波のペアリング メッセージは、Proximity クライアントがインストールされた近くにあるデバイスによって受信され、デバイスの認証および許可をトリガーします。

セットアップでプロキシミティが適切であることを確認した場合には、最適なユーザ エクスペリエンスのため、プロキシミティを常にオンにしておくことを推奨します。

プロキシミティに対する完全なアクセス権限を得るためには、プロキシミティ サービス ([プロキシミティ (Proximity)] > [サービス (Services)] > [...]) も [有効 (Enabled)] にする必要があります。

* SX10: プロキシミティ (超音波) をオンに切り替えた場合は、ヘッドセットを使用しないことをお勧めします。
SX10N: ヘッドセットを常に使用できます。

コンテンツ シェアリング用のインテリジェント プロキシミティのセットアップ (5/5 ページ)

部屋についての考慮事項

部屋の音響

- 壁/床/天井の表面が硬い部屋では、音の反響が大きいため問題になる場合があります。会議のエクスペリエンスとインテリジェント プロキシミティのパフォーマンスを最適化するために、会議室の音響処理を常に考慮することを強くお勧めします。
- インテリジェント プロキシミティを有効にしたビデオ システムは、1 部屋で 1 つのみ使用することをお勧めします。複数使用すると電波障害が発生して、デバイスの検出とセッション メンテナンスで問題が生じる可能性があります。

プライバシーについて

シスコ プライバシー ポリシーと Cisco Proximity Supplement で、クライアントでのデータ収集と、この機能を組織に導入するときに考慮する必要があるプライバシーの侵害に関する情報を参照できます。次のページを参照してください。▶ <http://www.cisco.com/web/siteassets/legal/privacy.html>

タッチ コントローラを使用して、プロキシミティ サービスを一時的に無効にできます。これは、会議中に室内のモバイル デバイスでコンテンツを受信できないようにする必要があるセッションや会議で役立ちます。

TRC6 リモート コントロールを使用している場合は、プロキシミティを一時的に無効にすることはできません。

基本的なトラブルシューティング

プロキシミティ クライアントを使用するデバイスを検出できない

- ビデオ システムがスタンバイ モードかどうかを確認します。スピーカーがオフになっている (たとえば、スタンバイ モードの TV) 場合、超音波は送信されません。SX10 に適用されます。SX10N には適用されません。
- スピーカーの音量を確認します。超音波の音量を制御するのは、スピーカー自体の音量コントロールです (リモート コントロールまたは Touch 10 を使用してコントロールされる音量ではありません)。音量が低すぎると、受信デバイスで超音波のペアリング メッセージを検出できません。SX10 に適用されます。SX10N には適用されません。
- 一部の Windows ラップトップでは、超音波の周波数範囲 (20kHz ~ 22 kHz) の音を記録できません。これは、特定のデバイスのサウンドカード、サウンドドライバ、または内部マイクロフォンでの周波数制限が原因である可能性があります。詳細については、サポート フォーラムを参照してください。

オーディオ アーチファクト

- うなりやクリッピング ノイズなどのオーディオ アーチファクトが聞こえる場合は、最大超音波音量を下げます ([周辺装置 (Peripherals)] > [ペアリング (Pairing)] > [超音波 (Ultrasound)] > [音量 (Volume)] > [最大レベル (MaxLevel)])。

ラップトップからコンテンツを共有できない

- コンテンツ共有が機能するためには、ビデオ システムとラップトップを同一ネットワーク上に配置する必要があります。この理由から、ビデオ システムが Expressway 経由で企業ネットワークに接続しており、ラップトップが VPN (VPN クライアントに依存) 経由で接続している場合には、プロキシミティ共有が失敗することがあります。

関連リソース

Cisco Intelligent Proximity のサイト:
▶ <https://www.cisco.com/go/proximity>
サポート フォーラム:
▶ <https://www.cisco.com/go/proximity-support>

ビデオ品質対コール レート比の調整

最適鮮明度プロファイル

最適鮮明度プロファイルは、ビデオ会議室の照明状態とカメラ（ビデオ入力ソース）の品質を反映します。照明の状態およびカメラの品質が優れているほど、使用するプロファイルは高度になります。良い光の条件では、ビデオ エンコーダは指定のコール レートに一層優れた品質（高解像度またはフレーム レート）を提供します。

通常は、[中 (Medium)] プロファイルをお勧めします。ただし照明条件が非常に良好な場合は、プロファイルを決定する前に、さまざまな最適鮮明度プロファイル設定でエンドポイントをテストすることをお勧めします。特定のコール レートの解像度を上げるために、高いプロファイルを設定することもできます。

ビデオ入力品質の設定

最適鮮明度設定を有効にするには、*Video Input Connector n Quality* 設定を **Motion** に設定する必要があります。ビデオ入力の品質を [シャープさ (Sharpness)] に設定すると、エンドポイントはフレーム レートに関係なく、可能な限り高解像度で送信します。

Web インターフェイスにサインインして、[セットアップ (Setup)] > [設定 (Configuration)] に移動します。

1. [ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ n (Connector n)] > [品質 (Quality)] に移動して、ビデオ品質パラメータを [モーション (Motion)] に設定します（コネクタ 1 (内部カメラ) ではこの手順をスキップします）。
2. [ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ n (Connector n)] > [最適鮮明度 (OptimalDefinition)] > [プロファイル (Profile)] に移動して、優先する最適鮮明度プロファイルを選択します。

パケット損失の復元力: ClearPath

ClearPath により、高度なパケット損失復元メカニズムを導入できます。これらのメカニズムは、エラーを起こしやすい環境でビデオ システムを使用した場合の品質を向上させます。

ClearPath はシスコ独自のプロトコルです。CE ソフトウェアを実行するすべてのエンドポイントが ClearPath に対応しています。

関係するエンドポイントとインフラストラクチャ要素が ClearPath に対応している場合、ポイントツーポイント接続 (ホステッド会議を含む) ですべてのパケット損失復元メカニズムが使用されます。

壁紙の選択

Web インターフェイスにサインインして、[セットアップ (Setup)] > [パーソナライゼーション (Personalization)] に移動します。

壁紙の選択

リストから壁紙を選択します。
アクティブな壁紙が強調表示されます。

カスタムの壁紙のアップロード

古いカスタム壁紙を上書きします。


1. [参照... (Browse...)] をクリックして、カスタム壁紙イメージ ファイルを見つけます。
 2. [アップロード (Upload)] をクリックして、ファイルをビデオ システムに保存します。
- サポートされるファイル形式: BMP、GIF、JPEG、PNG

最大ファイル サイズ: 4 MByte


カスタム壁紙をアップロードすると、自動的にアクティブになります。

Personalization


Select active wallpaper




None



Auto



Custom 

Upload custom wallpaper

Only BMP, GIF, JPEG and PNG files smaller than 4MB are supported. Custom wallpapers do not apply to touch panels.

No file selected.

カスタムの壁紙の削除

[削除 (Delete)] を選択すると、ビデオ システムからカスタム壁紙が完全に削除されます。

もう一度使用するには、新たにアップロードする必要があります。

カスタムの壁紙について

企業ロゴまたは別のカスタム画像をメイン ディスプレイの背景に表示したい場合は、カスタムの壁紙をアップロードして、使用できます。

ビデオ システムで一度に保存できるカスタム壁紙は 1 つのみです。新しいカスタム壁紙は、既存の壁紙を上書きします。

カスタムの壁紙を使用すると、次の項目がメイン ディスプレイから削除されます。

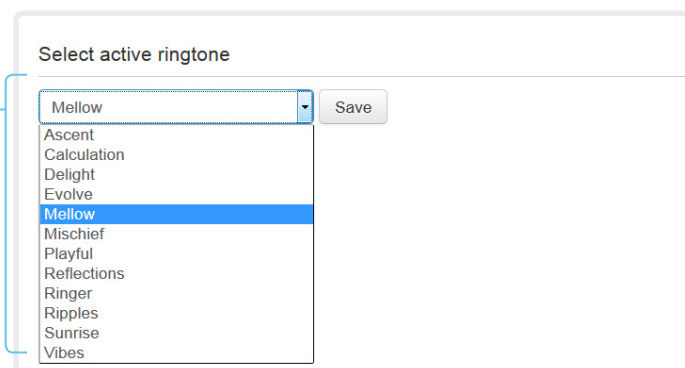
- ・ 大きな時計
- ・ 予定されている会議のリスト

呼出音の選択と呼出音の音量の設定

Web インターフェイスにサインインして、[セットアップ (Setup)] > [パーソナライゼーション (Personalization)] に移動します。

呼び出し音の変更

1. ドロップダウン リストから呼び出し音を選択します。
2. [保存 (Save)] をクリックすると、それがアクティブな呼び出し音になります。



呼び出し音の音量の設定

呼び出し音の音量を調節するにはスライド バーを使用します。



着信音を再生する

呼び出し音を再生するには、再生ボタン (▶) をクリックします。

再生を終了するには、停止ボタン (■) を使用します。

着信音について

一連の呼出音がビデオ システムにインストールされています。Web インターフェイスを使用して呼出音を選択し、呼出音の音量を設定します。

Web インターフェイスから、選択した呼び出し音を再生できます。呼び出し音は、Web インターフェイスを実行しているコンピュータではなく、ビデオ システム自体で再生されることに注意してください。

ローカル連絡先の管理

Web インターフェイスにサインインして、[セットアップ (Setup)] > [ローカル連絡先 (Local Contacts)] に移動します。

ファイルから連絡先をインポート/エクスポート

ローカル連絡先をファイルに保存するには [エクスポート (Export)] をクリックし、ファイルから連絡先を取り入れるには [インポート (Import)] をクリックします。

ファイルから新しい連絡先をインポートすると、現在のすべてのローカル連絡先が破棄されます。

連絡先を追加または編集する

1. [連絡先の追加 (Add contact)] をクリックして新しいローカル連絡先を作成するか、連絡先の名前をクリックしてから [連絡先を編集 (Edit contact)] をクリックします。

2. 表示されたフォームに値を入力するか、更新します。

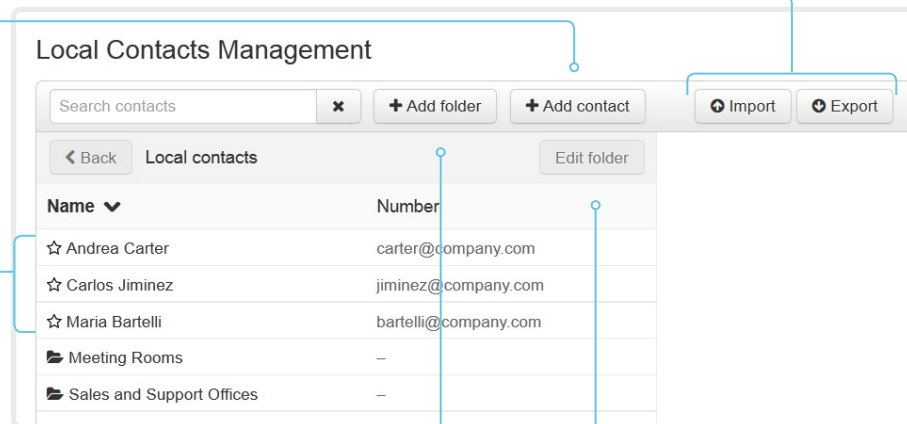
連絡先をサブフォルダに保存するには、フォルダドロップダウン リストでフォルダを選択します。

連絡先に関する複数の連絡方法 (ビデオ アドレス、電話番号、携帯番号など) を保存するには、[連絡方法の追加 (Add contact method)] をクリックして、新しい入力フィールドに値を入力します。

3. [保存 (Save)] をクリックして、ローカル連絡先を保存します。

連絡先の削除

1. [連絡先を編集 (Edit contact)] に続いて連絡先の名前をクリックします。
2. [削除 (Delete)] をクリックしてローカル連絡先を削除します。



サブフォルダを追加または編集する

1. [フォルダの追加 (Add folder)] をクリックして新しいサブフォルダを作成するか、列挙されたサブフォルダのいずれかをクリックして [フォルダの編集 (Edit folder)] をクリックし、既存のサブフォルダを変更します。
2. 表示されたフォームに値を入力するか、更新します。
3. [保存 (Save)] をクリックして、フォルダを作成または更新します。

サブフォルダの削除

1. [フォルダの編集 (Edit folder)] をクリックします。
2. フォルダとそのすべてのコンテンツおよびサブ フォルダを削除するには、[削除 (Delete)] をクリックします。ポップアップするダイアログで選択内容を確認します。

ローカル連絡先の検索場所

タッチ コントローラ: [連絡先 (Contacts)] > [お気に入り (Favorites)] をタップして、ローカルの連絡先すべてを検索します。

リモート コントロールと画面上のメニュー: [コール (Call)] > [ディレクトリ (Directory)] > [ローカル連絡先 (Local contacts)] を選択します。ローカルの連絡先は、フォルダの階層を無視してアルファベット順に表示されます。

Web インターフェイス: [コール制御 (Call Control)] をクリックし、[連絡先 (Contacts)] セクションの [ローカル (Local)] タブを開きます。

お気に入りリスト

[お気に入り (Favorites)] リストは、画面上のメニューでのみ使用できます。[お気に入り (Favorites)] リストは、タッチ コントローラでも Web インターフェイスでも使用できません。

このリストを見つけるには、[発信 (Call)] > [お気に入り (Favorites)] に移動します。[ローカルの連絡先 (Local contacts)] および他の [ディレクトリ (Directory)] のエントリの両方を [お気に入り (Favorites)] リストに追加できます。

また、お気に入りとマークされたディレクトリ エントリは、[ローカルの連絡先 (Local contacts)] のフォルダに自動的にコピーされます。

お気に入りリストへの連絡先の追加

リモート コントロールと画面上のメニュー: 連絡先、... の順に移動します。[お気に入りに設定 (Mark as Favorite)] をクリックします。

Web インターフェイス: [セットアップ (Setup)] > [ローカル連絡先 (Local Contacts)] に移動します。連絡先の横にある星マークをクリックします。

第 3 章

周辺機器

ディスプレイのリアルタイム通信要件

シスコでは、TelePresence エンドポイントでのカメラから画面への遅延を最小限にし、また音声コンポーネントとビデオ コンポーネント間全体の遅延を検出してそれを埋め合わせるために、さまざまな取り組みを行ってきました。

より自然なコミュニケーションを実現するには、遅延の少ないディスプレイを使用することを推奨します。また、多数のディスプレイを注文する前に、サンプルのテストを推奨します。

ほとんどのディスプレイでは、遅延が非常に大きい(100 ms 超)ことが多いため、リアルタイム コミュニケーションの品質に影響します。

次のディスプレイ設定によって遅延が軽減される可能性があります。

- ・ ゲーム モード、*PC* モード、あるいは、応答時間(および通常であれば遅延)を低下させるように設計された同様のモードをアクティブにします
- ・ 遅延を発生させる、動きを円滑化する機能(たとえば、モーション フローやナチュラル モーションなどのビデオ処理)を非アクティブにします
- ・ 音響エコー キャンセルの誤動作を発生させる仮想サラウンド効果やダイナミック コンプレッションなどの高度な音声処理を非アクティブにします
- ・ 別の HDMI 入力に変更する。

Touch 10 コントローラを接続する (1/2 ページ)

Touch 10 を SX10 のインターフェイスとして使用するには、ネットワーク (LAN) を介して Touch 10 とビデオ システムをペアリングする必要があります。これは、リモート ペアリングと呼ばれます。

ネットワーク (LAN) を介したタッチ 10 とビデオ システムの接続

図のように、Touch 10 とビデオ システムを壁のネットワーク ソケットまたはネットワーク スイッチに接続します。

タッチ 10 の設定

タッチ 10 が電源に接続されると、設定手順が始まります。画面に表示される指示に従います。

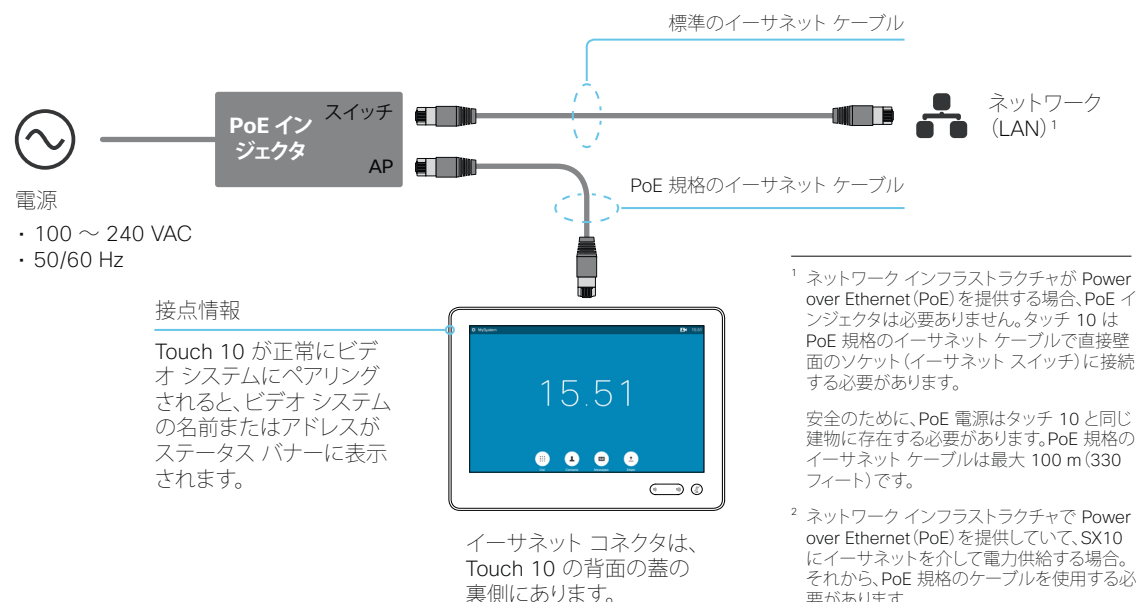
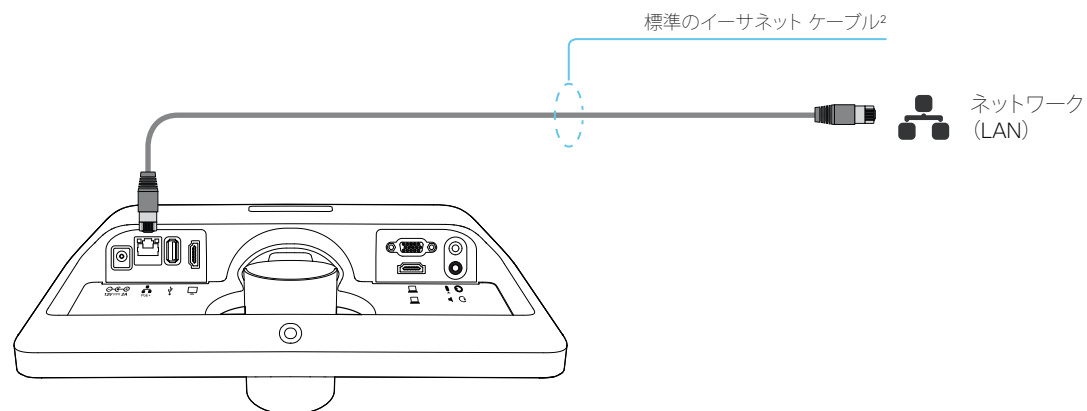
[室内システムを選択 (Select a room system)] 画面が表示されたら、次の点に注意してください。

- ペアリング可能なシグナリング中ビデオ システムのリストが、画面に表示されます。ペアリングするシステムの名前をタップします。
ビデオ システムをリストに表示するには、次を満たしている必要があることに注意してください。
 - ビデオ システムとタッチ 10 が同じサブネット上に存在する必要があります。
 - ビデオ システムは、直近の 10 分間に再起動されている必要があります。ビデオ システムがリストに表示されない場合は、再起動してください。
- ビデオ システムが使用可能なシステムのリストに表示されない場合は、入力フィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力します。[入力 (Enter)] または [続行 (Continue)] をタップします。
- ペアリング プロセスを開始するには、ユーザ名とパスフレーズを使用してログインする必要があります。[ログイン (Login)] または [続行 (Continue)] をタップします。

USER ロールが割り当てられているユーザで十分です。このタスクを実行するには ADMIN ロールは必要ありません。

ユーザ アカウントを作成してロールを割り当てる方法の詳細については、「[ユーザ管理](#)」の章を参照してください。

タッチ 10 にソフトウェアのアップグレードが必要な場合は、設定手順の一部で新しいソフトウェアがビデオ システムからダウンロードされ、自動的にユニットにインストールされます。アップグレード後にタッチ 10 が再起動します。



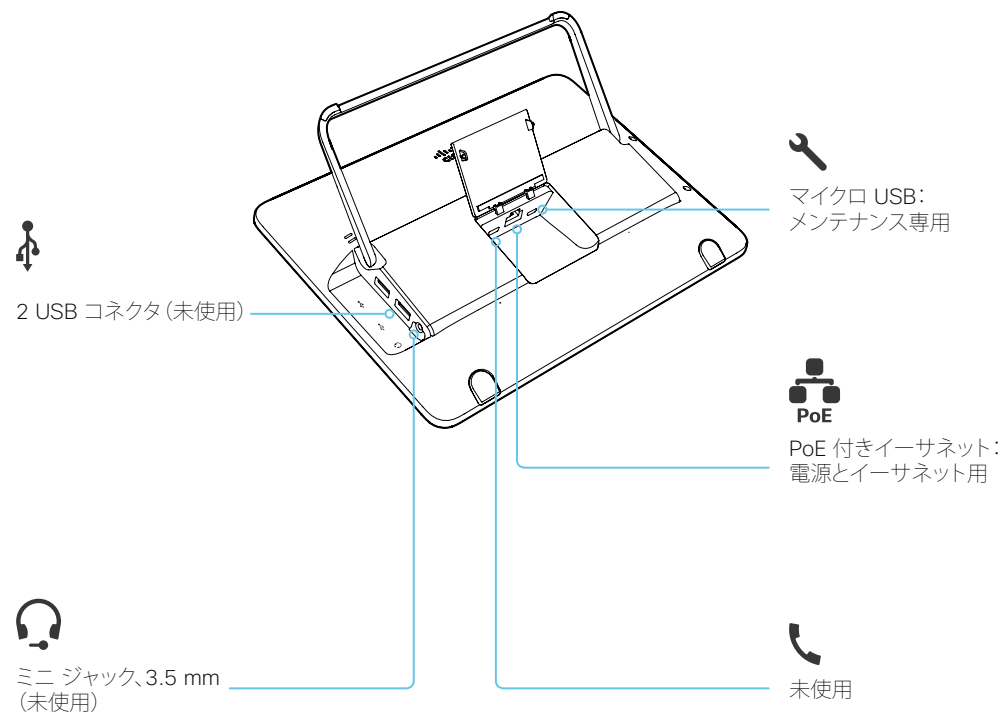
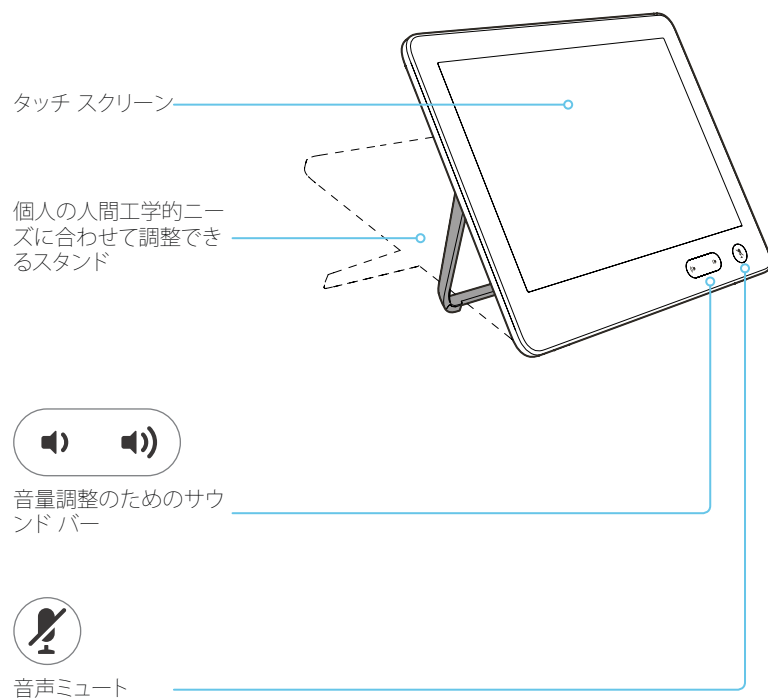
¹ ネットワーク インフラストラクチャが Power over Ethernet (PoE) を提供する場合、PoE インジェクタは必要ありません。タッチ 10 は PoE 規格のイーサネット ケーブルで直接壁面のソケット (イーサネット スイッチ) に接続する必要があります。

安全のために、PoE 電源はタッチ 10 と同じ建物に存在する必要があります。PoE 規格のイーサネット ケーブルは最大 100 m (330 フィート) です。

² ネットワーク インフラストラクチャで Power over Ethernet (PoE) を提供していて、SX10 にイーサネットを介して電力供給する場合。それから、PoE 規格のケーブルを使用する必要があります。

タッチ 10 コントローラの接続 (2/2 ページ)

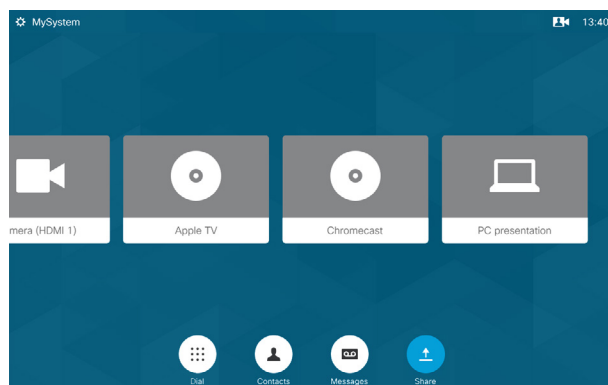
タッチ 10 物理インターフェイス



入力ソース数の増加

タッチ ユーザ インターフェイスをカスタマイズして、サードパーティ製外部ビデオ スイッチに接続している入力ソースを追加できます。

これらのソースは、ビデオ システムに直接接続された他のビデオ ソースと同じように表示され、動作します。



サンプル外部入力ソースが表示されているユーザ インターフェイス

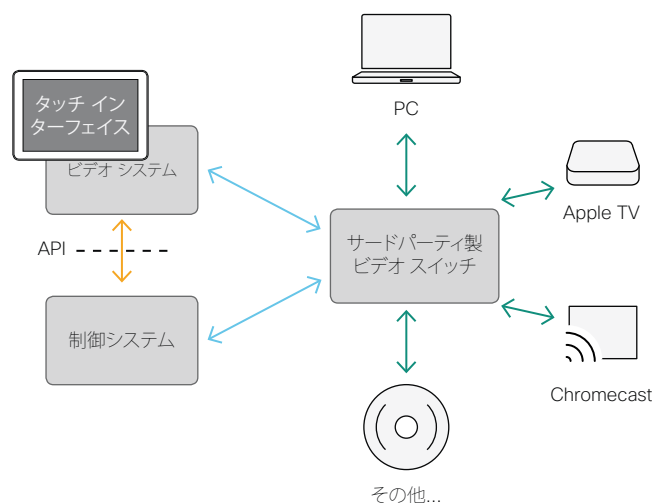
ユーザ インターフェイスの拡張方法とビデオ システムの API を使用した設定方法については、『*In-Room Control guide (室内制御ガイド)*』を参照してください。参照先:

▶ <http://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

アーキテクチャ

タッチ インターフェイス、サードパーティ制御システム (Creston や AMX など)、およびサードパーティ製ビデオ スイッチを備えたシスコ ビデオ システムが必要です。これはビデオ システムではなく、ビデオ スイッチを制御する制御システムです。

制御システムをプログラミングするときには、ビデオ スイッチとタッチ インターフェイスのコントロールに接続するために、ビデオ システムの API (イベントとコマンド)* を使用する必要があります。これにより、実際の入力ソースの状態と、ユーザ インターフェイスで表示、操作される内容を同期できます。



* 制御システムをプログラミングする場合に必要な API コマンドを使用するには、ROOMCONTROL または ADMIN ユーザ ロールが割り当てられているユーザが必要です。

第 4 章 メンテナンス

システム ソフトウェアのアップグレード (1/2 ページ)

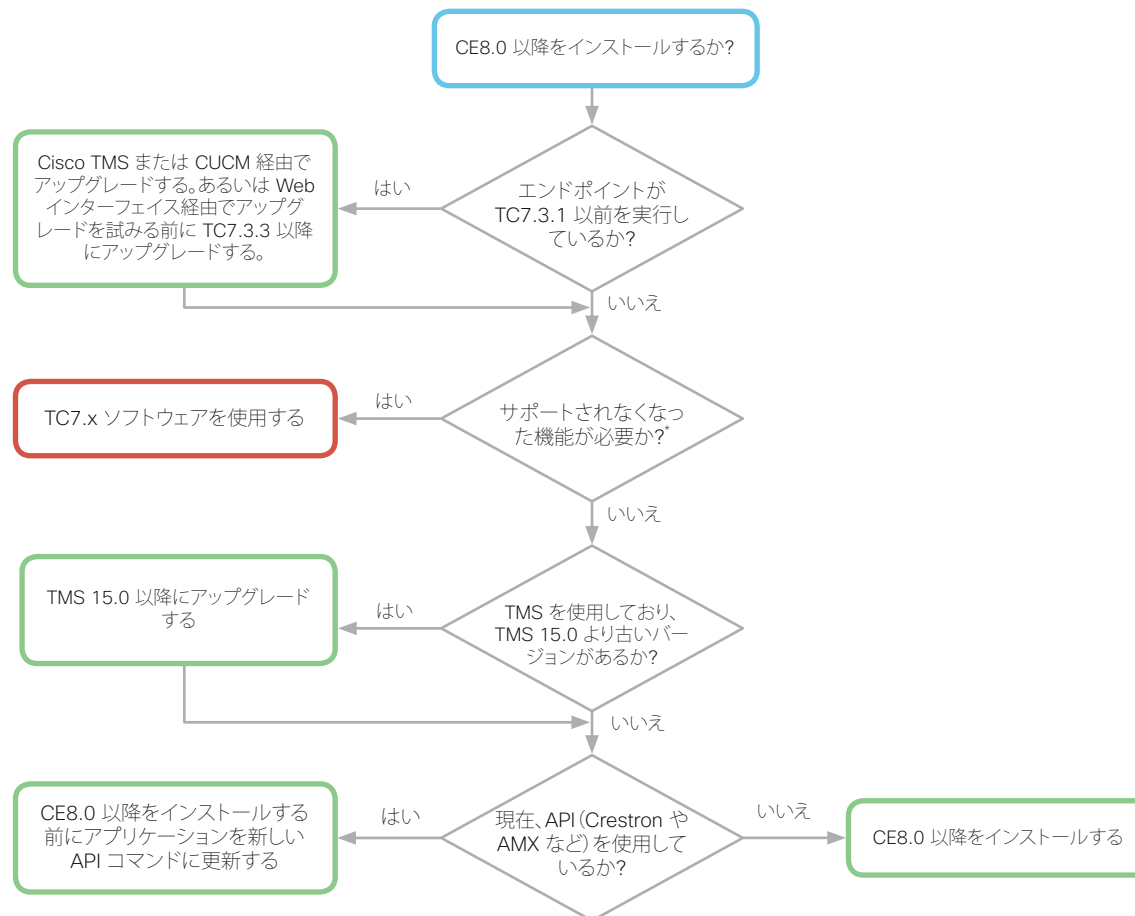
TC から CE ソフトウェアへのアップグレードについて

CE8.x は TC7.x ソフトウェアの進化形です。CE8.x は何年にも及ぶ TC ソフトウェアの開発を受け継ぐと同時にさらに合理化され、品質と機能速度がさらに改善されています。

アップグレードする前に、CE8.x のアップグレード要件と、TC7.x ソフトウェアと比較した機能の違いを注意深く確認することが重要です。

CE8.0 以降へのアップグレードを進める前に、エンドポイントを TC7.3.3 以降にアップグレードすることを強くお勧めします。Web インターフェイスを使って TC7.3.0 および TC7.3.1 から CE ソフトウェアにアップグレードする操作はサポートされていません。

これらの点を考慮せずに CE8.x にアップグレードした場合、導入環境が正常に機能しないためダウングレードが必要になることがあります。



* CE ソフトウェアは次の製品と機能をサポートしません:

- CTMS 会議
- MediaNet
- 4:3 ビデオ解像度

また、CE ソフトウェアは EX シリーズ、C シリーズ、Profile シリーズ、および第一世代の MX200 と MX300 をサポートしないことにも注意してください。

システム ソフトウェアのアップグレード (2/2 ページ)

Web インターフェイスにサインインして、[メンテナンス (Maintenance)] > [ソフトウェアのアップグレード (Software Upgrade)] に移動します。

新しいソフトウェアをダウンロードする

ソフトウェアをダウンロードするには、Cisco Download Software Web ページ (▶ <http://www.cisco.com/cisco/software/navigator.html>) に移動します。次に、お使いの製品に移動します。

ファイル名の形式は「s52030ce8_3_x.pkg」です。各ソフトウェアバージョンに固有のファイル名があります。

ソフトウェア リリース ノート

新情報および変更のすべての概要については、ソフトウェア リリース ノート (CE8) を読むことを推奨します。

詳細: ▶ <http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/telepresence-quick-set-series/tsd-products-support-series-home.html>

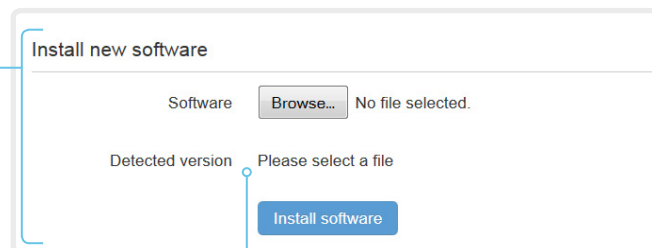
新しいソフトウェアのインストール

該当するソフトウェア パッケージをダウンロードしてコンピュータに保存します。これは .pkg ファイルです。

1. [参照... (Browse...)] をクリックして、新しいソフトウェアを含む .pkg ファイルを探します。
ソフトウェア バージョンが検出され、表示されます。
2. [インストール (Install)] をクリックして、インストール プロセスを開始します。

通常、インストールは 15 分以内に完了します。Web ページから進捗状況を確認できます。インストール後、ビデオ システムは自動的に再起動します。

再起動後に Web インターフェイスで作業を再開するには、再度サインインする必要があります。



ソフトウェア バージョンの確認

ファイルを選択している場合はここにソフトウェアのバージョンが表示されます。

ソフトウェア バージョンについて

このビデオ会議システムは CE ソフトウェアを使用しています。このドキュメントに記載されているバージョンは、CE8.3.x です。

オプション キーの追加

Web インターフェイスにサインインして、[メンテナンス (Maintenance)] > [オプション キー (Option Keys)] に移動します。

すべてのオプション キーのリストが表示されます。これにはビデオ システムにインストールされていないオプション キーも含まれます。

アンインストールしたオプションのオプション キーの取得方法については、シスコの営業担当者にお問い合わせください。

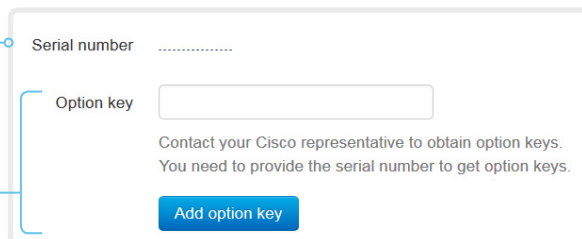
ビデオ システムのシリアル番号

オプション キーの発注時にビデオ システムのシリアル番号が必要となります。

オプション キーの追加

1. テキスト入力フィールドにオプション キーを入力します。
2. [オプション キーの追加 (Add option key)] をクリックします。

オプション キーを複数追加する場合は、すべてのキーに対してこの手順を繰り返してください。



Serial number

Option key

Contact your Cisco representative to obtain option keys.
You need to provide the serial number to get option keys.

[Add option key](#)

オプション キーについて

ビデオ システムには、1 つ以上のソフトウェア オプションがインストールされている場合、またはインストールされていない場合があります。オプションの機能をアクティブするには、対応するオプション キーがビデオ システムに存在する必要があります。

ビデオ システムごとに一意のオプション キーが割り当てられます。

オプション キーは、ソフトウェアのアップグレードまたは出荷時の状態にリセットしても削除されないため、一度追加するだけで済みます。

システム ステータス

システム情報の概要

Web インターフェイスにサインインして、[システム情報 (System Information)] ページを表示します。

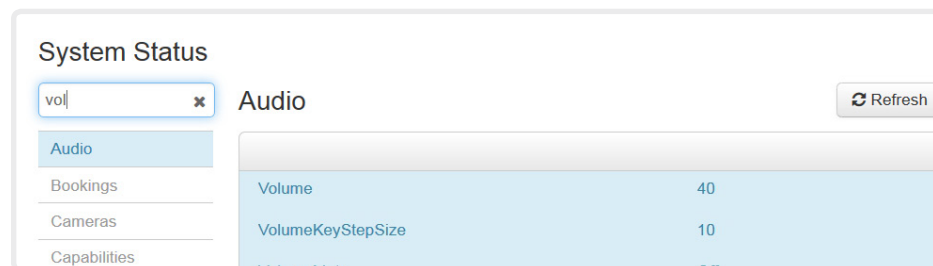
このページには、製品タイプ、システム名、およびハードウェア、ソフトウェア、インストール済みオプション、ネットワーク アドレスに関する基本情報が表示されます。ビデオ ネットワーク (SIP および H.323) の登録ステータスのほか、システムにコールする際に使用する番号および URI も含まれます。

システム ステータスの詳細

Web インターフェイスにサインインして、[セットアップ (Setup)] > [ステータス (Status)] に移動し、より詳細なステータス情報を探します*。

ステータス エントリの検索

検索フィールドに必要な数の文字を入力します。これらの文字を含むすべてのエントリが右側のペインに表示されます。値スペースにこれらの文字が含まれるエントリも表示されます。



System Status

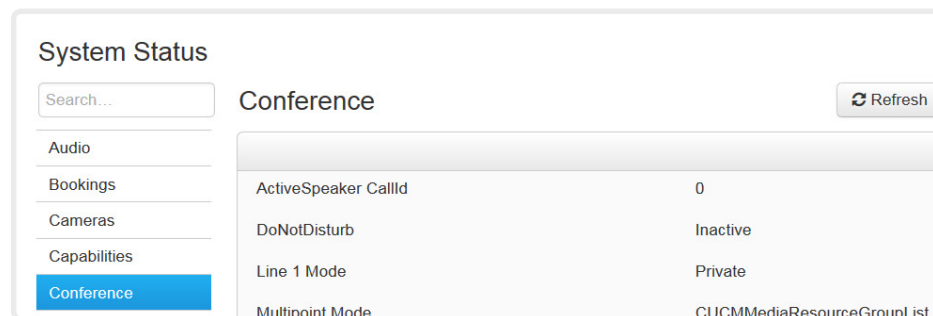
Search: vol ✕ Refresh

Audio

Volume	40
VolumeKeyStepSize	10

カテゴリを選択して適切なステータスに移動する

システム ステータスはカテゴリ別に分類されています。左ペインでカテゴリを選択すると、右側に関連ステータスが表示されます。



System Status

Search: Refresh

Conference

ActiveSpeaker CallId	0
DoNotDisturb	Inactive
Line 1 Mode	Private
Multinoint Mode	CUICMMediaResourceGroup list

* 図に示しているステータスは一例です。お使いのシステムのステータスとは異なる場合があります。

診断の実行

Web インターフェイスにサインインして、[メンテナンス (Maintenance)] > [診断 (Diagnostics)] に移動します。

[診断 (Diagnostics)] ページには、エラーの一般的な原因に関するステータスが表示されます。

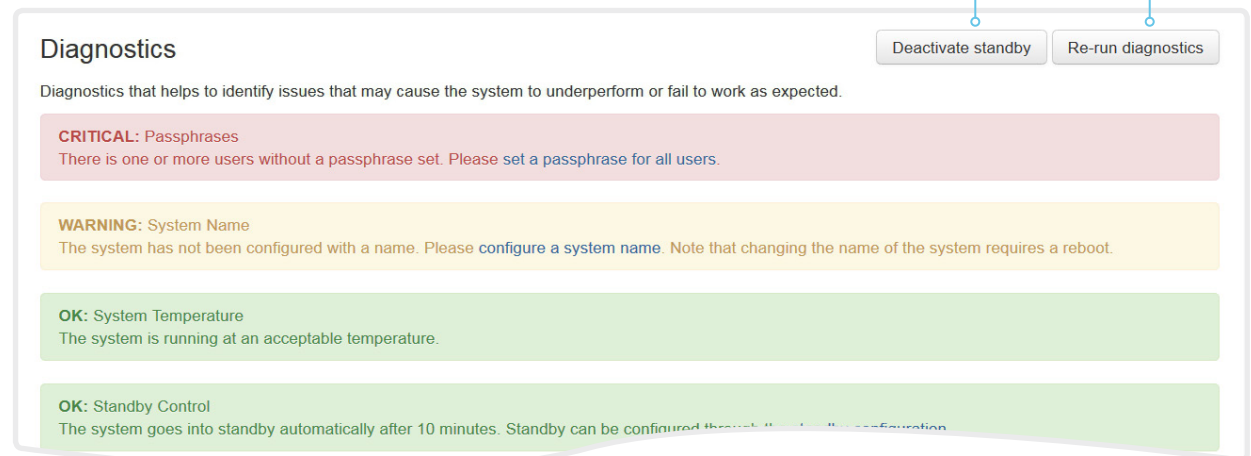
エラーおよび重大な問題は赤、警告は黄色で明確に表示されます。

診断の実行

[診断の再実行 (Re-run diagnostics)] をクリックして、リストが最新であることを確認します。

スタンバイ モードを離れる

[スタンバイの非アクティブ化 (Deactivate standby)] をクリックして、スタンバイモードのビデオ システムを起動します。



Diagnostics

Diagnostics that helps to identify issues that may cause the system to underperform or fail to work as expected.

CRITICAL: Passphrases
There is one or more users without a passphrase set. Please [set a passphrase for all users](#).

WARNING: System Name
The system has not been configured with a name. Please [configure a system name](#). Note that changing the name of the system requires a reboot.

OK: System Temperature
The system is running at an acceptable temperature.

OK: Standby Control
The system goes into standby automatically after 10 minutes. Standby can be configured through the [system configuration](#).

* 図に示しているメッセージは一例です。お使いのシステムでは表示される情報が異なる場合があります。

ログ ファイルのダウンロード

Web インターフェイスにサインインして、[メンテナンス (Maintenance)] > [システム ログ (System Logs)] に移動します。

すべてのログ ファイルのダウンロード

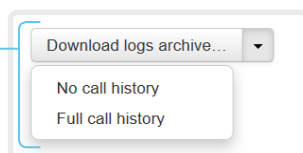
[ログ アーカイブのダウンロード... (Download logs archive...)] をクリックして、手順に従います。

匿名化された通話履歴はログ ファイルにデフォルトで含まれています。

ログ ファイルから通話履歴を除外する場合や、完全な通話履歴 (匿名以外の発信側/着信側) を含める場合は、ドロップダウン リストを使用します。

1 つのログ ファイルを開く/保存

ログ ファイルを開くには Web ブラウザでファイル名をクリックし、ファイルをコンピュータに保存するにはファイル名を右クリックします。



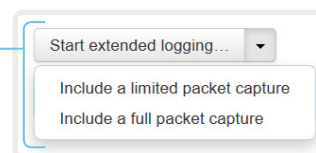
拡張ロギングの開始

[拡張ロギングの開始 (Start extended logging)] をクリックします。

ネットワークトラフィック全部のキャプチャを含めるかどうかによって、拡張ロギングには 3 分または 10 分かかります。

タイムアウトになる前に拡張ロギングを停止するには、[拡張ロギングの停止 (Stop extended logging)] をクリックします。

デフォルトとして、ネットワークトラフィックはキャプチャされません。ネットワークトラフィックの一部または全部のキャプチャを含めるには、ドロップダウン メニューを使用します。



ログ ファイル リストの表示更新

現在のログまたは履歴ログのリストを更新するには、[現在のログ (Current logs)] または [履歴ログ (Historical logs)] の更新ボタンをクリックします。



ログ ファイルについて

ログファイルは、テクニカル サポートが必要な場合に、シスコのサポート組織から要求されることがあるシスコ固有のデバッグ ファイルです。

Current log ファイルはタイムスタンプ付きのイベント ログ ファイルです。

ビデオ システムを再起動するたびに、現在のログ ファイルはタイムスタンプ付きの履歴ログ ファイルにすべてアーカイブされます。履歴ログファイルの最大数に到達すると、最も古いファイルは上書きされます。


拡張ロギング モード

拡張ロギング モードをオンにすると、コールのセットアップ中にネットワークの問題の診断に役立つ場合があります。このモードの間は、より多くの情報がログ ファイルに保存されます。

拡張ロギングはビデオ システムのリソースをより多く使用するため、ビデオ システムのパフォーマンスが低下する可能性があります。拡張ロギング モードは、問題をトラブルシューティングするときのみ使用してください。

リモート サポート ユーザを作成する

Web インターフェイスにログインし、[メンテナンス (Maintenance)] > [システム リカバリ (System Recovery)] に移動して、[リモート サポート ユーザ (Remote Support User)] タブを選択します。

 リモート サポート ユーザは、Cisco TAC によって指示されたトラブルシューティングを行う場合にのみ有効にする必要があります。

リモート サポート ユーザの作成

1. [ユーザの作成 (Create User)] をクリックします。
2. Cisco TAC でケースをオープンします。
3. [トークン (Token)] フィールドのテキストをコピーし、Cisco TAC に送信します。
4. Cisco TAC はパスワードを生成します。

リモート サポート ユーザは 7 日間、または削除されるまで有効です。

The system does not have an active Remote Support User.

Create user

Delete user

This user is valid until
2015-11-11 08:35:06

Token

```
bgD9FjGyIUNn0TB71KcmT1FPnx6uY0vTFy9kpiUa5z1+b
TQek1PaSpsQJNEMfzThgbvK4J7pgOyt4lmCyvxWPGipJQ
GL0ynjvHBvhfqYEsSWwCSSZxQ1wP6bUPQzOSgztZnkOG7
e9CpAoRNq+mZMqEG1lsswKPZ7HYulvyVTH/XuPzU7Nues
9pwzLc8BFgBt1xV0fKeoeOmMX+it1Ecamln41nXlScgOt
yPSXiFWLdKAJsQHJQH20PCxxYcnEUYNpAoJiD39edLy4
etY+/SATwBIiohrgF9JLW9FfNEF+IyDlwUmYkPoEirBj7
N3Zvpivlv1Z7+NUalQW9qWTj4Ag==
```

The system has an active Remote Support User.

Create user

Delete user

リモート サポート ユーザの削除

[ユーザの削除 (Delete User)] をクリックします。

リモート サポート ユーザについて

ビデオ システムに診断の問題がある場合は、リモート サポート ユーザを作成できます。

リモート サポート ユーザにはシステムへの読み取りアクセス権が付与され、トラブルシューティングに役立つ限定された一連のコマンドにアクセスできます。

リモート サポート ユーザのパスワードを取得するには、Cisco Technical Assistance Center (TAC) アシスタントが必要です。

設定をバックアップ、または復元する

Web インターフェイスにログインし、[メンテナンス (Maintenance)] > [バックアップと復元 (Backup and Restore)] に移動します。

現在の設定を表示する

現在の設定を画面上に表示するには、[バックアップのプレビュー (Preview backup)] をクリックします。

現在の設定をバックアップする

設定をテキスト ファイルとして保存するには、[バックアップを取る (Take backup)] をクリックします。

バックアップから設定を復元する

1. [参照... (Browse...)] をクリックし、復元したい設定を含むファイルを探します。
2. システムをファイルで定義されているとおりに再設定するには、[復元 (Restore)] をクリックします。
一部の設定では、設定を有効にするためにビデオ システムを再起動する必要があります。

設定のバックアップについて

[システム設定 (System configuration)] ページで使用可能なすべてのシステム設定は、画面上に一覧表示するか、バックアップ テキスト ファイルとして保存できます。

バックアップ テキスト ファイルをシステムに再度ロードして設定を復元することができます。



CE ソフトウェアを実行中のビデオ システムに、TC ソフトウェアのバックアップ テキスト ファイルを再度ロードすることは推奨されません。

2 つのソフトウェア世代の違いのため、多くの場合、ビデオ システムの設定が不完全になります。

以前に使用していたソフトウェア イメージに復元する

Web インターフェイスにログインし、[メンテナンス (Maintenance)] > [システム リカバリ (System Recovery)] に移動します。

以前に使っていたソフトウェア イメージと交換する前に、ビデオ システムのログ ファイルと設定をバックアップすることを推奨します。

ログ ファイルとシステム設定をバックアップする

1. [バックアップ (Backup)] タブを選択します。
2. [ログのダウンロード (Download Logs)] をクリックし、指示に従ってログ ファイルをコンピュータに保存します。
3. [設定バックアップのダウンロード (Download Configuration Backup)] をクリックし、指示に従って設定ファイルをコンピュータに保存します。

以前に使用していたソフトウェア イメージに復元する

この手順は管理者のみ、またはシスコ テクニカルサポートに連絡した場合にのみ、実行する必要があります。

1. [ソフトウェア リカバリのスワップ (Software Recovery Swap)] タブを選択します。
2. [ソフトウェア cex.y.z... への切り替え (Switch to software cex.y.z...)] をクリックします (x.y.z はソフトウェアのバージョンを示します)。
3. [はい (Yes)] をクリックして選択を確定するか、[キャンセル (Cancel)] をクリックして操作を取り消します。

システムがリセットされるまでお待ちください。終了するとシステムは自動的に再起動します。この手順には数分かかることがあります。

以前使用していたソフトウェア イメージについて

ビデオ システムに重大な問題がある場合は、以前に使用していたソフトウェア イメージに切り替えることで、問題の解決に役立つ場合があります。

ソフトウェアを最後にアップグレードして以降、システムをまだ工場出荷時設定にリセットしていない場合は、以前に使用したソフトウェア イメージがシステム上に残っています。ソフトウェアを再度ダウンロードする必要はありません。

ビデオ システムの工場出荷時設定リセット (1/2 ページ)

ビデオ システムに重大な問題が発生した場合、最後の手段として工場出荷時のデフォルト設定にリセットすることができます。



工場出荷時設定リセットは元に戻すことができません。

工場出荷時の状態にリセットする前に以前使用したソフトウェア イメージに戻すことを常に検討してください。多くの場合これでシステムをリカバリします。ソフトウェアのスワップ(切り替え)については、「[以前使用していたソフトウェア イメージへの復元](#)」の章を参照してください。

ビデオ システムを工場出荷時の状態へリセットするには、Web インターフェイスを使用することを推奨します。Web インターフェイスを使用できない場合は、リセット ボタンを使用してください。

工場出荷時設定にリセットすると、以下のことが行われます。

- 通話履歴が削除されます。
- パスフレーズがデフォルト設定にリセットされます。
- すべてのシステム パラメータがデフォルト値にリセットされます。
- システムにアップロードされていたファイルは、すべて削除されます。これには、カスタムの壁紙、証明書、ローカルの連絡先、およびお気に入りリストが含まれ、またこれに限定されません。
- 以前の(非アクティブな)ソフトウェア イメージが削除されます。
- オプション キーは影響を受けません。

工場出荷時設定リセット後、ビデオ システムは自動的に再起動します。これは、以前と同じソフトウェア イメージを使用しています。

工場出荷時設定リセットを実行する前に、ビデオ システムのログ ファイルと設定をバックアップすることをお勧めします。そうしない場合は、それらのデータが失われます。

ログ ファイルとシステム設定をバックアップする

Web インターフェイスにログインし、[メンテナンス (Maintenance)] > [システム リカバリ (System Recovery)] に移動します。

ログ ファイルとシステム設定をバックアップする

1. [バックアップ (Backup)] タブを選択します。
2. [ログのダウンロード (Download Logs)] をクリックし、指示に従ってログ ファイルをコンピュータに保存します。
3. [設定/バックアップのダウンロード (Download Configuration Backup)] をクリックし、指示に従って設定 ファイルをコンピュータに保存します。

Web インターフェイスを使用して工場出荷時設定にリセットする

工場出荷時設定へのリセットを続行する前に、ビデオ システムのログ ファイルと設定をバックアップすることを推奨します。

Web インターフェイスにログインし、[メンテナンス (Maintenance)] > [システム リカバリ (System Recovery)] に移動します。

1. [初期設定へのリセット (Factory Reset)] タブを選択して、表示される情報を注意深く読みます。
2. [工場出荷時設定へのリセット... (Perform a factory reset...)] をクリックします。
3. [はい (Yes)] をクリックして選択を確定するか、[キャンセル (Cancel)] をクリックして操作を取り止めます。
4. ビデオ システムが工場出荷時のデフォルト設定に戻るまで待ちます。終了するとビデオ システムは自動的に再起動します。数分かかることがあります。

ビデオ システムの工場出荷時設定リセットを確認する通知がメイン画面に表示されます。通知は約 10 秒後に非表示になります。

ビデオ システムの工場出荷時設定リセット (2/2 ページ)

リセット ボタンを使用して工場出荷時設定にリセットする

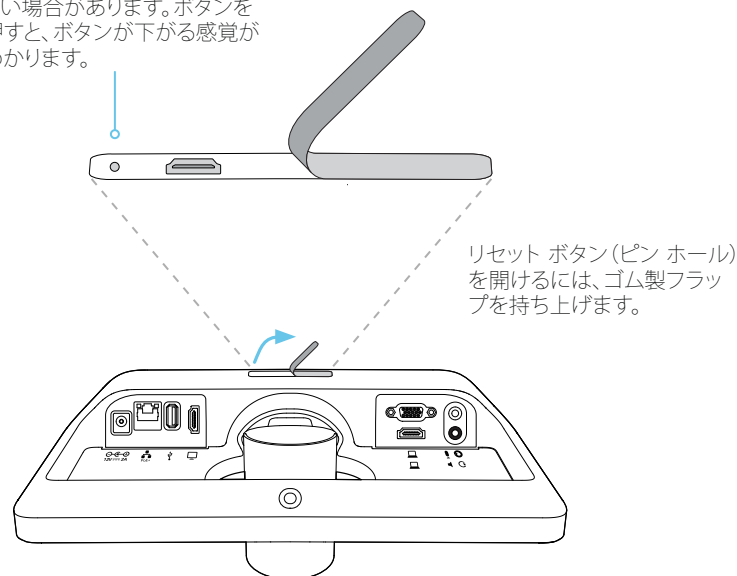
工場出荷時設定へのリセットを続行する前に、ビデオ システムのログ ファイルと設定をバックアップすることを推奨します。

1. リセット ボタン (ピン ホール) を開けるには、ユニット背面のゴム製フラップを持ち上げます。
2. ペン先 (または同等のもの) を使用して、画面が黒くなるまでリセット ボタンを押し続けます (約 10 秒)。その後、ボタンを離します。
3. ビデオ システムが工場出荷時のデフォルト設定に戻るまで待ちます。終了するとビデオ システムは自動的に再起動します。数分かかることがあります。

ビデオ システムの工場出荷時設定リセットを確認する通知がメイン画面に表示されます。通知は約 10 秒後に非表示になります。

リセット ボタン (ピン ホール)

ボタンは引っ込めて取り付けられているため、使用がかなり難しい場合があります。ボタンを押すと、ボタンが下がる感覚がわかります。



Touch 10 を工場出荷時設定へリセットする

エラーが発生した状況では、接続を回復するためにタッチ コントローラを工場出荷時設定にリセットする必要があることがあります。その場合は、必ずシスコのサポート組織に連絡して実行する必要があります。

タッチ コントローラを工場出荷時設定にリセットすると、ペアリング情報が失われ、(ビデオ システムではなく) タッチ自体が工場出荷時の初期状態に戻されます。

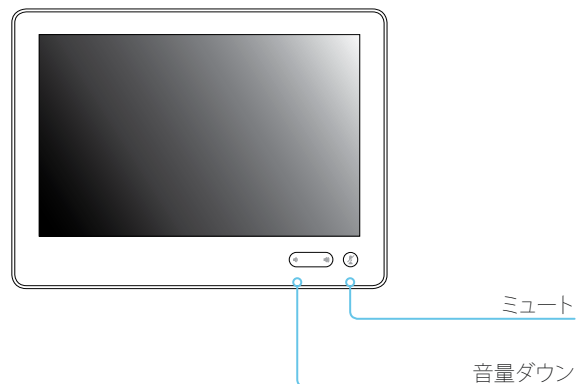


工場出荷時設定リセットは元に戻すことができません。

1. [ミュート (Mute)] ボタンと [音量ダウン (Volume down)] ボタンを見つけます。
2. 点滅 (赤と緑) しはじめるまで、[ミュート (Mute)] ボタンを押します。約 10 秒かかります。
3. [音量ダウン (Volume down)] ボタンを 2 回押します。

タッチ 10 が工場出荷時設定へと自動的に戻され、再起動されます。

タッチ 10 は、ビデオ システムと改めてペアリングする必要があります。ペアリングに成功すると、タッチ 10 はビデオ システムから新しい設定を受け取ります。



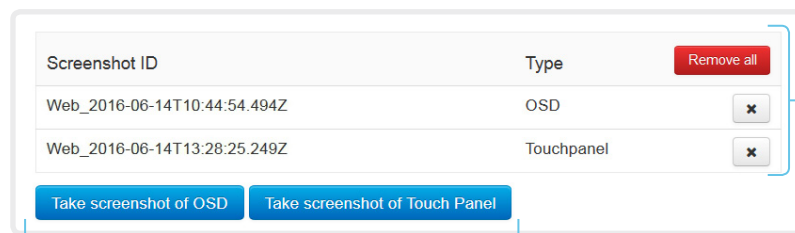
ペアリングと、ビデオ システムに Touch 10 を接続する方法について

タッチ 10 コントローラを使用するには、LAN 経由でタッチ 10 をコーデックとペアリング (リモート ペアリング) する必要があります。

ペアリング、およびビデオ システムへの Touch 10 の接続方法については、「[タッチ 10 コントローラの接続](#)」の章を参照してください。

ユーザ インターフェイスのスクリーンショットのキャプチャ

Web インターフェイスにサインインして、[メンテナンス (Maintenance)] > [ユーザ インターフェイスのスクリーンショット (User Interface Screenshots)] に移動します。



スクリーンショットのキャプチャ

[タッチ パネルのスクリーンショットを撮る (Take screenshot of Touch Panel)] をクリックし、タッチ コントローラのスクリーンショットをキャプチャするか、[OSD のスクリーンショットを撮る (Take screenshot of OSD)] をクリックして画面上の表示のスクリーンショットをキャプチャします。

スクリーンショットはボタンの下の領域に表示されます。スクリーンショットの準備ができるまでに最大 30 秒かかる場合があります。

キャプチャされたすべてのスナップショットはボタンの上のリストに含まれています。スクリーンショット ID をクリックするとイメージが表示されます。

スクリーンショットの削除

すべてのスクリーンショットを削除する場合は、[すべて削除 (Remove all)] をクリックします。

1 つのスクリーンショットのみを削除するには、そのスクリーンショットの **x** ボタンをクリックします。

ユーザ インターフェイスのスクリーンショットについて

ビデオ システムに接続されたタッチ コントローラと、画面上の表示 (メイン ディスプレイのメニュー、インジケータ、メッセージ) の両方のスクリーンショットをキャプチャできます。

第 5 章

システム設定

システム設定の概要

これ以降のページでは、Web インターフェイス上の [セットアップ (Setup)] > [設定 (Configuration)] ページで設定されるすべてのシステム設定のリストが表示されます。

Web ブラウザを開き、ビデオ システムの IP アドレスを入力して、サインインします。



IP アドレスの検索方法

1. ホーム画面またはタッチ コントローラのステータス バーにある設定アイコン (歯車) を選択します。
2. リモート コントロールで [システム情報 (System Information)] を選択するか、またはタッチ コントローラで [設定 (Settings)] > [システム情報 (System Information)] を選択します。

音声設定	75
Audio DefaultVolume	75
Audio Input Microphone [1..2] Mode	76
Audio Input Microphone [2] EchoControl Dereverberation	76
Audio Input Microphone [2] EchoControl Mode	75
Audio Input Microphone [2] EchoControl NoiseReduction	76
Audio Input Microphone [2] Level	76
Audio Microphones Mute Enabled	75
Audio Output Line [1] Delay DelayMs	76
Audio Output Line [1] Delay Mode	76
Audio SoundsAndAlerts RingTone	75
Audio SoundsAndAlerts RingVolume	75
CallHistory 設定	77
CallHistory Mode	77
カメラ 設定	78
Cameras Camera [1] Backlight DefaultMode	78
Cameras Camera [1] Brightness DefaultLevel	78
Cameras Camera [1] Brightness Mode	78
Cameras Camera [1] Flip	78
Cameras Camera [1] Focus Mode	78
Cameras Camera [1] Mirror	79
Cameras Camera [1] Whitebalance Level	79
Cameras Camera [1] Whitebalance Mode	79
会議 設定	80
Conference ActiveControl Mode	80
Conference AutoAnswer Delay	80
Conference AutoAnswer Mode	80
Conference AutoAnswer Mute	80
Conference CallProtocolIPStack	80
Conference DefaultCall Rate	81
Conference DoNotDisturb DefaultTimeout	81
Conference Encryption Mode	81
Conference FarEndControl Mode	81
Conference FarEndControl SignalCapability	81
Conference MaxReceiveCallRate	81

Conference MaxTotalReceiveCallRate	82	Network [1] IEEE8021X Eap Ttl	90
Conference MaxTotalTransmitCallRate	82	Network [1] IEEE8021X Identity	90
Conference MaxTransmitCallRate	82	Network [1] IEEE8021X Mode	89
Conference MicUnmuteOnDisconnect Mode	82	Network [1] IEEE8021X Password	90
Conference Presentation OnPlacedOnHold	82	Network [1] IEEE8021X TlsVerify	89
Conference VideoBandwidth Mode	82	Network [1] IEEE8021X UseClientCertificate	89
Conference VideoBandwidth PresentationChannel Weight	83	Network [1] IPStack	91
FacilityService 設定	84	Network [1] IPv4 Address	91
FacilityService Service [1..5] CallType	84	Network [1] IPv4 Assignment	91
FacilityService Service [1..5] Name	84	Network [1] IPv4 Gateway	91
FacilityService Service [1..5] Number	84	Network [1] IPv4 SubnetMask	91
FacilityService Service [1..5] Type	84	Network [1] IPv6 Address	92
H323 設定	85	Network [1] IPv6 Assignment	92
H323 Authentication LoginName	85	Network [1] IPv6 DHCPOptions	92
H323 Authentication Mode	85	Network [1] IPv6 Gateway	92
H323 Authentication Password	85	Network [1] MTU	92
H323 CallSetup Mode	85	Network [1] QoS Diffserv Audio	93
H323 Encryption KeySize	86	Network [1] QoS Diffserv Data	93
H323 Gatekeeper Address	86	Network [1] QoS Diffserv ICMPv6	94
H323 H323Alias E164	86	Network [1] QoS Diffserv NTP	94
H323 H323Alias ID	86	Network [1] QoS Diffserv Signalling	93
H323 NAT Address	87	Network [1] QoS Diffserv Video	93
H323 NAT Mode	86	Network [1] QoS Mode	92
H323 PortAllocation	87	Network [1] RemoteAccess Allow	94
ログ 設定	88	Network [1] Speed	94
Logging External Mode	88	Network [1] TrafficControl Mode	95
Logging External Protocol	88	Network [1] VLAN Voice Mode	95
Logging External Server Address	88	Network [1] VLAN Voice VlanId	95
Logging External Server Port	88	NetworkServices 設定	96
Logging Mode	88	NetworkServices CDP Mode	96
ネットワーク 設定	89	NetworkServices H323 Mode	96
Network [1] DNS Domain Name	89	NetworkServices HTTP Mode	96
Network [1] DNS Server [1..3] Address	89	NetworkServices HTTPS OCSP Mode	97
Network [1] IEEE8021X AnonymousIdentity	90	NetworkServices HTTPS OCSP URL	97
Network [1] IEEE8021X Eap Md5	90	NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate	97
Network [1] IEEE8021X Eap Peap	91	NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate	96
Network [1] IEEE8021X Eap Tls	90	NetworkServices NTP Mode	97
		NetworkServices NTP Server [1..3] Address	97
		NetworkServices SIP Mode	97

NetworkServices SNMP CommunityName	98	Proximity Services ContentShare FromClients	107
NetworkServices SNMP Host [1..3] Address	98	Proximity Services ContentShare ToClients	107
NetworkServices SNMP Mode	98	RoomReset 設定	108
NetworkServices SNMP SystemContact	98	RoomReset Control	108
NetworkServices SNMP SystemLocation	98	RTP 設定.....	109
NetworkServices SSH AllowPublicKey.....	99	RTP Ports Range Start	109
NetworkServices SSH Mode	99	RTP Ports Range Stop	109
NetworkServices Telnet Mode	99	セキュリティ 設定	110
NetworkServices UPnP Mode	99	Security Audit Logging Mode	110
NetworkServices UPnP Timeout.....	99	Security Audit OnError Action	110
NetworkServices WelcomeText.....	100	Security Audit Server Address.....	110
NetworkServices XMLAPI Mode	100	Security Audit Server Port	111
周辺機器 設定.....	101	Security Audit Server PortAssignment	111
Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing	101	Security Session InactivityTimeout	111
Peripherals Pairing Ultrasound Volume MaxLevel	101	Security Session MaxSessionsPerUser	111
Peripherals Pairing Ultrasound Volume Mode	101	Security Session MaxTotalSessions.....	111
Peripherals Profile Cameras	101	Security Session ShowLastLogon	111
Peripherals Profile ControlSystems.....	102	SerialPort 設定	112
Peripherals Profile TouchPanels.....	102	SerialPort LoginRequired	112
Phonebook 設定	103	SerialPort Mode.....	112
Phonebook Server [1] ID.....	103	SIP 設定.....	113
Phonebook Server [1] Type	103	SIP ANAT	113
Phonebook Server [1] URL	103	SIP Authentication Password	113
プロビジョニング 設定	104	SIP Authentication UserName	113
Provisioning Connectivity.....	104	SIP DefaultTransport	113
Provisioning ExternalManager Address.....	105	SIP DisplayName	113
Provisioning ExternalManager AlternateAddress.....	105	SIP Ice DefaultCandidate	114
Provisioning ExternalManager Domain.....	106	SIP Ice Mode	114
Provisioning ExternalManager Path.....	105	SIP Line	114
Provisioning ExternalManager Protocol.....	105	SIP ListenPort	114
Provisioning HttpMethod.....	105	SIP Mailbox.....	114
Provisioning LoginName	104	SIP PreferredIPMedia	115
Provisioning Mode	104	SIP PreferredIPSignaling.....	115
Provisioning Password.....	105	SIP Proxy [1..4] Address.....	115
プロキシミティ 設定.....	107	SIP TlsVerify	115
Proximity Mode.....	107	SIP Turn DiscoverMode	115
Proximity Services CallControl	107	SIP Turn DropRflx	115

SIP Turn Password.....	116
SIP Turn Server.....	116
SIP Turn UserName.....	116
SIP Type.....	116
SIP URI.....	116
Standby 設定	117
Standby AudioMotionDetection.....	117
Standby BootAction.....	117
Standby Control.....	117
Standby Delay.....	117
Standby StandbyAction.....	117
Standby WakeupAction.....	118
SystemUnit 設定	119
SystemUnit Name.....	119
時刻設定	120
Time DateFormat.....	120
Time TimeFormat.....	120
タイムゾーン	121
UserInterface 設定	123
UserInterface ContactInfo Type.....	123
UserInterface KeyTones Mode.....	123
UserInterface Language	123
UserInterface OSD EncryptionIndicator	123
UserInterface OSD Output.....	124
UserInterface UserPreferences	124
UserInterface Wallpaper	124
UserManagement 設定	125
UserManagement LDAP Admin Filter	126
UserManagement LDAP Admin Group	126
UserManagement LDAP Attribute.....	126
UserManagement LDAP Encryption.....	125
UserManagement LDAP MinimumTLSVersion	125
UserManagement LDAP Mode	125
UserManagement LDAP Server Address.....	125
UserManagement LDAP Server Port	125
UserManagement LDAP VerifyServerCertificate	126

ビデオ設定	127
Video ActiveSpeaker DefaultPIPPosition.....	127
Video DefaultLayoutFamily Local	127
Video DefaultLayoutFamily Remote	128
Video DefaultMainSource	128
Video Input Connector [1..3] CameraControl Cameramd	128
Video Input Connector [1..3] CameraControl Mode.....	128
Video Input Connector [1..3] InputSourceType.....	129
Video Input Connector [1..3] Name	129
Video Input Connector [1..3] OptimalDefinition Profile	129
Video Input Connector [1..3] Visibility	130
Video Input Connector [2..3] PresentationSelection	130
Video Input Connector [2..3] Quality.....	129
Video Input Connector [2] RGBQuantizationRange	130
Video Monitors	131
Video Output Connector [1] CEC Mode.....	131
Video Output Connector [1] OverscanLevel.....	131
Video Output Connector [1] Resolution	131
Video Output Connector [1] RGBQuantizationRange	132
Video Presentation DefaultPIPPosition.....	132
Video Presentation DefaultSource	132
Video Selfview Default FullscreenMode.....	133
Video Selfview Default Mode.....	132
Video Selfview Default PIPPosition	133
Video Selfview OnCall Duration	133
Video Selfview OnCall Mode	133
Experimental 設定	134

音声設定

Audio DefaultVolume

スピーカーのデフォルトの音量を定義します。ビデオ システムをオンにするか再起動すると、音量がこの値に設定されます。ビデオ システムの稼働中に音量を変更するには、タッチ コントローラまたはリモコンを使用します。また、API コマンド (xCommand Audio Volume) を使用して、ビデオ システムの稼働中に音量を変更したり、デフォルト値にリセットしたりすることもできます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: 50

値スペース: 整数 (0 ～ 100)

1 ～ 100 の値を選択します。これは -34.5 dB ～ 15 dB (0.5 dB 刻み) の範囲に相当します。0 に設定すると、音声が入力になります。

Audio Microphones Mute Enabled

ビデオ システムでのマイク ミュートの動作を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: True

値スペース: True/InCallOnly

True: 音声ミュートが使用可能になります。

InCallOnly: 音声ミュートはデバイスがコール中の場合にだけ使用できます。アイドル状態のときは、マイクをミュートにできません。これは、外部の電話サービス/音声システムがコーデックで接続され、コーデックがコール中でないときに使用可能にする場合に便利です。InCallOnly に設定すると、音声システムが誤ってミュートにされることを防止できます。

Audio SoundsAndAlerts RingTone

着信コールに使用する呼び出し音を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Sunrise

値スペース: Sunrise/Mischief/Ripples/Reflections/Vibes/Delight/Evolve/Playful/Ascent/Calculation/Mellow/Ringer

リストから呼び出し音を選択します。

Audio SoundsAndAlerts RingVolume

着信コールの着信音量を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: 50

値スペース: 整数 (0 ～ 100)

値は 5 刻みで 0 ～ 100 (-34.5 dB ～ 15 dB) になります。音量 0 = オフです。

Audio Input Microphone [2] EchoControl Mode

エコー キャンセラは音声環境で検出された変更があると、室内の音声特性に合わせて継続的に自己調整を行います。音声条件が大きく変更されている場合、エコー キャンセラの再調整に 1 ～ 2 秒かかることがあります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: エコー制御をオフにします。外部のエコー キャンセレーションまたは再生機器を使用している場合に推奨されます。

On: エコー制御をオンにします。遠端に自らの音声がかき消えないようにするため、通常は推奨されます。選択すると、エコー キャンセレーションは常にアクティブになります。

Audio Input Microphone [2] EchoControl NoiseReduction

システムには一定の背景雑音 (空調システム、冷却ファンのノイズなど) を減らす組み込みノイズリダクションが備わっています。さらに、ハイパスフィルタ (Humpfilter) は低周波ノイズを削減します。ノイズリダクションを使用するには、Audio Input Microphone [n] EchoControl Mode が有効になっている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: ノイズリダクションをオフにします。

On: ノイズリダクションをオンにします。低周波ノイズがある場合に推奨されます。

Audio Input Microphone [2] EchoControl Dereverberation

システムには室内の残響を減らす組み込みの信号処理が備わっています。残響抑圧を使用するには、Audio Input Microphone [n] EchoControl Mode が有効になっている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: 残響をオフにします。

On: 残響をオンにします。

Audio Input Microphone [2] Level

マイク入力コネクタの音声レベルを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 17

値スペース: 整数 (0 ~ 24)

0 ~ 24 dB の値を 1 dB 刻みで選択します。

Audio Input Microphone [1..2] Mode

マイクコネクタの音声を無効または有効にします。Microphone [1] はビデオシステムの内蔵マイクであることに注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: 音声入力マイクのコネクタを無効にします。

On: 音声入力マイクのコネクタを有効にします。

Audio Output Line [1] Delay DelayMs

リップシンクを取得するには、各音声ライン出力で、他の接続デバイス (TV、外付けスピーカーなど) の遅延に合わせた追加の遅延を設定できます。ここで設定する遅延は、Audio Output Line [n] Delay Mode 設定の定義に基づき、一定の遅延、または HDMI 出力の遅延に相対的な遅延のいずれかです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

値スペース: 整数 (0 ~ 290)

遅延 (ミリ秒単位)。

Audio Output Line [1] Delay Mode

Audio Output Line [n] Delay DelayMs 設定を使用して音声ライン出力に遅延を追加できます。追加する遅延は、固定ミリ秒数、または HDMI 出力で検出される遅延 (通常、接続する TV が原因で発生する遅延) に基づくミリ秒数です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: RelativeToHDMI

値スペース: Fixed/RelativeToHDMI

Fixed: 出力に追加される遅延 (DelayMs) はすべて、固定のミリ秒数です。

RelativeToHDMI: 出力に追加される遅延 (DelayMs) はすべて、HDMI 出力で検出される遅延に基づきます。実際の遅延は HDMI 遅延 + DelayMs です。Audio Output Connectors Line [n] DelayMs ステータスは、実際の遅延を示します。

CallHistory 設定

CallHistory Mode

発信または受信されたコールに関する情報を保存するかどうかを決定します (通話履歴)。これには、不在着信と応答されなかったコールが含まれます。これにより、ユーザ インターフェイスの Recents リストにコールが表示されるかどうかが決まります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: 新しいエントリは通話履歴に追加されません。

On: 新しいエントリが通話履歴リストに保存されます。

カメラ 設定

Cameras Camera [1] Backlight DefaultMode

この設定は、逆光補正をオンまたはオフにします。逆光補正は、部屋の中で人物の背後に強い光がある場合に役立ちます。逆光補正がないと、こちらの画像が相手に非常に暗い状態で見えてしまいます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: カメラの逆光補正をオフにします。

On: カメラの逆光補正をオンにします。

Cameras Camera [1] Brightness Mode

カメラの明るさモードを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Auto

値スペース: Auto/Manual

Auto: カメラの明るさはシステムによって自動的に設定されます。

Manual: カメラの明るさの手動設定をイネーブルにします。明るさのレベルは Cameras Camera [n] Brightness DefaultLevel 設定を使用して設定されます。

Cameras Camera [1] Brightness DefaultLevel

明るさのレベルを定義します。Cameras Camera [n] Brightness Mode を [手動 (Manual)] に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: 20

値スペース: 整数 (1 ~ 31)

明るさレベル。

Cameras Camera [1] Flip

フリップ モード (垂直フリップ) を使用すると、画像を上下反転できます。フリッピングは、セルフビューおよび遠端に送信されるビデオの両方に適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Auto

値スペース: Auto

Auto: 上下逆にマウントされたことをカメラが検出すると、画像が自動的に反転します。

Cameras Camera [1] Focus Mode

カメラのフォーカス モードを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Auto

値スペース: Auto/Manual

Auto: コールが接続されると、カメラはオートフォーカスになります。カメラの移動 (パン、チルト、ズーム) 後も同様です。システムは、オートフォーカスを数秒間だけ使用して正しい焦点に設定します。その後、オートフォーカスはカメラが焦点調整し続けることを防ぐためオフになります。

Manual: オートフォーカスをオフにし、カメラの焦点を手動で調整します。

Cameras Camera [1] Mirror

ミラー モード (水平反転) を使用して画面の画像を反転できます。ミラーリングは、セルフビューおよび遠端に送信されるビデオの両方に適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Auto

値スペース: Auto/Off/On

Auto: 上下逆にマウントされたことをカメラが検出すると、画像が自動的に反転します。上下逆にマウントされたかどうかをカメラが自動的に検出できない場合、画像は変更されません。

Off: 他人から見えている自分のように画像を表示します。

On: 鏡に映っている自分のように画像を表示します。

Cameras Camera [1] Whitebalance Mode

カメラのホワイト バランス モードを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Auto

値スペース: Auto/Manual

Auto: カメラはカメラのビューに合わせて常にホワイト バランスを調整します。

Manual: カメラのホワイトバランスの手動設定をイネーブルにします。ホワイト バランスのレベルは Cameras Camera [n] Whitebalance Level 設定を使用して設定します。

Cameras Camera [1] Whitebalance Level

ホワイト バランスのレベルを定義します。Cameras Camera [n] Whitebalance Mode を [手動 (Manual)] に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: 1

値スペース: 整数 (1 ~ 16)

ホワイト バランスのレベル。

会議 設定

Conference ActiveControl Mode

アクティブ コントロールは、会議参加者がビデオ システムのインターフェイスを使用して Cisco TelePresence Server または Cisco Meeting Server の会議を管理するためのツールです。各ユーザは、参加者リストの表示、ビデオ レイアウトの変更、参加者の接続解除などをインターフェイスから行えます。アクティブ コントロール機能は、インフラストラクチャ (Cisco Unified Communications Manager (CUCM) バージョン 9.1.2 以降、Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS) バージョン X8.1 以降、Cisco Media Server (CMS) バージョン 2.1 以降) でサポートされている限り、デフォルトで有効です。アクティブ コントロール機能を無効にするには、この設定を変更します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

値スペース: Auto/Off

Auto: アクティブ コントロールがインフラストラクチャでサポートされている場合にイネーブルになります。

Off: アクティブ コントロールはディセーブルです。

Conference AutoAnswer Mode

自動応答モードを定義します。コールに応答する前に数秒間待機する場合は Conference AutoAnswer Delay 設定を使用し、コールに応答するときにマイクをミュートする場合は Conference AutoAnswer Mute 設定を使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

off: 着信コールに手動で応答するには、リモート コントロールの OK キーまたは緑色のコール キーを押すか、タッチ コントローラで [応答 (Answer)] をタップする必要があります。

On: 通話中でない限り、システムが自動的に着信コールに応答します。通話中の着信コールに対しては、常に手動で応答または拒否する必要があります。

Conference AutoAnswer Mute

着信コールへの自動応答時にマイクをミュートするかどうかを定義します。AutoAnswer Mode が有効にされている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: 着信コールはミュートにされません。

On: 着信コールは自動的に応答されるときミュートにされます。

Conference AutoAnswer Delay

システムによって自動的に応答される前に着信コールがどれくらい待つ必要があるかを定義します (秒単位)。AutoAnswer Mode が有効にされている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

値スペース: 整数 (0 ~ 50)

自動応答遅延 (秒単位)。

Conference CallProtocolIPStack

システムで通信プロトコル (SIP) の IPv4、IPv6、またはデュアル IP スタックを有効にする必要がある場合に選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Dual

値スペース: Dual/IPv4/IPv6

Dual: 通信プロトコルの IPv4 と IPv6 の両方をイネーブルにします。

IPv4: [IPv4] に設定すると、通信プロトコルは IPv4 を使用します。

IPv6: [IPv6] に設定すると、通信プロトコルは IPv6 を使用します。

Conference DefaultCall Rate

システムからコールを発信するときに使用されるデフォルト コール レートを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 3072

値スペース: 整数 (64 ~ 3072)

デフォルト コール レート (kbps)。

Conference DoNotDisturb DefaultTimeout

この設定はサイレント セッションのデフォルト期間、つまり着信コールが拒否され、不在履歴として登録される時間を決定します。セッションは、ユーザ インターフェイスを使用して早期に終了できます。デフォルト値は 60 分です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 60

値スペース: 整数 (1 ~ 1440)

サイレント セッションが自動的にタイムアウトするまでの分数 (最大 1440 分 (24 時間))。

Conference Encryption Mode

会議の暗号化モードを定義します。会議が開始されると、画面に鍵と「Encryption On」または「Encryption Off」という文字が数秒間表示されます。

注: 暗号化オプション キーがビデオ システムにインストールされていない場合、暗号化モードは常に Off になります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: BestEffort

値スペース: Off/On/BestEffort

Off: システムは、暗号化を使用しません。

On: システムは、暗号化されたコールだけを許可します。

BestEffort: システムは暗号化を可能な限り使用します。

> ポイント ツー ポイント コール: 遠端システムで暗号化 (AES-128) がサポートされている場合、コールは暗号化されます。そうでない場合は、コールは暗号化なしで送信されます。

> MultiSite コール: 暗号化されたマルチサイト会議を実現するためには、すべてのサイトが暗号化をサポートしている必要があります。そうでない場合は、会議は暗号化されません。

Conference FarEndControl Mode

リモート側 (遠端) にこちら側のビデオ ソースの選択とローカル カメラの制御 (パン、チルト、ズーム) を許可するかどうか決定できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: 相手先はこちら側のビデオ ソースの選択やローカル カメラの制御 (パン、チルト、ズーム) を許可されません。

On: 相手先はこちら側のビデオ ソースの選択とローカル カメラの制御 (パン、チルト、ズーム) を許可します。カメラの制御とビデオ ソースの選択は、こちら側では通常どおり可能です。

Conference FarEndControl SignalCapability

遠端制御 (H.224) 信号機能モードを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: 遠端制御信号機能をディセーブルにします。

On: 遠端制御信号機能をイネーブルにします。

Conference MaxReceiveCallRate

コールを発信または受信するときに使用される最大受信ビット レートを定義します。これは個別のコールの最大ビット レートです。すべての同時アクティブ コールに集約した最大レートを設定するには、Conference MaxTotalReceiveCallRate 設定を使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 3072

値スペース: 整数 (64 ~ 3072)

最大受信コール レート (kbps)。

Conference MaxTransmitCallRate

コールを発信または受信するときに使用される最大送信ビット レートを定義します。これは個別のコールの最大ビット レートです。すべての同時アクティブ コールに集約した最大レートを設定するには、Conference MaxTotalTransmitCallRate 設定を使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 3072

値スペース: 整数 (64 ~ 3072)

最大送信コール レート (kbps)。

Conference MaxTotalReceiveCallRate

許容される受信全体の最大ビット レートを定義します。この製品は、同時に複数のコールをサポートしないため、合計送信帯域は 1 つのコールの送信ビット レートと同じになります (参照: Conference MaxReceiveCallRate 設定)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 3072

値スペース: 整数 (64 ~ 3072)

最大受信コール レート (kbps)。

Conference MaxTotalTransmitCallRate

許容される送信全体の最大ビット レートを定義します。この製品は、同時に複数のコールをサポートしないため、合計送信帯域は 1 つのコールの送信ビット レートと同じになります (参照: Conference MaxTotalTransmitCallRate 設定)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 3072

値スペース: 整数 (64 ~ 3072)

最大送信コール レート (kbps)。

Conference MicUnmuteOnDisconnect Mode

すべてのコールが切断されたとき、マイクが自動的にミュート解除されるかどうかを定義します。会議室またはその他の共有リソースでは、このようにして次のユーザのためにシステムを準備する場合があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: コール中にミュートにされている場合、コールが切断された後もマイクロフォンをミュートにされたままにします。

On: コールが切断された後にマイクロフォンのミュートを解除します。

Conference Presentation OnPlacedOnHold

リモート サイトで保留状態にされた後、プレゼンテーションを共有し続けるかどうかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: NoAction

値スペース: Stop/NoAction

Stop: リモート サイトで保留状態にされた後、ビデオ システムはプレゼンテーションの共有を停止します。コールが再開されてもプレゼンテーションは継続されません。

NoAction: 保留にされてもビデオ システムはプレゼンテーションの共有を停止しません。保留されている間はプレゼンテーションは共有されませんが、コールが再開されると自動的に継続されます。

Conference VideoBandwidth Mode

会議ビデオ帯域幅モードを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Dynamic

値スペース: Dynamic/Static

Dynamic: ビデオ チャネルの使用可能な送信帯域幅が現在アクティブなチャンネル間で分散されます。プレゼンテーションが存在しない場合は、メイン ビデオ チャネルがプレゼンテーションチャンネルの帯域幅を使用します。

Static: 使用可能な送信帯域幅が、アクティブでない場合でも各ビデオ チャネルに割り当てられます。

Conference VideoBandwidth PresentationChannel Weight

使用可能な送信ビデオ帯域幅が「MainChannel Weight」および「PresentationChannel Weight」に従ってメイン チャネルおよびプレゼンテーション チャネルに分配されます。メイン チャネルの重みが 2 で、プレゼンテーション チャネルの重みが 1 の場合、メイン チャネルはプレゼンテーション チャネルの 2 倍の帯域幅を使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 5

値スペース: 整数 (1 ~ 9)

プレゼンテーション チャネルの帯域幅の重みを設定します。

FacilityService 設定

FacilityService Service [1..5] Type

最大 5 種類のアシリティ サービスを同時にサポートできます。この設定で、どのようなサービスかを選択できます。アシリティ サービスは、FacilityService Service [n] Name と FacilityService Service [n] Number の両方が正しく設定されていないと使用できません。タッチ コントローラでは、タイプ Helpdesk の FacilityService Service [1] だけを使用できます。アシリティ サービスは、リモート コントロールと画面上のメニューを使用する場合には使用できません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Helpdesk

値スペース: Catering/Concierge/Emergency/Helpdesk/Security/Transportation/Other

Catering: ケータリング サービスには、このオプションを選択します。

Concierge: コンシェルジュ サービスには、このオプションを選択します。

Emergency: 緊急サービスには、このオプションを選択します。

Helpdesk: ヘルプ デスク サービスには、このオプションを選択します。

Security: セキュリティ サービスには、このオプションを選択します。

Transportation: 転送サービスには、このオプションを選択します。

Other: その他のオプションでカバーされないサービスには、このオプションを選択します。

FacilityService Service [1..5] Name

アシリティ サービスの名前を定義します。最大 5 種類のアシリティ サービスがサポートされます。アシリティ サービスは、FacilityService Service [n] Name と FacilityService Service [n] Number の両方が正しく設定されていないと使用できません。タッチ コントローラでは FacilityService Service [1] だけを使用できます。名前は、上部バーの疑問符アイコンをタップすると表示されるアシリティ サービス コール ボタンに表示されます。アシリティ サービスは、リモート コントロールと画面上のメニューを使用する場合には使用できません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: サービス 1: "Live Support" その他のサービス: ""

値スペース: 文字列 (0, 1024)

アシリティ サービスの名前。

FacilityService Service [1..5] Number

アシリティ サービスの番号 (URI または電話番号) を定義します。最大 5 種類のアシリティ サービスがサポートされます。アシリティ サービスは、FacilityService Service [n] Name と FacilityService Service [n] Number の両方が正しく設定されていないと使用できません。タッチ コントローラでは FacilityService Service [1] だけを使用できます。アシリティ サービスは、リモート コントロールと画面上のメニューを使用する場合には使用できません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 1024)

アシリティ サービスの番号 (URI または電話番号)。

FacilityService Service [1..5] CallType

各アシリティ サービスのコール タイプを定義します。最大 5 種類のアシリティ サービスがサポートされます。アシリティ サービスは、FacilityService Service [n] Name と FacilityService Service [n] Number の両方が正しく設定されていないと使用できません。タッチ コントローラでは FacilityService Service [1] だけを使用できます。アシリティ サービスは、リモート コントロールと画面上のメニューを使用する場合には使用できません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Video

値スペース: Audio/Video

Audio: オーディオ コールには、このオプションを選択します。

Video: ビデオ コールには、このオプションを選択します。

H323 設定

H323 Authentication Mode

H.323 プロファイルの認証モードを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: システムは H.323 ゲートキーパーに対して自身の認証を試みませんが、通常の登録を試みます。

On: 認証が必要なことを H.323 ゲートキーパーから示されると、システムはゲートキーパーに対して自身の認証を試みます。コーデックとゲートキーパーの両方で H323 Authentication LoginName 設定と H323 Authentication Password 設定を定義する必要があります。

H323 Authentication LoginName

システムは、認証のために H323 認証ログイン名と H323 認証パスワードを H.323 ゲートキーパーに送信します。認証はコーデックから H.323 ゲートキーパーへの単方向の認証です。つまり、システムはゲートキーパーに認証されます。認証が不要であることを H.323 ゲートキーパーが示している場合でも、システムは登録を試行します。H.323 認証モードを有効にする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 50)

認証ログイン名。

H323 Authentication Password

システムは、認証のために H323 認証ログイン名と H323 認証パスワードを H.323 ゲートキーパーに送信します。認証はコーデックから H.323 ゲートキーパーへの単方向の認証です。つまり、システムはゲートキーパーに認証されます。認証が不要であることを H.323 ゲートキーパーが示している場合でも、システムは登録を試行します。H.323 認証モードを有効にする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 50)

認証パスワード。

H323 CallSetup Mode

H.323 コールを確立するときにゲートキーパーとダイレクト コールのどちらを使用するかを定義します。

H323 CallSetup Mode を Gatekeeper に設定した場合も、ダイレクト H.323 コールを発信できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Gatekeeper

値スペース: Direct/Gatekeeper

Direct: IP アドレスを直接ダイヤルすることによってのみ H.323 コールを発信できます。

Gatekeeper: システムはゲートキーパーを使用して H.323 コールを発信します。このオプションを選択する場合は、H323 Gatekeeper Address も設定する必要があります。

H323 Encryption KeySize

Advanced Encryption Standard (AES) 暗号化キーの確立時に使用する Diffie-Hellman キー交換方式の最小または最大サイズを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Min1024bit

値スペース: Min1024bit/Max1024bit/Min2048bit

Min1024bit: 最小サイズは 1024 ビットです。

Max1024bit: 最大サイズは 1024 ビットです。

Min2048bit: 最小サイズは 2048 ビットです。

H323 Gatekeeper Address

ゲートキーパーの IP アドレスを定義します。H323 CallSetup Mode を Gatekeeper に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

H323 H323Alias E164

H.323 エイリアス E.164 は、H.323 ゲートキーパーに設定された番号計画に従ってシステムのアドレスを定義します。E.164 エイリアスは電話番号と同じであり、アクセス コードと結合される場合もあります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 30)

H.323 エイリアス E.164 アドレス。使用できる文字は、0 ～ 9、*、# です。

H323 H323Alias ID

H.323 ゲートキーパー上のシステムのアドレス指定に使用され、コール リストに表示される H.323 エイリアス ID を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 49)

H.323 エイリアス ID。例: 「firstname.lastname@company.com」、 「My H.323 Alias ID」

H323 NAT Mode

ファイアウォール トラバーサル テクノロジーは、ファイアウォール障壁を通過するセキュアなパスを作成し、外部のビデオ会議システムに接続されたときの音声/ビデオ データの正しい交換を可能にします (IP トラフィックが NAT ルータを通過する場合)。注: NAT は、ゲートキーパーとの組み合わせでは動作しません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Auto/Off/On

Auto: H323 NAT アドレスと実際の IP アドレスのどちらをシグナリングに使用するかをシステムが決定します。これにより、LAN 上のエンドポイント、または WAN のエンドポイントにコールを発信できるようになります。H323 NAT アドレスが間違っているか設定されていない場合、実際の IP アドレスが使用されます。

off: システムは、実際の IP アドレスをシグナリングします。

On: システムは、Q.931 および H.245 内にある実際の IP アドレスの代わりに、設定された H323 NAT アドレスをシグナリングします。NAT サーバ アドレスは、スタートアップ メニューで 「My IP Address: 10.0.2.1」と表示されます。H323 NAT アドレスが間違っているか設定されていない場合、H.323 コールは設定できません。

H323 NAT Address

NAT サポートを備えたルータへの外部/グローバル IP アドレスを定義します。ルータに送信されるパケットは、システムにルーティングされます。ゲートキーパーに登録されている場合は NAT を使用できないことに注意してください。

ルータで、次のポートはシステムの IP アドレスにルーティングする必要があります。

*ポート 1720

*ポート 5555-6555

*ポート 2326-2487

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

H323 PortAllocation

この設定は、H.323 コール シグナリングに使用される H.245 ポート番号に影響を与えます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Dynamic

値スペース: Dynamic/Static

Dynamic: TCP 接続を開くとき、使用するポートをシステムが割り当てます。このようにする理由は、後続のコールで同じポートを使用しないようにするためです。一部のファイアウォールはこれを攻撃の徴候と見なします。Dynamic を選択した場合、使用される H.323 ポートは 11000 ~ 20999 です。20999 に達すると 11000 から再スタートされます。ポートは、特定の範囲内でシステムによって自動的に選択されます。ファイアウォール管理者は、どのポートがいつ使用されるかを推定しようとしてはなりません。指示された範囲内の割り当てスキーマがより詳細な通知なしで変更されることがあるからです。

Static: 静的に設定すると、静的に事前定義された範囲 [5555-6555] 内でポート指定されます。

ログ 設定

Logging External Mode

リモート syslog サーバをログギングに使用するかどうかを決定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: リモート syslog サーバへのログギングを無効にします。

On: リモート syslog サーバへのログギングを有効にします。

Logging External Protocol

リモート ログギング サーバに使用するプロトコルを決定します。TLS (Transport Layer Security) を介した syslog プロトコル、またはプレーン テキストの syslog プロトコルのいずれかを使用できます。syslog プロトコルの詳細については、RFC 5424 を参照してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: SyslogTLS

値スペース: Syslog/SyslogTLS

Syslog: プレーン テキストの Syslog プロトコル

SyslogTLS: TLS を介した Syslog プロトコル

Logging External Server Address

リモート syslog サーバのアドレス。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0 ～ 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

Logging External Server Port

リモート syslog サーバがメッセージを待ち受けるポート。0 (デフォルト) に設定すると、ビデオ システムは標準 syslog ポートを使用します。標準 syslog ポートは、syslog の場合は 514、TLS を介した syslog の場合は 6514 です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 514

値スペース: 整数 (0 ～ 65535)

リモート syslog サーバが使用しているポートの番号。0 は、ビデオ システムが標準 syslog ポートを使用することを意味します。

Logging Mode

ビデオ システムのログギング モード (syslog サービス) を定義します。無効にした場合は、syslog サービスが開始せず、イベント ログのほとんどが生成されません。履歴ログとコール ログは影響を受けません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: システム ログギング サービスを無効にします。

On: システム ログギング サービスを有効にします。

ネットワーク 設定

Network [1] DNS Domain Name

DNS ドメイン名は、非修飾名に追加されるデフォルトのドメイン名サフィックスです。

例: DNS ドメイン名が「company.com」で、ルックアップする名前が「MyVideoSystem」の場合、DNS ルックアップ「MyVideoSystem.company.com」になります。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 64)

DNS ドメイン名。

Network [1] DNS Server [1..3] Address

DNS サーバのネットワーク アドレスを定義します。最大で 3 つのアドレスを指定できます。ネットワーク アドレスが不明の場合、管理者またはインターネット サービス プロバイダーに問い合わせます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

Network [1] IEEE8021X Mode

システムは、イーサネット ネットワークに認証済みネットワーク アクセスを提供するために使用される、ポート ベースのネットワーク アクセス コントロールによって、IEEE 802.1X LAN ネットワークに接続できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: 802.1X 認証がディセーブルになります (デフォルト)。

On: 802.1X 認証がイネーブルになります。

Network [1] IEEE8021X TlsVerify

TLS を使用する場合は、ローカル CA リストの証明書に対する IEEE802.1x 接続のサーバ側証明書の検証です。CA リストはビデオ システムにアップロードする必要があります。これは、Web インターフェイスから実行できます。

この設定は、Network [1] IEEE8021X Eap Tls が有効 (On) の場合にのみ適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: Off に設定する場合、ローカル CA リストに対するサーバ側 X.509 証明書を確認せずに、TLS 接続が許可されます。これは、コーデックに CA リストがアップロードされていない場合、選択する必要があります。

On: On に設定する場合、すべての TLS 接続のローカル CA リストに対して、サーバ側 X.509 証明書が検証されます。有効な証明書を持つサーバだけが許可されます。

Network [1] IEEE8021X UseClientCertificate

IEEE802.1x 接続中の、秘密キーと証明書のペアを使用した認証。認証 X.509 証明書は、ビデオ システムにアップロードされている必要があります。これは、Web インターフェイスから実行できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: Off に設定した場合、クライアント側の証明書は使用されません (サーバ側のみ)。

On: On に設定した場合、クライアント (ビデオ システム) はサーバと相互認証 TLS ハンドシェイクを実行します。

Network [1] IEEE8021X Identity

802.1X 認証用のユーザ名を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 64)

802.1X 認証用のユーザ名。

Network [1] IEEE8021X Password

802.1X 認証用のパスワードを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 32)

802.1X 認証用のパスワード。

Network [1] IEEE8021X AnonymousIdentity

802.1X 匿名 ID 文字列は、別のトンネリングされた ID をサポートする EAP-PEAP および EAP-TTLS などの EAP (Extensible Authentication Protocol) タイプとともに、非暗号化 ID として使用されます。設定された場合、匿名 ID は最初の (非暗号化) EAP ID 要求に使用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 64)

802.1X Anonymous ID 文字列

Network [1] IEEE8021X Eap Md5

MD5 (メッセージダイジェスト アルゴリズム 5) モードを定義します。これは、共有秘密に依存するチャレンジ ハンドシェイク認証プロトコルです。MD5 は弱いセキュリティです。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: EAP-MD5 プロトコルはディセーブルになります。

On: EAP-MD5 プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

Network [1] IEEE8021X Eap Ttls

TTLS (Tunneled Transport Layer Security) モードを定義します。クライアント証明書の要件なしで LAN クライアントを認証します。Funk Software および Certicom によって開発されました。通常 Agere Systems、Proxim および Avaya でサポートされます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: EAP-TTLS プロトコルはディセーブルになります。

On: EAP-TTLS プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

Network [1] IEEE8021X Eap Tls

IEEE802.1x 接続用の EAP-TLS (トランスポート層セキュリティ) の使用をイネーブルまたはディセーブルにします。RFC 5216 で規定された EAP-TLS プロトコルは最もセキュアな EAP 標準の 1 つと見なされています。LAN クライアントは、クライアント証明書を使用して認証されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: EAP-TLS プロトコルはディセーブルになります。

On: EAP-TLS プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

Network [1] IEEE8021X Eap Peap

Peap (保護拡張認証プロトコル) モードを定義します。クライアント証明書の要件なしで LAN クライアントを認証します。Microsoft、シスコと RSA Security により開発されました。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: EAP-PEAP プロトコルはディセーブルになります。

On: EAP-PEAP プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

Network [1] IPStack

システムのネットワーク インターフェイスで IPv4、IPv6、またはデュアル IP スタックを使用する必要がある場合に選択します。注: この設定を変更した後、反映されるまでに 30 秒間待つ必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Dual

値スペース: Dual/IPv4/IPv6

Dual: Dual に設定すると、ネットワーク インターフェイスは両方の IP バージョンで同時に動作することができ、また、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を同時に持つことができます。

IPv4: IPv4 に設定すると、システムのネットワーク インターフェイスで IPv4 が使用されます。

IPv6: IPv6 に設定すると、システムのネットワーク インターフェイスで IPv6 が使用されます。

Network [1] IPv4 Assignment

システムが IPv4 アドレス、サブネット マスク、およびゲートウェイ アドレスを取得する方法を定義します。この設定は IPv4 ネットワーク上のシステムにのみ適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: DHCP

値スペース: Static/DHCP

Static: アドレスは、Network IPv4 Address、Network IPv4 Gateway、Network IPv4 SubnetMask の各設定 (静的アドレス) を使用して手動で設定する必要があります。

DHCP: システム アドレスは DHCP サーバによって自動的に割り当てられます。

Network [1] IPv4 Address

システムのスタティック IPv4 ネットワーク アドレスを定義します。Network IPv4 Assignment が Static に設定されている場合に限り適用できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス。

Network [1] IPv4 Gateway

IPv4 ネットワーク ゲートウェイ アドレスを定義します。Network IPv4 Assignment が Static に設定されている場合に限り適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス。

Network [1] IPv4 SubnetMask

IPv4 ネットワークのサブネット マスクを定義します。Network IPv4 Assignment が Static に設定されている場合に限り適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス。

Network [1] IPv6 Assignment

システムが IPv6 アドレスおよびデフォルト ゲートウェイ アドレスを取得する方法を定義します。この設定は IPv6 ネットワーク上のシステムにのみ適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Autoconf

値スペース: Static/DHCPv6/Autoconf

Static: コーデックおよびゲートウェイの IP アドレスは、Network IPv6 Address および Network IPv6 Gateway の各設定を使用して手動で設定する必要があります。NTP アドレスや DNS サーバアドレスなどのオプションは、手動で設定するか、または DHCPv6 サーバから取得する必要があります。Network IPv6 DHCPOption 設定は、どの方法を使用するかを決定します。

DHCPv6: オプションを含むすべての IPv6 アドレスは、DHCPv6 サーバから取得されます。詳細については RFC 3315 を参照してください。Network IPv6 DHCPOption 設定は無視されます。

Autoconf: IPv6 ネットワーク インターフェイスの IPv6 ステータス自動設定をイネーブルにします。詳細については RFC 4862 を参照してください。NTP アドレスや DNS サーバアドレスなどのオプションは、手動で設定するか、または DHCPv6 サーバから取得する必要があります。Network IPv6 DHCPOption 設定は、どの方法を使用するかを決定します。

Network [1] IPv6 Address

システムのスタティック IPv6 ネットワーク アドレスを定義します。Network IPv6 Assignment が Static に設定されている場合に限り適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 64)

ネットワーク マスクを含む有効な IPv6 アドレス。例: 2001:DB8::/48

Network [1] IPv6 Gateway

IPv6 ネットワーク ゲートウェイ アドレスを定義します。この設定は、Network IPv6 Assignment が Static に設定されている場合にのみ適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 64)

有効な IPv6 アドレス。

Network [1] IPv6 DHCPOptions

DHCPv6 サーバから一連の DHCP オプション (NTP および DNS サーバアドレスなど) を取得します。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: DHCPv6 サーバからの DHCP オプションの取得をディセーブルにします。

On: 選択した DHCP オプションのセットの DHCPv6 サーバからの取得をイネーブルにします。

Network [1] MTU

イーサネット MTU (最大伝送ユニット) のサイズを定義します。MTU のサイズは、ご使用のネットワーク インフラストラクチャでサポートされているサイズでなければなりません。最小サイズは、IPv4 の場合が 576、IPv6 の場合が 1280 です。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: 1500

値スペース: 整数 (576 ~ 1500)

MTU の値 (バイト) を設定します。

Network [1] QoS Mode

QoS (Quality of Service) は、ネットワーク内のオーディオ、ビデオおよびデータの優先順位を操作するメソッドです。QoS 設定はインフラストラクチャでサポートされている必要があります。DiffServ (ディファレンシエーテッド サービス) は、ネットワークトラフィックの分類と管理を行い、現代的 IP ネットワークに QoS 優先順位を提供するためにシンプルかつスケーラブルで粗粒度のメカニズムを指定する、コンピュータ ネットワーキング アーキテクチャです。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Diffserv

値スペース: Off/Diffserv

Off: QoS メソッドは使用されません。

Diffserv: QoS モードを Diffserv に設定すると、Network QoS Diffserv Audio、Network QoS Diffserv Video、Network QoS Diffserv Data、Network QoS Diffserv Signalling、Network QoS Diffserv ICMPv6、および Network QoS Diffserv NTP の各設定を使用してパケットの優先順位が付けられます。

Network [1] QoS Diffserv Audio

この設定は、Network QoS Mode が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で音声 パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ～ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。音声に推奨されるクラスは、10 進数値 32 と等しい CS4 です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: 0

値スペース: 整数 (0 ～ 63)

IP ネットワーク内の音声 パケットの優先順位を設定します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

Network [1] QoS Diffserv Video

この設定は、Network QoS Mode が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でビデオ パケットに持たせる優先順位を定義します。プレゼンテーション チャネル (共有コンテンツ) 上のパケットも、ビデオ パケットのカテゴリに属します。パケットのプライオリティは、0 ～ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。ビデオに推奨されるクラスは、10 進数値 32 と等しい CS4 です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: 0

値スペース: 整数 (0 ～ 63)

IP ネットワーク内のビデオ パケットの優先順位を設定します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

Network [1] QoS Diffserv Data

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でデータ パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ～ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。データに対する推奨値は 0 (ベスト エフォート) です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: 0

値スペース: 整数 (0 ～ 63)

IP ネットワーク内のデータ パケットの優先順位を設定します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

Network [1] QoS Diffserv Signalling

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でリアルタイム処理に不可欠 (時間依存) であると考えられるシグナリング パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ～ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。シグナリングに推奨されるクラスは、10 進数値 24 と等しい CS3 です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: 0

値スペース: 整数 (0 ～ 63)

IP ネットワーク内のシグナリング パケットの優先順位を設定します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

Network [1] QoS Diffserv ICMPv6

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で ICMPv6 パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ～ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。ICMPv6 に対する推奨値は 0 (ベスト エフォート) です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: 0

値スペース: 整数 (0 ～ 63)

IP ネットワーク内の ICMPv6 パケットの優先順位を設定します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

Network [1] QoS Diffserv NTP

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で NTP パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ～ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。NTP に対する推奨値は 0 (ベスト エフォート) です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: 0

値スペース: 整数 (0 ～ 63)

IP ネットワーク内の NTP パケットの優先順位を設定します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

Network [1] RemoteAccess Allow

リモート アクセスで SSH/Telnet/HTTP/HTTPS からコーデックに許可する IP アドレス (IPv4/IPv6) を定義します。複数の IP アドレスはスペースで区切られます。

ネットワーク マスク (IP 範囲) は <IP アドレス>/N で指定されます。ここで N は IPv4 では 1 ～ 32 の範囲、IPv6 では 1 ～ 128 の範囲を表します。/N は最初の N ビットがセットされたネットワークマスクの共通インジケータです。たとえば 192.168.0.0/24 は、192.168.0 で開始するどのアドレスとも一致します。これらはアドレスの最初の 24 ビットだからです。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0、255)

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

Network [1] Speed

イーサネット リンク速度を定義します。デフォルト値は変更しないことをお勧めします。デフォルト値では、ネットワークとネゴシエーションし、速度が自動的に設定されます。自動ネゴシエーションを使用しない場合は、選択した速度が、ネットワーク インフラストラクチャで最も近いスイッチによりサポートされていることを確認してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Auto

値スペース: Auto/10half/10full/100half/100full

Auto: リンク速度を自動ネゴシエートします。

10half: 10 Mbps 半二重に強制リンクします。

10full: 10 Mbps 全二重に強制リンクします。

100half: 100 Mbps 半二重に強制リンクします。

100full: 100 Mbps 全二重に強制リンクします。

Network [1] TrafficControl Mode

ネットワークトラフィック制御モードを設定してビデオパケットの送信レートの制御方法を定義します。

必要なユーザロール: ADMIN、USER

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: ビデオパケットをリンク速度で送信します。

On: ビデオパケットを最大 20 Mbps で送信します。発信ネットワークトラフィックのバーストを平滑化するために使用できます。

Network [1] VLAN Voice Mode

VLAN 音声モードを定義します。Cisco UCM (Cisco Unified Communications Manager) をプロビジョニングインフラストラクチャとして使用している場合、VLAN VLAN Voice Mode が Auto に自動的に設定されます。NetworkServices CDP Mode 設定が Off になっている場合は、Auto モードは機能しないことに注意してください。

必要なユーザロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Auto

値スペース: Auto/Manual/Off

Auto: Cisco Discovery Protocol (CDP) が使用可能な場合は、音声 VLAN に ID を割り当てます。CDP を使用できない場合、VLAN はイネーブルになりません。

[手動 (Manual)]: VLAN ID は、Network VLAN Voice VlanId の設定を使用して手動で設定されます。CDP を使用できる場合、手動設定値は、CDP によって割り当てられた値によって置き換えられます。

off: VLAN はイネーブルになりません。

Network [1] VLAN Voice VlanId

VLAN 音声 ID を定義します。この設定は、Network VLAN Voice Mode が [手動 (Manual)] に設定されている場合にだけ有効になります。

必要なユーザロール: ADMIN、USER

デフォルト値: [1]

値スペース: 整数 (1 ~ 4094)

VLAN 音声 ID を設定します。

NetworkServices 設定

NetworkServices CDP Mode

CDP (Cisco Discovery Protocol) デモンをイネーブルまたはディセーブルにします。CDP をイネーブルにすると、エンドポイントは特定の統計情報とデバイス ID を CDP 対応スイッチにレポートします。CDP をディセーブルにする場合、Network VLAN Voice Mode:Auto 設定は機能しません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: CDP デモンはディセーブルです。

On: CDP デモンはイネーブルです。

NetworkServices H323 Mode

システムで H.323 コールの発信および受信を可能にするかどうかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: H.323 コールの発信と受信の可能性をディセーブルにします。

On: H.323 コールの発信と受信の可能性をイネーブルにします (デフォルト)。

NetworkServices HTTP Mode

HTTP または HTTPS (HTTP Secure) プロトコルを使用したビデオ システムへのアクセスを許可するかどうかを定義します。ビデオ システムの Web インターフェイスでは HTTP または HTTPS が使用されることに注意してください。この設定が Off になっている場合は、Web インターフェイスを使用できません。

セキュリティを強化する (要求および Web サーバから返されるページの暗号化と復号化) には、HTTPS のみを許可します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: HTTP+HTTPS

値スペース: Off/HTTP+HTTPS/HTTPS

Off: HTTP または HTTPS を介したビデオ システムへのアクセスは許可されません。

HTTP+HTTPS: HTTP および HTTPS を介したビデオ システムへのアクセスは、両方とも許可されます。

HTTPS: HTTPS を介したビデオ システムへのアクセスは許可されますが、HTTP を介したアクセスは許可されません。

NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate

ビデオ システムが外部 HTTPS サーバ (電話帳サーバや外部マネージャなど) に接続すると、このサーバはビデオ システムに対して自身を識別する証明書を示します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: サーバ証明書を確認しません。

On: サーバ証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されていることを確認するようシステムに要求します。これには、信頼できる CA のリストがシステムに事前にアップロードされている必要があります。

NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate

ビデオ システムが HTTPS クライアント (Web ブラウザなど) に接続すると、クライアントは自分自身を識別するためにビデオ システムに証明書を提示するように要求されることがあります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: クライアント 証明書を確認しません。

On: 信頼できる認証局 (CA) によって署名された証明書を提示するようクライアントに要求します。これには、信頼できる CA のリストがシステムに事前にアップロードされている必要があります。

NetworkServices HTTPS OCSP Mode

OCSP (Online Certificate Status Protocol) レスポンダ サービスのサポートを定義します。OCSP 機能により、証明書失効リスト (CRLs) の代わりに OCSP をイネーブルにして、証明書のステータスをチェックできます。

すべての発信 HTTPS 接続に対して、OCSP レスポンダを介してステータスが照会されます。対応する証明書が失効している場合、HTTPS 接続は使用されません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: OCSP サポートをディセーブルにします。

On: OCSP サポートをイネーブルにします。

NetworkServices HTTPS OCSP URL

証明書のステータスを調べるために使用される OCSP レスポンダ (サーバ) の URL を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 255)

有効な URL。

NetworkServices NTP Mode

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) は、リファレンス タイム サーバにシステムの時刻と日付を同期するために使用されます。時間の更新のために、タイム サーバが定期的に照会されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

値スペース: Auto/Manual/Off

Auto: システムは時間を参照するために NTP サーバを使用します。デフォルトでは、サーバアドレスはネットワークの DHCP サーバから取得されます。DHCP サーバが使用されない場合、または DHCP サーバが NTP サーバアドレスを提供しない場合には、NetworkServices NTP Server [n] Address 設定で指定された NTP サーバアドレスが使用されます。

Manual: システムは、NetworkServices NTP Server [n] Address 設定で指定された NTP サーバを使って時間を参照します。

Off: システムは NTP サーバを使用しません。NetworkServices NTP Server [n] Address 設定は無視されます。

NetworkServices NTP Server [1..3] Address

NetworkServices NTP Mode が [手動 (Manual)] に設定された場合、および NetworkServices NTP Mode が Auto に設定されアドレスが DHCP サーバから提供されない場合に使用される NTP サーバのアドレスです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0.tandberg.pool.ntp.org

値スペース: 文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

NetworkServices SIP Mode

システムで SIP コールの発信および受信を可能にするかどうかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: SIP コールの発信と受信の可能性をディセーブルにします。

On: SIP コールの発信と受信の可能性をイネーブルにします (デフォルト)。

NetworkServices SNMP Mode

ネットワーク管理システムでは、管理上の対応を保証する条件についてネットワーク接続デバイス（ルータ、サーバ、スイッチ、プロジェクタなど）を監視するために SNMP (Simple Network Management Protocol) が使用されます。SNMP は、システム設定を説明する管理システム上の変数の形式で管理データを公開します。これらの変数は、その後照会でき (ReadOnly に設定)、管理アプリケーションによって設定できる場合もあります (ReadWrite に設定)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ReadOnly

値スペース: Off/ReadOnly/ReadWrite

Off: SNMP ネットワーク サービスをディセーブルにします。

ReadOnly: SNMP ネットワーク サービスを照会のみイネーブルにします。

ReadWrite: SNMP ネットワーク サービスの照会とコマンドの両方をイネーブルにします。

NetworkServices SNMP Host [1..3] Address

最大 3 つの SNMP マネージャのアドレスを定義します。

システムの SNMP エージェント（コーデック内）は、システム ロケーションやシステム接点についてなど、SNMP マネージャ（PC プログラムなど）からの要求に応答します。SNMP トラップはサポートされません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

NetworkServices SNMP CommunityName

ネットワーク サービス SNMP コミュニティの名前を定義します。SNMP コミュニティ名は SNMP 要求を認証するために使用されます。SNMP 要求は、コーデックの SNMP エージェントから応答を受け取るため、パスワード（大文字と小文字を区別）を持つ必要があります。デフォルトのパスワードは「public」です。Cisco TelePresence 管理スイート（TMS）がある場合、同じ SNMP コミュニティがそこで設定されていることを確認する必要があります。注: SNMP コミュニティのパスワードは大文字と小文字が区別されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 50)

SNMP コミュニティ名。

NetworkServices SNMP SystemContact

ネットワーク サービス SNMP システム接点の名前を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 50)

SNMP システム接点の名前。

NetworkServices SNMP SystemLocation

ネットワーク サービス SNMP システム ロケーションの名前を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 50)

SNMP システム ロケーションの名前。

NetworkServices SSH Mode

SSH (セキュア シェル) プロトコルは、コーデックとローカル コンピュータ間でのセキュアな暗号化通信を提供できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: SSH プロトコルはディセーブルになります。

On: SSH プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

NetworkServices SSH AllowPublicKey

セキュア シェル (SSH) 公開キー認証をコーデックへのアクセスに使用できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: SSH 公開キーは許可されません。

On: SSH 公開キーが許可されます。

NetworkServices Telnet Mode

Telnet は、インターネットまたはローカル エリア ネットワーク (LAN) 接続で使用するネットワーク プロトコルです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: Telnet プロトコルはディセーブルになります。これが出荷時の設定です。

On: Telnet プロトコルはイネーブルになります。

NetworkServices UPnP Mode

UPnP (ユニバーサル プラグ アンド プレイ) を完全に無効にするか、ビデオ システムがオンになった (または再起動された) 後で短時間だけ UPnP を有効にします。

デフォルトの動作では、ビデオ システムをオンにするか、再起動したときに UPnP が有効になります。その後、NetworkServices UPnP Timeout 設定で定義されたタイムアウト期間後に UPnP が自動的に無効になります。

UPnP を有効にすると、ビデオ システムは自身のプレゼンスをネットワークにアドバタイズします。このアドバタイズにより、タッチ コントローラがビデオ システムを自動的に検出できるようになるため、タッチ コントローラをペアリングするためにビデオ システムの IP アドレスを手動で入力する必要がありません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: <Off/On>

Off: UPnP は無効です。ビデオ システムはプレゼンスをアドバタイズしないため、タッチ コントローラをビデオ システムにペアリングするためにビデオ システムの IP アドレスを手動で入力する必要があります。

On: UPnP は有効です。ビデオ システムは、タイムアウト期間が切れるまで自身のプレゼンスをアドバタイズします。

NetworkServices UPnP Timeout

ビデオ システムがオンになった (または再起動された) 後、UPnP を有効にしておく秒数を定義します。この設定を有効にするには、NetworkServices UPnP Mode 設定を On にする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 600

値スペース: <0 ~ 3600>

範囲: 0 ~ 3600 秒の値を選択します。

NetworkServices WelcomeText

Telnet/SSH 経由でコーデックにログインする際に、ユーザに表示する情報を選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: ようこそテキストは次のとおりです: ログインに成功しました (Login successfu)

On: ようこそテキストは次のとおりです: <システム名>; ソフトウェア バージョン; ソフトウェアのリリース日; ログインに成功しました (Login successful)

NetworkServices XMLAPI Mode

ビデオ システムの XML API をイネーブルまたはディセーブルにします。セキュリティ上の理由からこれをディセーブルにできます。XML API をディセーブルにすると、TMS などとのリモート管理機能が制限され、ビデオ システムに接続できなくなります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: XML API はディセーブルになります。

On: XML API はイネーブルになります (デフォルト)。

周辺機器 設定

Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing

ビデオ システムのユーザ インターフェイスとしてシスコのタッチ 10 (タッチ コントローラ) を使用するには、ネットワーク (LAN) 経由でタッチ 10 をビデオ システムとペアリングする必要があります。これは、リモート ペアリングと呼ばれます。

リモート ペアリングはデフォルトで許可されています。リモート ペアリングを回避する場合は、この設定をオフに切り替えてください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: タッチ 10 のリモート ペアリングは許可されません。

On: タッチ 10 リモート ペアリングは許可されます。

Peripherals Pairing Ultrasound Volume Mode

この設定はインテリジェント プロキシミティ機能に適用されます。設定をデフォルト値で維持します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Dynamic

値スペース: Dynamic/Static

Dynamic: ビデオ システムは超音波の音量を動的に調整します。音量は Peripherals Pairing Ultrasound Volume MaxLevel 設定で定義された最大レベルまで変化します。

Static: シスコから推奨された場合にのみ使用してください。

Peripherals Pairing Ultrasound Volume MaxLevel

この設定はインテリジェント プロキシミティ機能に適用されます。超音波ペアリング メッセージの最大音量を設定します。Peripherals Pairing Ultrasound Volume Mode 設定を参照してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 70

値スペース: 整数 (0 ~ 70)

指定されている範囲内の値を選択します。0 に設定すると、超音波がオフになります。

Peripherals Profile Cameras

ビデオ システムに接続されていると想定されるカメラの数を定義します。この情報はビデオ システムの診断サービスで使用されます。接続されたカメラの数がこの設定に一致しない場合、診断サービスによって不一致が報告されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Minimum1

値スペース: NotSet/Minimum1/0/1/2/3/4/5/6/7

NotSet: カメラ チェックは実行されません。

Minimum1: 少なくとも 1 台のカメラがビデオ システムに接続されている必要があります。

0 ~ 7: ビデオ システムに接続されていると想定されるカメラの数を選択します。

Peripherals Profile ControlSystems

サードパーティ制御システム (Crestron、AMX など) がビデオ システムに接続されていると想定されるかどうかを定義します。この情報はビデオ システムの診断サービスで使用されます。接続された制御システムの数がこの設定に一致しない場合、診断サービスによって不一致が報告されます。サポートされるサードパーティ制御システムは 1 つだけであることを注意してください。

1 に設定する場合、制御システムは xCommand Peripherals Pair コマンドと HeartBeat コマンドを使用してビデオ システムへハートビートを送信する必要があります。この操作を行わないと、室内制御拡張機能により、ビデオ システムと制御システム間の接続が失われたことを示す警告が表示されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: NotSet

値スペース: 1/NotSet

1:1 台のサードパーティ制御システムをビデオ システムに接続する必要があります。

NotSet: サードパーティ制御システムのチェックは実行されません。

Peripherals Profile TouchPanels

ビデオ システムに接続されていると想定されるタッチ パネルの数を定義します。この情報はビデオ システムの診断サービスで使用されます。接続されたタッチ パネルの数がこの設定に一致しない場合、診断サービスによって不一致がレポートされます。このバージョンでサポートされるシスコタッチ コントローラは、1 台のみであることを注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: NotSet

値スペース: NotSet/Minimum1/0/1/2/3/4/5

NotSet: タッチ パネル チェックは実行されません。

Minimum1: 少なくとも 1 台のタッチ パネルがビデオ システムに接続されている必要があります。

0 ~ 5: ビデオ システムに接続されていると想定されるタッチ コントローラの数を選択します。

Phonebook 設定

Phonebook Server [1] ID

外部の電話帳の名前を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 64)

外部の電話帳の名前。

Phonebook Server [1] Type

電話帳サーバの種類を選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Off/CUCM/Spark/TMS/VCS

Off: 電話帳を使用しません。

CUCM: 電話帳が Cisco Unified Communications Manager 上に配置されます。

Spark: 電話帳は Spark 上に配置されます。

TMS: 電話帳が Cisco TelePresence Management Suite サーバ上に配置されます。

VCS: 電話帳が Cisco TelePresence Video Communication Server 上に配置されます。

Phonebook Server [1] URL

外部電話帳サーバのアドレス (URL) を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 255)

電話帳サーバの有効なアドレス (URL)。

プロビジョニング 設定

Provisioning Connectivity

この設定は、プロビジョニング サーバからの内部または外部の設定を要求するかどうかを、デバイスが検出する方法を制御します。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Auto

値スペース: Internal/External/Auto

Internal: 内部コンフィギュレーションを要求します。

External: 外部コンフィギュレーションを要求します。

Auto: 内部または外部のコンフィギュレーションを要求するかどうかを自動的に NAPTR クエリーを使用して検出します。NAPTR の応答に「e」フラグがある場合、外部設定が要求されます。それ以外の場合、内部設定が要求されます。

Provisioning Mode

プロビジョニング システム (外部マネージャ) を使用してビデオ システムを設定できます。これにより、ビデオ会議のネットワーク管理者は複数のビデオ システムを同時に管理することができます。この設定により、使用するプロビジョニング システムの種類を選択します。プロビジョニングは、オフに切り替えることも可能です。詳細については、プロビジョニング システムのプロバイダー/担当者にお問い合わせください。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Auto

値スペース: Off/Auto/CUCM/Edge/Spark/TMS/VCS

Off: ビデオ システムはプロビジョニング システムによって設定されません。

Auto: プロビジョニング サーバを自動的に選択します。

CUCM: CUCM (Cisco Unified Communications Manager) からビデオ システムに設定をプッシュします。

Edge: CUCM (Cisco Unified Communications Manager) からビデオ システムに設定をプッシュします。システムは Collaboration Edge インフラストラクチャを経由して CUCM に接続します。

Spark: Spark からビデオ システムに設定をプッシュします。

TMS: TMS (Cisco TelePresence Management System) からビデオ システムに設定をプッシュします。

VCS: VCS (Cisco TelePresence Video Communication Server) からビデオ システムに設定をプッシュします。

Provisioning LoginName

これは、プロビジョニング サーバとの間でビデオ システム認証に使用されるクレデンシャルのユーザ名部分です。この設定は、プロビジョニング サーバが要求する場合、使用する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0、80)

有効なユーザ名。

Provisioning Password

これは、プロビジョニング サーバとのビデオ システムの認証に使用されるクレデンシャルのパスワード部分です。この設定は、プロビジョニング サーバが要求する場合、使用する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 64)

有効なパスワード。

Provisioning HttpMethod

プロビジョニングに使用する HTTP 方式を選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: POST

値スペース: GET/POST

GET: プロビジョニング サーバが GET をサポートする場合、GET を選択します。

POST: プロビジョニング サーバが POST をサポートする場合、POST を選択します。

Provisioning ExternalManager Address

外部マネージャ/プロビジョニング システムの IP アドレスまたは DNS 名を定義します。

外部マネージャのアドレス (およびパス) が設定されている場合、システムはスタートアップ時にこのアドレスにメッセージを送信します。このメッセージを受信すると、外部マネージャ/プロビジョニング システムはそのユニットに設定/コマンドを結果として返すことができます。

CUCM または TMS プロビジョニングを使用する場合、外部マネージャ アドレスを自動的に提供するために DHCP サーバをセットアップできます (TMS には DHCP オプション 242、CUCM には DHCP オプション 150)。Provisioning ExternalManager Address で設定されたアドレスは、DHCP によって提供されるアドレスを上書きします。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

Provisioning ExternalManager AlternateAddress

エンドポイントが Cisco Unified Communications Manager (CUCM) でプロビジョニングされており、代替 CUCM が冗長性に利用可能な場合にのみ使用できます。代替 CUCM のアドレスを定義します。主な CUCM が使用できない場合、エンドポイントは代替 CUCM でプロビジョニングされます。主な CUCM が再び使用可能になると、エンドポイントはこの CUCM によってプロビジョニングされます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

Provisioning ExternalManager Protocol

要求を外部マネージャ/プロビジョニング システムに送信するときに HTTP (非セキュア通信) プロトコルを使用するか、HTTPS (セキュア通信) プロトコルを使用するかを定義します。

選択したプロトコルが NetworkServices HTTP Mode 設定で有効になっている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: HTTP

値スペース: HTTPS/HTTP

HTTPS: HTTPS を介して要求を送信します。

HTTP: HTTP を介して要求を送信します。

Provisioning ExternalManager Path

外部マネージャ/プロビジョニング システムへのパスを定義します。いくつかの管理サービスが同じサーバに存在する、つまり同じ外部マネージャのアドレスを共有する場合、この設定が必要です。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 255)

外部マネージャ/プロビジョニング システムへの有効なパス。

Provisioning ExternalManager Domain

VCS プロビジョニング サーバの SIP ドメインを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 64)

有効なドメイン名。

プロキシミティ 設定

Proximity Mode

ビデオ システムが超音波ペアリング メッセージを発するかどうかを決定します。

ビデオ システムが超音波を発すると、プロキシミティ クライアントはビデオ システムが近くにあることを検出できます。クライアントを使用するには、少なくとも 1 つのプロキシミティ サービスを有効にする必要があります (Proximity Services 設定を参照)。一般には、すべてのプロキシミティ サービスを有効にすることをお勧めします。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: ビデオ システムは超音波を発しないため、プロキシミティ サービスを使用できません。

On: ビデオ システムが超音波を発し、プロキシミティ クライアントはビデオ システムが近くにあることを検出できます。有効化されたプロキシミティ サービスを使用できます。

Proximity Services CallControl

プロキシミティ クライアントの基本的なコール制御機能を有効または無効にします。この設定を有効にすると、プロキシミティ クライアントを使用してコールを制御できます (ダイヤル、ミュート、音量の調整、通話の切断など)。このサービスは、モバイル デバイス (iOS および Android) でサポートされます。この設定を有効にするには、Proximity Mode を On にする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: 無効

値スペース: Enabled/Disabled

Enabled: プロキシミティ クライアントからのコール制御が有効になります。

Disabled: プロキシミティ クライアントからのコール制御が無効になります。

Proximity Services ContentShare FromClients

クライアントからのコンテンツ共有をイネーブルまたはディセーブルにします。この設定をイネーブルにすると、ビデオ システムで無線によって Proximity クライアントからコンテンツを共有できます (ラップトップ画面の共有など)。このサービスはラップトップ (OS X および Windows) でサポートされます。この設定を有効にするには、Proximity Mode を On に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: [有効 (Enabled)]

値スペース: Enabled/Disabled

Enabled: Proximity クライアントからのコンテンツ共有がイネーブルになります。

Disabled: Proximity クライアントからのコンテンツ共有がディセーブルになります。

Proximity Services ContentShare ToClients

Proximity クライアントに対するコンテンツ共有をイネーブルまたはディセーブルにします。イネーブルにすると、Proximity クライアントはビデオ システムからプレゼンテーションを受け取ります。詳細を拡大して、以前のコンテンツを表示し、スナップショットを作成できます。このサービスはモバイル デバイス (iOS および Android) でサポートされます。この設定を有効にするには、Proximity Mode を On にする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: 無効

値スペース: Enabled/Disabled

Enabled: Proximity クライアントに対するコンテンツ共有がイネーブルになります。

Disabled: Proximity クライアントに対するコンテンツ共有がディセーブルになります。

RoomReset 設定

RoomReset Control

適用なし

RTP 設定

RTP Ports Range Start

RTP ポート範囲の最初のポートを定義します。

デフォルトで、RTP および RTCP メディア データに 2326 ～ 2487 の範囲の UDP ポートを使用します。各メディア チャネルは RTP および RTCP に 2 つの隣接ポートを使用します。UDP ポート範囲に必要なポートの数は、エンドポイントで対応できる同時コールの数に基づいています。

注: この設定への変更を反映させるには、システムを再起動します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 2326

値スペース: 整数 (1024 ～ 65438)

RTP ポート範囲内で最初のポートを設定します。

RTP Ports Range Stop

RTP ポート範囲の最後のポートを定義します。

デフォルトで、RTP および RTCP メディア データに 2326 ～ 2487 の範囲の UDP ポートを使用します。各メディア チャネルは RTP および RTCP に 2 つの隣接ポートを使用します。UDP ポート範囲に必要なポートの数は、エンドポイントで対応できる同時コールの数に基づいています。

注: この設定への変更を反映させるには、システムを再起動します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 2486

値スペース: 整数 (1120 ～ 65535)

RTP ポート範囲内で最後のポートを設定します。

セキュリティ 設定

Security Audit Logging Mode

監査ログを記録または送信する場所を定義します。監査ログは syslog サーバに送信されます。

External/ExternalSecure モードを使用し、Security Audit Server PortAssignment 設定でポート割り当てを Manual に設定する場合は、Security Audit Server Address と Security Audit Server Port の設定で監査サーバのアドレスとポート番号も入力する必要があります。

必要なユーザ ロール: AUDIT

デフォルト値: Off

値スペース: Off/Internal/External/ExternalSecure

Off: 監査ロギングは実行されません。

Internal: システムは内部ログに監査ログを記録し、いっぱいになった場合はログをローテーションします。

External: システムは外部監査 syslog サーバに監査ログを送信します。syslog サーバでは UDP をサポートする必要があります。

ExternalSecure: システムは監査 CA リストの証明書で検証された外部 syslog サーバに暗号化された監査ログを送信します。監査 CA リスト ファイルは、Web インターフェイスを使用してコーデックにアップロードする必要があります。CA のリストの証明書の common_name パラメータは syslog サーバの IP アドレスと一致する必要があり、セキュア TCP サーバでセキュア (TLS) TCP syslog メッセージをリッスンするように設定される必要があります。

Security Audit OnError Action

syslog サーバへの接続が失われた場合の動作を定義します。この設定は、Security Audit Logging Mode が ExternalSecure に設定されている場合のみ関連します。

必要なユーザ ロール: AUDIT

デフォルト値: Ignore

値スペース: Halt/Ignore

Halt: 停止状態が検出された場合、システム コーデックはリブートし、停止状態が過ぎ去るまではオーディタだけが装置の操作を許可されます。停止状態が過ぎ去ると、監査ログは syslog サーバに再スプールされます。次のような停止状態があります。ネットワークの違反 (物理リンクなし)、動作中の外 Syslog サーバが存在しない (または syslog への間違ったアドレスまたはポート)、TLS 認証が失敗した (使用中の場合)、ローカル バックアップ (再スプール) ログがいっぱいになった。

Ignore: システムは、通常の動作を続行し、いっぱいになった場合は内部ログをローテーションします。接続が復元されると syslog サーバに再度監査ログを送信します。

Security Audit Server Address

監査ログは syslog サーバに送信されます。syslog サーバの IP アドレスを定義します。有効な IPv4 または IPv6 のアドレス形式のみが受け入れられます。ホスト名はサポートされていません。この設定は、Security Audit Logging Mode が External または ExternalSecure に設定されている場合のみ関連します。

必要なユーザ ロール: AUDIT

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

Security Audit Server Port

監査ログは syslog サーバに送信されます。システムが監査ログを送信する syslog サーバのポートを定義します。この設定は、Security Audit Server PortAssignment が [手動 (Manual)] に設定されている場合にのみ関連します。

必要なユーザ ロール: AUDIT

デフォルト値: 514

値スペース: 整数 (0 ~ 65535)

監査サーバ ポートを設定します。

Security Audit Server PortAssignment

監査ログは syslog サーバに送信されます。外部 syslog サーバのポート番号の割り当て方法を定義できます。この設定は、Security Audit Logging Mode が External または ExternalSecure に設定されている場合のみ関連します。使用しているポート番号を確認するために、Security Audit Server Port 状態をチェックできます。Web インターフェイスで [設定 (Configuration)] > [システム ステータス (System Status)] に移動するか、コマンドライン インターフェイスの場合はコマンド xStatus Security Audit Server Port を実行します。

必要なユーザ ロール: AUDIT

デフォルト値: Auto

値スペース: Auto/Manual

Auto: Security Audit Logging Mode が External にセットされている場合、UDP ポート番号 514 を使用します。[セキュリティ監査ロギング モード (Security Audit Logging Mode)] が [外部セキュア (ExternalSecure)] にセットされている場合、TCP ポート番号 6514 を使用します。

Manual: Security Audit Server Port) 設定で定義されたポート値を使用します。

Security Session InactivityTimeout

ユーザが Web セッション、Telnet セッション、または SSH セッションから自動的にログアウトする前に、システムがユーザの非アクティブ状態をどれくらいの時間受け入れるか定義します。

この設定への変更を反映させるには、システムを再起動します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

値スペース: 整数 (0 ~ 10000)

非アクティブ タイムアウト (分) を設定します。非アクティブ状態による自動ログアウトを適用しない場合は 0 を選択します。

Security Session MaxSessionsPerUser

ユーザ 1 人あたりの最大同時セッション数。0 (デフォルト値) は、ハード リミットがないことを意味します。セッションはリソースを消費するため、何らかの制限が設定されますが、これはさまざまな条件に応じて異なります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

値スペース: 整数 (0 ~ 100)

ユーザ 1 人あたりの最大セッション数。0 は、ハード リミットがないことを意味します。

Security Session MaxTotalSessions

同時セッション合計の最大数。0 (デフォルト値) は、ハード リミットがないことを意味します。セッションはリソースを消費するため、何らかの制限が設定されますが、これはさまざまな条件に応じて異なります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

値スペース: 整数 (0 ~ 100)

セッション合計の最大数。0 は、ハード リミットがないことを意味します。

Security Session ShowLastLogon

SSH または Telnet を使用してシステムにログインしたとき、前回ログインに成功したセッションの UserId、時刻および日付が表示されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

On: 最後のセッションに関する情報を表示します。

Off: 最後のセッションに関する情報を表示しません。

SerialPort 設定

SerialPort Mode

シリアル ポート (Micro USB から USB ケーブルへの接続を介して) をイネーブルまたはディセーブルにします。シリアル ポートは 115200 bps、8 データ ビット、パリティなし、1 ストップ ビットを使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: シリアル ポートをディセーブルにします。

On: シリアル ポートをイネーブルにします。

SerialPort LoginRequired

シリアル ポートに接続するときにログインが必要かどうかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: ユーザはログインせずに、シリアル ポート経由でコーデックにアクセスできます。

On: シリアル ポート経由でコーデックに接続するときに、ログインが必要です。

SIP 設定

SIP ANAT

ANAT (Alternative Network Address Types) は RFC 4091 で規定されている複数のアドレスとアドレス タイプのメディア ネゴシエーションをイネーブルにします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: ANAT をディセーブルにします。

On: ANAT をイネーブルにします。

SIP Authentication UserName

これは、SIP プロキシへの認証に使用されるクレデンシャルのユーザ名部分です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 128)

有効なユーザ名。

SIP Authentication Password

これは、SIP プロキシへの認証に使用されるクレデンシャルのパスワード部分です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 128)

有効なパスワード。

SIP DefaultTransport

LAN で使用するトランスポート プロトコルを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

値スペース: TCP/UDP/Tls/Auto

TCP: システムはデフォルトの転送方法として常に TCP を使用します。

UDP: システムはデフォルトの転送方法として常に UDP を使用します。

Tls: システムはデフォルトの転送方法として常に TLS を使用します。TLS 接続の場合、SIP CA リストをビデオ システムにアップロードできます。このような CA リストがシステムにない場合は匿名の Diffie Hellman が使用されます。

Auto: システムは、TLS、TCP、UDP の順序でトランスポート プロトコルを使用して接続を試みます。

SIP DisplayName

これが設定される場合、着信コールは SIP URI ではなく、表示名を報告します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 550)

SIP URI の代わりに表示される名前。

SIP Ice Mode

ICE (Interactive Connectivity Establishment, RFC 5245) は、最適化されたメディア パスを検出するためにビデオ システムで使用できる NAT トラバーサル ソリューションです。これにより、音声とビデオの最短ルートがビデオ システム間で常に確保されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

値スペース: Auto/Off/On

Auto:TURN サーバを指定した場合は ICE が有効になります。TURN サーバを指定しない場合は ICE は無効です。

Off:ICE は無効になります。

On:ICE は有効になります。

SIP Ice DefaultCandidate

ICE プロトコルでは、使用するメディア ルートを決定するまである程度の時間 (コールの最初の 5 秒まで) が必要です。この期間内では、この設定で定義されているデフォルト候補にビデオ システムのメディアが送信されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Host

値スペース: Host/Rflx/Relay

Host:ビデオ システムのプライベート IP アドレスにメディアを送信します。

Rflx:TURN サーバで認識されるビデオ システムのパブリック IP アドレスにメディアを送信します。

Relay:TURN サーバに割り当てられている IP アドレスとポートにメディアを送信します。

SIP Line

Cisco Unified Communications Manager (CUCM) に登録すると、エンドポイントを共有回線の一部にすることができます。これは、複数のデバイスが同じディレクトリ番号を共有することを意味します。RFC 4235 で規定されているように、同じ番号を共有する各デバイスは、ライン上のもう一方のピアランスからステータスを受け取ります。

共有回線はエンドポイントではなく CUCM によって設定されることに注意してください。そのため、手動でこの設定を変更しないでください。CUCM は必要に応じてこの情報をエンドポイントにブッシュします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Private

値スペース: Private/Shared

Shared:システムは共有回線の一部であるため、ディレクトリ番号を他のデバイスと共有します。

Private:このシステムは共有回線の一部ではありません (デフォルト)。

SIP ListenPort

SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをオンまたはオフにします。オフにした場合、エンドポイントは SIP レジストラ (CUCM または VCS) を介してのみ到達可能になります。この設定はデフォルト値のままにすることを推奨します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off:SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをオフにします。

On:SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをオンにします。

SIP Mailbox

Cisco Unified Communications Manager (CUCM) に登録すると、個人用ボイス メールボックスを所有するオプションが与えられます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 255>)

有効な番号またはアドレス。ボイス メールボックスがない場合は、文字列を空のままにしておきます。

SIP PreferredIPMedia

メディア (音声、ビデオ、データ) を送受信するための優先 IP バージョンを定義します。[Network IPStack] および [Conference CallProtocolIPStack] の両方が Dual に設定されていて、ネットワークに優先 IP バージョンを選択するメカニズムがない場合にのみ使用可能です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: IPv4

値スペース: IPv4/IPv6

IPv4: メディアの優先 IP バージョンは IPv4 です。

IPv6: メディアの優先 IP バージョンは IPv6 です。

SIP PreferredIPSignaling

シグナリングの優先 IP バージョンを定義します (音声、ビデオ、データ)。[Network IPStack] および [Conference CallProtocolIPStack] の両方が Dual に設定されていて、ネットワークに優先 IP バージョンを選択するメカニズムがない場合にのみ使用可能です。また、優先 IP バージョンが登録に使用されるように、DNS で A/AAAA ルックアップのプライオリティを指定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: IPv4

値スペース: IPv4/IPv6

IPv4: シグナリングの優先 IP バージョンは IPv4 です。

IPv6: シグナリングの優先 IP バージョンは IPv6 です。

SIP Proxy [1..4] Address

プロキシ アドレスは発信プロキシに手動で設定されたアドレスです。完全修飾ドメイン名、または IP アドレスを使用することが可能です。デフォルト ポートは、TCP および UDP の場合は 5060 ですが、もう 1 ポート準備できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

SIP TlsVerify

TLS 接続の場合、SIP CA リストをビデオ システムにアップロードできます。これは、Web インターフェイスから実行できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: 検証せずに TLS 接続を許可するには、Off に設定します。TLS 接続は、サーバから受信した x.509 証明書をローカル CA リストと確認せずにセットアップできます。これは通常、SIP CA リストがアップロードされていない場合に選択する必要があります。

On: TLS 接続を確認するには、On に設定します。x.509 証明書が CA リストで検証された、サーバへの TLS 接続だけが許可されます。

SIP Turn DiscoverMode

検出モードを定義し、DNS で利用可能な TURN サーバの検索に対してアプリケーションをイネーブル/ディセーブルにします。コールを発信する前に、システムはポート割り当てが可能かどうかを確認します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: 検出モードをディセーブルにします。

On: DNS で利用可能な TURN サーバを検索し、コールを発信する前にポート割り当てが可能かどうかをテストします。

SIP Turn DropRfx

DropRfx は、リモート エンドポイントが同じネットワークにない場合に限り、TURN リレー経由でエンドポイントにメディアを強制させます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: DropRfx をディセーブルにします。

On: リモート エンドポイントが別のネットワークにある場合、TURN リレー経由でメディアを強制します。

SIP Turn Server

TURN (Traversal Using Relay NAT) サーバのアドレスを定義します。これはメディア リレー フォールバックとして使用されるほか、エンドポイント固有のパブリック IP アドレスを検出するためにも使用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 255)

推奨される形式は DNS SRV レコード (例: `_turn._udp.<ドメイン>`) です。あるいは、有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスも可能です。

SIP Turn UserName

TURN サーバへのアクセスに必要なユーザ名を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 128)

有効なユーザ名。

SIP Turn Password

TURN サーバへのアクセスに必要なパスワードを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 128)

有効なパスワード。

SIP Type

ベンダーまたはプロバイダーに対する SIP 拡張および特別な動作をイネーブルにします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Standard

値スペース: Standard/Cisco

Standard: 標準 SIP プロキシに登録する場合はこれを使用します (Cisco TelePresence VCS および Broadsoft でテスト済み)

Cisco: Cisco Unified Communications Manager に登録する場合はこれを使用します。

SIP URI

SIP URI (Uniform Resource Identifier) は、ビデオ システムの識別に使用されるアドレスです。URI が登録され、SIP サービスによりシステムへの着信コールのルーティングに使用されます。SIP URI 構文は RFC 3261 で定義されています。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 255)

SIP URI 構文に準拠したアドレス (URI)。

Standby 設定

Standby AudioMotionDetection

ビデオ システムはそのプロキシシティ内に誰かがいることを自動的に検出できます。この機能が有効な場合、人物が検知されるとビデオ システムがスタンバイから起動します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: ビデオ システムのプロキシシティ内人物検知がオフです。

On: ビデオ システムのプロキシシティ内人物検知がオンです。

Standby Control

システムがスタンバイ モードに移行するかどうかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: システムはスタンバイ モードを開始しません。

On: Standby Delay がタイム アウトになると、システムはスタンバイ モードになります。Standby Delay を適切な値に設定する必要があります。

Standby Delay

スタンバイ モードに入る前に、システムがアイドル モードのまま経過する時間の長さ (分単位) を定義します。Standby Control がイネーブルである必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 10

値スペース: 整数 (1 ~ 480)

スタンバイ遅延 (分) を設定します。

Standby BootAction

コーデックの再起動後のカメラの位置を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: RestoreCameraPosition

値スペース: None/DefaultCameraPosition/RestoreCameraPosition

None: アクションはありません。

RestoreCameraPosition: ビデオ システムを再起動すると、カメラは再起動前の位置に戻ります。

DefaultCameraPosition: ビデオ システムを再起動すると、カメラは工場出荷時のデフォルト位置に移動します。

Standby StandbyAction

スタンバイ モードに入るときのカメラ位置を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: PrivacyPosition

値スペース: None/PrivacyPosition

None: アクションはありません。

PrivacyPosition: ビデオ システムがスタンバイ状態になると、プライバシーのために、カメラは横向きになります。

Standby WakeupAction

スタンバイ モードを抜けるときのカメラ位置を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: RestoreCameraPosition

値スペース: None/RestoreCameraPosition/DefaultCameraPosition

None: アクションはありません。

RestoreCameraPosition: ビデオ システムがスタンバイ状態から復帰すると、カメラはスタンバイ前の位置に戻ります。

DefaultCameraPosition: ビデオ システムがスタンバイ状態から復帰すると、カメラは工場出荷時のデフォルト位置に移動します。

SystemUnit 設定

SystemUnit Name

システム名を定義します。コーデックが SNMP エージェントとして機能している場合に、システム名は DHCP 要求でホスト名として送信されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 50)

システム名を定義します。

時刻設定

Time TimeFormat

時刻形式を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: 24H

値スペース: 24H/12H

24H: 24 時間の時間フォーマットを設定します。

12H: 12 時間 (AM/PM) の時間フォーマットを設定します。

Time DateFormat

日付形式を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: DD_MM_YY

値スペース: DD_MM_YY/MM_DD_YY/YY_MM_DD

DD_MM_YY: 2010 年 1 月 30 日は「30.01.10」と表示されます。

MM_DD_YY: 2010 年 1 月 30 日は「01.30.10」と表示されます。

YY_MM_DD: 2010 年 1 月 30 日は「10.01.30」と表示されます。

タイムゾーン

ビデオ システムの地理的な場所のタイムゾーンを定義します。値スペースの情報は、tz データベース (別名: IANA タイムゾーン データベース) から取得しています。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Etc/UTC

値スペース: Africa/Abidjan, Africa/Accra, Africa/Addis_Ababa, Africa/Algiers, Africa/Asmara, Africa/Asmera, Africa/Bamako, Africa/Bangui, Africa/Banjul, Africa/Bissau, Africa/Blantyre, Africa/Brazzaville, Africa/Bujumbura, Africa/Cairo, Africa/Casablanca, Africa/Ceuta, Africa/Conakry, Africa/Dakar, Africa/Dar_es_Salaam, Africa/Djibouti, Africa/Douala, Africa/El_Aaiun, Africa/Freetown, Africa/Gaborone, Africa/Harare, Africa/Johannesburg, Africa/Juba, Africa/Kampala, Africa/Khartoum, Africa/Kigali, Africa/Kinshasa, Africa/Lagos, Africa/Libreville, Africa/Lome, Africa/Luanda, Africa/Lubumbashi, Africa/Lusaka, Africa/Malabo, Africa/Maputo, Africa/Maseru, Africa/Mbabane, Africa/Mogadishu, Africa/Monrovia, Africa/Nairobi, Africa/Ndjamena, Africa/Niamey, Africa/Nouakchott, Africa/Ouagadougou, Africa/Porto-Novo, Africa/Sao_Tome, Africa/Timbuktu, Africa/Tripoli, Africa/Tunis, Africa/Windhoek, America/Adak, America/Anchorage, America/Anguilla, America/Antigua, America/Araguaina, America/Argentina/Buenos_Aires, America/Argentina/Catamarca, America/Argentina/ComodRivadavia, America/Argentina/Cordoba, America/Argentina/Jujuy, America/Argentina/La_Rioja, America/Argentina/Mendoza, America/Argentina/Rio_Gallegos, America/Argentina/Salta, America/Argentina/San_Juan, America/Argentina/San_Luis, America/Argentina/Tucuman, America/Argentina/Ushuaia, America/Aruba, America/Asuncion, America/Atikokan, America/Atka, America/Bahia, America/Bahia_Banderas, America/Barbados, America/Belem, America/Belize, America/Blanc-Sablon, America/Boa_Vista, America/Bogota, America/Boise, America/Buenos_Aires, America/Cambridge_Bay, America/Campo_Grande, America/Cancun, America/Caracas, America/Catamarca, America/Cayenne, America/Cayman, America/Chicago, America/Chihuahua, America/Coral_Harbour, America/Cordoba, America/Costa_Rica, America/Creston, America/Cuiaba, America/Curacao, America/Danmarkshavn, America/Dawson, America/Dawson_Creek, America/Denver, America/Detroit, America/Dominica, America/Edmonton, America/Eirunepe, America/El_Salvador, America/Ensenada, America/Fort_Nelson, America/Fort_Wayne, America/Fortaleza, America/Glace_Bay, America/Godthab, America/Goose_Bay, America/Grand_Turk, America/Grenada, America/Guadeloupe, America/Guatemala, America/Guayaquil, America/Guyana, America/Halifax, America/Havana, America/Hermosillo, America/Indiana/Indianapolis, America/Indiana/Knox, America/Indiana/Marengo, America/Indiana/Petersburg, America/Indiana/Tell_City, America/Indiana/Vevay, America/Indiana/Vincennes, America/Indiana/Winamac, America/Indianapolis, America/Inuvik, America/Iqaluit, America/Jamaica, America/Jujuy, America/Juneau, America/Kentucky/Louisville, America/Kentucky/Monticello, America/Knox_IN, America/Kralendijk, America/La_Paz, America/Lima, America/Los_Angeles, America/Louisville, America/Lower_Princes, America/Maceio, America/Managua, America/Manaus, America/Marigot, America/Martinique, America/Matamoros, America/Mazatlan, America/Mendoza, America/Menominee, America/Merida, America/Metlakatla, America/Mexico_City, America/Miquelon, America/Moncton, America/Monterrey, America/Montevidео, America/Montreal, America/Montserrat,

America/Nassau, America/New_York, America/Nipigon, America/Nome, America/Noronha, America/North_Dakota/Beulah, America/North_Dakota/Center, America/North_Dakota/New_Salem, America/Ojinaga, America/Panama, America/Pangnirtung, America/Paramaribo, America/Phoenix, America/Port-au-Prince, America/Port_of_Spain, America/Porto_Acre, America/Porto_Velho, America/Puerto_Rico, America/Rainy_River, America/Rankin_Inlet, America/Recife, America/Regina, America/Resolute, America/Rio_Branco, America/Rosario, America/Santa_Isabel, America/Santarem, America/Santiago, America/Santo_Domingo, America/Sao_Paulo, America/Scoresbysund, America/Shiprock, America/Sitka, America/St_Barthelemy, America/St_Johns, America/St_Kitts, America/St_Lucia, America/St_Thomas, America/St_Vincent, America/Swift_Current, America/Tegucigalpa, America/Thule, America/Thunder_Bay, America/Tijuana, America/Toronto, America/Tortola, America/Vancouver, America/Virgin, America/Whitehorse, America/Winnipeg, America/Yakutat, America/Yellowknife, Antarctica/Casey, Antarctica/Davis, Antarctica/DumontDUrville, Antarctica/Macquarie, Antarctica/Mawson, Antarctica/McMurdo, Antarctica/Palmer, Antarctica/Rothera, Antarctica/South_Pole, Antarctica/Syowa, Antarctica/Troll, Antarctica/Vostok, Arctic/Longyearbyen, Asia/Aden, Asia/Almaty, Asia/Amman, Asia/Anadyr, Asia/Aqtou, Asia/Aqtobe, Asia/Ashgabat, Asia/Ashkhabad, Asia/Baghdad, Asia/Bahrain, Asia/Baku, Asia/Bangkok, Asia/Barnaul, Asia/Beirut, Asia/Bishkek, Asia/Brunei, Asia/Calcutta, Asia/Chita, Asia/Choibalsan, Asia/Chongqing, Asia/Chungking, Asia/Colombo, Asia/Dacca, Asia/Damascus, Asia/Dhaka, Asia/Dili, Asia/Dubai, Asia/Dushanbe, Asia/Gaza, Asia/Harbin, Asia/Hebron, Asia/Ho_Chi_Minh, Asia/Hong_Kong, Asia/Hovd, Asia/Irkutsk, Asia/Istanbul, Asia/Jakarta, Asia/Jayapura, Asia/Jerusalem, Asia/Kabul, Asia/Kamchatka, Asia/Karachi, Asia/Kashgar, Asia/Kathmandu, Asia/Katmandu, Asia/Khandyga, Asia/Kolkata, Asia/Krasnoyarsk, Asia/Kuala_Lumpur, Asia/Kuching, Asia/Kuwait, Asia/Macao, Asia/Macau, Asia/Magadan, Asia/Makassar, Asia/Manila, Asia/Muscat, Asia/Nicosia, Asia/Novokuznetsk, Asia/Novosibirsk, Asia/Omsk, Asia/Oral, Asia/Phnom_Penh, Asia/Pontianak, Asia/Pyongyang, Asia/Qatar, Asia/Qyzylorda, Asia/Rangoon, Asia/Riyadh, Asia/Saigon, Asia/Sakhalin, Asia/Samarkand, Asia/Seoul, Asia/Shanghai, Asia/Singapore, Asia/Srednekolymsk, Asia/Taipei, Asia/Tashkent, Asia/Tbilisi, Asia/Tehran, Asia/Tel_Aviv, Asia/Thimbu, Asia/Thimphu, Asia/Tokyo, Asia/Tomsk, Asia/Ujung_Pandang, Asia/Ulaanbaatar, Asia/Ulan_Bator, Asia/Urumqi, Asia/Ust-Nera, Asia/Vientiane, Asia/Vladivostok, Asia/Yakutsk, Asia/Yekaterinburg, Asia/Yerevan, Atlantic/Azores, Atlantic/Bermuda, Atlantic/Canary, Atlantic/Cape_Verde, Atlantic/Faeroe, Atlantic/Faroe, Atlantic/Jan_Mayen, Atlantic/Madeira, Atlantic/Reykjavik, Atlantic/South_Georgia, Atlantic/St_Helena, Atlantic/Stanley, Australia/ACT, Australia/Adelaide, Australia/Brisbane, Australia/Broken_Hill, Australia/Canberra, Australia/Currie, Australia/Darwin, Australia/Eucla, Australia/Hobart, Australia/LHI, Australia/Lindeman, Australia/Lord_Howe, Australia/Melbourne, Australia/NSW, Australia/North, Australia/Perth, Australia/Queensland, Australia/South, Australia/Sydney, Australia/Tasmania, Australia/Victoria, Australia/West, Australia/Yancowinna, Brazil/Acre, Brazil/DeNoronha, Brazil/East, Brazil/West, CET, CST6CDT, Canada/Atlantic, Canada/Central, Canada/East-Saskatchewan, Canada/Eastern, Canada/Mountain, Canada/Newfoundland, Canada/Pacific, Canada/Saskatchewan, Canada/Yukon, Chile/Continental, Chile/EasterIsland, Cuba, EET, EST, EST5EDT, Egypt, Eire, Etc/GMT, Etc/GMT+0, Etc/GMT+1, Etc/GMT+10, Etc/GMT+11, Etc/GMT+12, Etc/GMT+2, Etc/GMT+3, Etc/GMT+4, Etc/GMT+5, Etc/GMT+6, Etc/GMT+7, Etc/GMT+8, Etc/GMT+9, Etc/GMT-0, Etc/GMT-1, Etc/GMT-10, Etc/GMT-11, Etc/GMT-12, Etc/GMT-13, Etc/GMT-14, Etc/GMT-2, Etc/GMT-3, Etc/GMT-4, Etc/GMT-5, Etc/

GMT-6、Etc/GMT-7、Etc/GMT-8、Etc/GMT-9、Etc/GMT0、Etc/Greenwich、Etc/UCT、Etc/UTC、
 Etc/Universal、Etc/Zulu、Europe/Amsterdam、Europe/Andorra、Europe/Astrakhan、Europe/
 Athens、Europe/Belfast、Europe/Belgrade、Europe/Berlin、Europe/Bratislava、Europe/Brussels、
 Europe/Bucharest、Europe/Budapest、Europe/Busingen、Europe/Chisinau、Europe/
 Copenhagen、Europe/Dublin、Europe/Gibraltar、Europe/Guernsey、Europe/Helsinki、Europe/
 Isle_of_Man、Europe/Istanbul、Europe/Jersey、Europe/Kaliningrad、Europe/Kiev、Europe/Kirov、
 Europe/Lisbon、Europe/Ljubljana、Europe/London、Europe/Luxembourg、Europe/Madrid、
 Europe/Malta、Europe/Mariehamn、Europe/Minsk、Europe/Monaco、Europe/Moscow、Europe/
 Nicosia、Europe/Oslo、Europe/Paris、Europe/Podgorica、Europe/Prague、Europe/Riga、Europe/
 Rome、Europe/Samara、Europe/San_Marino、Europe/Sarajevo、Europe/Simferopol、Europe/
 Skopje、Europe/Sofia、Europe/Stockholm、Europe/Tallinn、Europe/Tirane、Europe/Tiraspol、
 Europe/Ulyanovsk、Europe/Uzhgorod、Europe/Vaduz、Europe/Vatican、Europe/Vienna、Europe/
 Vilnius、Europe/Volgograd、Europe/Warsaw、Europe/Zagreb、Europe/Zaporozhye、Europe/
 Zurich、GB、GB-Eire、GMT、GMT+0、GMT-0、GMT0、Greenwich、HST、Hongkong、Iceland、Indian/
 Antananarivo、Indian/Chagos、Indian/Christmas、Indian/Cocos、Indian/Comoro、Indian/
 Kerguelen、Indian/Mahe、Indian/Maldives、Indian/Mauritius、Indian/Mayotte、Indian/Reunion、
 Iran、Israel、Jamaica、Japan、Kwajalein、Libya、MET、MST、MST7MDT、Mexico/BajaNorte、
 Mexico/BajaSur、Mexico/General、NZ、NZ-CHAT、Navajo、PRC、PST8PDT、Pacific/Apia、Pacific/
 Auckland、Pacific/Bougainville、Pacific/Chatham、Pacific/Chuuk、Pacific/Easter、Pacific/Efate、
 Pacific/Enderbury、Pacific/Fakaofo、Pacific/Fiji、Pacific/Funafuti、Pacific/Galapagos、Pacific/
 Gambier、Pacific/Guadalcanal、Pacific/Guam、Pacific/Honolulu、Pacific/Johnston、Pacific/
 Kiritimati、Pacific/Kosrae、Pacific/Kwajalein、Pacific/Majuro、Pacific/Marquesas、Pacific/Midway、
 Pacific/Nauru、Pacific/Niue、Pacific/Norfolk、Pacific/Noumea、Pacific/Pago_Pago、Pacific/Palau、
 Pacific/Pitcairn、Pacific/Pohnpei、Pacific/Ponape、Pacific/Port_Moresby、Pacific/Rarotonga、
 Pacific/Saipan、Pacific/Samoa、Pacific/Tahiti、Pacific/Tarawa、Pacific/Tongatapu、Pacific/Truk、
 Pacific/Wake、Pacific/Wallis、Pacific/Yap、Poland、Portugal、ROC、ROK、Singapore、Turkey、UCT、
 US/Alaska、US/Aleutian、US/Arizona、US/Central、US/East-Indiana、US/Eastern、US/Hawaii、US/
 Indiana-Starke、US/Michigan、US/Mountain、US/Pacific、US/Pacific-New、US/Samoa、UTC、
 Universal、W-SU、WET、Zulu

リストからタイムゾーンを選択します。

UserInterface 設定

UserInterface ContactInfo Type

ディスプレイまたはタッチ コントローラの左上隅にあるステータス フィールドに表示する、連絡先情報の種類を選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

値スペース: Auto/None/IPv4/IPv6/SipUri/SystemName/DisplayName

Auto: このシステムに到達するために別のシステムがダイヤルできるアドレスを示します。アドレスは、システム登録によって異なります。

None: 連絡先情報を一切表示しません。

IPv4: システムの IPv4 アドレスを表示します。

IPv6: システムの IPv6 アドレスを表示します。

SipUri: システムの SIP URI を表示します (SIP URI の設定を参照)。

SystemName: システム名を表示します (SystemUnit Name の設定を参照)。

DisplayName: システムの表示名を表示します (SIP DisplayName の設定を参照)。

UserInterface KeyTones Mode

リモコンのキーを押したときやタッチ コントローラでテキストや番号を入力したときにキーボード クリック効果音 (キー トーン) が鳴るように、システムを設定できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: キー トーンによる効果音はありません。

On: キー トーンによる効果音がオンになります。

UserInterface Language

画面およびタッチ コントローラでメニューやメッセージで使用する言語を選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

デフォルト値: English

値スペース: Arabic/Catalan/ChineseSimplified/ChineseTraditional/Czech/Danish/Dutch/English/EnglishUK/Finnish/French/FrenchCanadian/German/Hebrew/Hungarian/Italian/Japanese/Korean/Norwegian/Polish/PortugueseBrazilian/Russian/Spanish/SpanishLatin/Swedish/Turkish

リストから言語を選択します。

UserInterface OSD EncryptionIndicator

暗号化インジケータ (鍵) が画面に表示される時間の長さを定義します。暗号化されたコールはロックされた鍵のアイコンで示され、暗号化されていないコールはバツ印の付いたロックされた鍵のアイコンで示されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

値スペース: 自動/常時オン/常時オフ (Auto/AlwaysOn/AlwaysOff)

Auto: コールが暗号化されている場合は、「コールは暗号化されています (Call is encrypted)」という通知が 5 秒間表示され、コール中は暗号化インジケータ アイコンが表示されます。

コールが暗号化されていない場合は、「コールは暗号化されていません (Call is not encrypted)」という通知が 5 秒間表示されます。また、暗号化インジケータ アイコンは 5 秒後に画面から消えます。

AlwaysOn: 暗号化インジケータはコール全体にわたり画面上に表示されます。

AlwaysOff: 暗号化インジケータは画面上に表示されません。

UserInterface OSD Output

オンスクリーン用のメニュー、情報、インジケータ (OSD) を表示するモニタを定義します。システムがサポートするのは 1 台のモニターのみであるため、この値は固定されており、変更できません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 1

値スペース: 1

UserInterface Wallpaper

アイドル状態のときのビデオ画面の背景イメージ (壁紙) を選択します。

Web インターフェイスを使用してビデオシステムにカスタムの壁紙をアップロードできます。サポートされるファイル形式は次の BMP、JPEG、GIF、PNG です。最大ファイル サイズは 4 MByte です。カスタム壁紙を使用する場合、今後予定されている会議のリストとクロックがメイン ディスプレイから削除されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: Auto

値スペース: Auto/Custom/None

Auto: デフォルトの壁紙を使用します。

None: 画面に背景イメージはありません。

Custom: 画面の背景画像としてカスタムの壁紙を使用します。カスタム壁紙がシステムにアップロードされていない場合、設定がデフォルト値に戻ります。

UserInterface UserPreferences

一部のユーザ設定 (呼出音、音量、言語、日時など) は、タッチ コントローラの [設定 (Settings)] メニュー、または [設定 (Settings)] > [管理者 (Administrator)] メニューから利用できます。[管理者 (Administrator)] メニューにアクセスする場合は、ユーザは管理者権限を持っている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: ユーザ設定は、管理者権限を持つユーザに対して、タッチ コントローラの [設定 (Settings)] > [管理者 (Administrator)] メニューから選択できます。

On: ユーザ設定は、タッチ コントローラの [設定 (Settings)] メニューから選択できます。

UserManagement 設定

UserManagement LDAP Mode

ビデオ システムでは、ユーザ名とパスワードを保管、検証する一元的な場所として LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) サーバを使用できます。この設定を使用して、LDAP 認証を使用するかどうかを設定します。シスコの実装は、Microsoft Active Directory (AD) サービスに対してテストされています。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off:LDAP 認証は使用できません。

On:LDAP 認証を使用します。

UserManagement LDAP Server Address

LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名を設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、またはホスト名。

UserManagement LDAP Server Port

LDAP サーバへの接続に使用するポートを設定します。0 に設定すると、選択されているプロトコルのデフォルトが使用されます (UserManagement LDAP Encryption 設定を参照)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: [0]

値スペース: 整数 (0 ~ 65535)

LDAP サーバ ポート番号。

UserManagement LDAP Encryption

ビデオ システムと LDAP サーバ間の通信を保護する方法を定義します。UserManagement LDAP Server Port 設定を使用すると、ポート番号を上書きできます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: LDAPS

値スペース: LDAPS/None/STARTTLS

LDAPS:TLS (Transport Layer Security) を介して LDAP サーバのポート 636 に接続します。

None:暗号化なしで LDAP サーバのポート 389 に接続します。

STARTTLS:LDAP サーバのポート 389 に接続し、その後 TLS 暗号化を有効にするため STARTTLS を送信します。

UserManagement LDAP MinimumTLSVersion

使用可能な TLS (Transport Layer Security) プロトコルの最小バージョンを設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: TLSv1.2

値スペース: TLSv1.0/TLSv1.1/TLSv1.2

TLSv1.0:TLS バージョン 1.0 以降をサポートします。

TLSv1.1:TLS バージョン 1.1 以降をサポートします。

TLSv1.2:TLS バージョン 1.2 以降をサポートします。

UserManagement LDAP VerifyServerCertificate

ビデオ システムが LDAP サーバに接続されるときに、サーバがビデオ システムに対しサーバ自体を識別するために、証明書を提示します。この設定を使用して、ビデオ システムがサーバ証明書を確認するかどうかを決定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: ビデオ システムは LDAP サーバの証明書を確認しません。

On: LDAP サーバの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されていることをビデオ システムが確認する必要があります。CA は、事前にシステムにアップロードされている信頼できる CA のリストに含まれている必要があります。信頼できる CA のリストを管理するには、ビデオ システムの Web インターフェイスを使用します (詳細については管理者ガイドを参照してください)。

UserManagement LDAP Admin Filter

LDAP フィルタを使用して、管理者権限を付与するユーザを決定します。設定されている場合、この設定は UserManagement LDAP Admin Group 設定よりも優先されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0、1024)

この文字列の構文については LDAP の仕様を参照してください。例: "(CN=adminuser)"

UserManagement LDAP Admin Group

この AD (Active Directory) のメンバーには管理者アクセス権が付与されます。この設定は (memberOf:1.2.840.113556.1.4.1941:=<グループ名>) の簡略形です。UserManagement LDAP Admin Filter が設定されている場合、この設定は無視されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0、255)

この AD グループの識別名。例: "CN=admin_group, OU=company groups, DC=company, DC=com"

UserManagement LDAP Attribute

指定されたユーザ名へのマッピングに使用される属性。設定されていない場合は sAMAccountName が使用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0、255)

属性名。

ビデオ設定

Video ActiveSpeaker DefaultPiPPosition

通話中のスピーカーを示すピクチャインピクチャ (PiP) の画面上の位置を定義します。この設定は、通話中のスピーカーを PiP 表示するビデオ レイアウト (オーバーレイ レイアウト) を使用している場合にのみ有効です。また、場合によっては、カスタム レイアウトでも有効です (Video DefaultLayoutFamily Local の設定を参照)。この設定は、次回以降のコールで有効になります。コール中に変更された場合、現在のコールへの影響はありません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Current

値スペース: Current/UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight

Current: 通話中のスピーカーの PiP の位置はコール終了後にも変更されません。

UpperLeft: 通話中のスピーカーの PiP が画面の左上隅に表示されます。

UpperCenter: 通話中のスピーカーの PiP が画面の上部中央に表示されます。

UpperRight: 通話中のスピーカーの PiP が画面の右上隅に表示されます。

CenterLeft: 通話中のスピーカーの PiP が画面の左中央に表示されます。

CenterRight: 通話中のスピーカーの PiP が画面の右中央に表示されます。

LowerLeft: 通話中のスピーカーの PiP が画面の左下隅に表示されます。

LowerRight: 通話中のスピーカーの PiP が画面の右下隅に表示されます。

Video DefaultLayoutFamily Local

ローカルで使用するビデオ レイアウト ファミリを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

値スペース: Auto/Equal/Prominent/Overlay/Single>

Auto: システムによって提供されるローカル レイアウト データベースに指定されたデフォルト レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。

Equal: Equal レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。画面上に十分なスペースがある限り、すべてのビデオのサイズは等しくなります。

Prominent: Prominent レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。通話中のスピーカー、または (存在する場合) プレゼンテーションは大きい画像となり、他の参加者は小さい画像となります。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

Overlay: Overlay レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。通話中のスピーカー、または (存在する場合) プレゼンテーションは全画面表示となり、他の参加者は小さいピクチャ イン ピクチャ (PiP) となります。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

Single: 通話中のスピーカー、または (存在する場合) プレゼンテーションは全画面表示となります。他の参加者は表示されません。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

Video DefaultLayoutFamily Remote

リモート参加者が使用するビデオ レイアウト ファミリを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

値スペース: Auto/Equal/Prominent/Overlay/Single

Auto: ローカル レイアウト データベースによって指定される、デフォルト レイアウト ファミリが、リモート レイアウトとして使用されます。

Equal: Equal レイアウト ファミリがリモート レイアウトとして使用されます。画面上に十分なスペースがある限り、すべてのビデオのサイズは等しくなります。

Prominent: Prominent レイアウト ファミリがリモート レイアウトとして使用されます。通話中のスピーカー、または (存在する場合) プレゼンテーションは大きい画像となり、他の参加者は小さい画像となります。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

Overlay: Overlay レイアウト ファミリがリモート レイアウトとして使用されます。通話中のスピーカー、または (存在する場合) プレゼンテーションは全画面表示となり、他の参加者は小さいピクチャ イン ピクチャ (PiP) となります。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

Single: 通話中のスピーカー、または (存在する場合) プレゼンテーションは全画面表示となります。他の参加者は表示されません。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

Video DefaultMainSource

メイン ビデオ ソースとして使用されるビデオ入力ソースを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: 1

値スペース: 1

メイン ビデオ ソースとして使用されるソースを設定します。

Video Input Connector [1..3] CameraControl Mode

このビデオ入力コネクタに接続されているカメラを制御するかどうかを定義します。

カメラ制御はコネクタ 2 (HDMI) およびコネクタ 3 (VGA) では使用できないことに注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: コネクタ 1:On コネクタ 2、3:Off

値スペース: コネクタ 1:Off/On コネクタ 2、3:Off

off: カメラ制御をディセーブルにします。

On: カメラ制御をイネーブルにします。

Video Input Connector [1..3] CameraControl Camerale

カメラ ID は、ビデオ入力に接続されているカメラの一意の ID です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 1

値スペース: 1

カメラ ID は固定されており、変更できません。

Video Input Connector [1..3] InputSourceType

ビデオ入力に接続された入力ソースのタイプを選択します。
コネクタ 1 はシステムの内蔵カメラであることに注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: コネクタ 1:camera その他のコネクタ:PC

値スペース: コネクタ 1:camera その他のコネクタ:PC/camera/desktop/document_camera/mediaplayer/whiteboard/other

camera: カメラがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

desktop: ビデオ システムのモニタが、この入力に接続されている PC/ラップトップのメイン画面の場合に使用します。この場合、Video Input Connector [n] PresentationSelection 設定も desktop に設定する必要があります。

document_camera: ドキュメント カメラがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

mediaplayer: メディア プレーヤーがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

PC: コンピュータがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

whiteboard: ホワイトボード カメラがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

other: 他のオプションに該当しない場合に使用します。

Video Input Connector [1..3] Name

ビデオ入力コネクタの名前を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

値スペース: 文字列 (0, 50)

ビデオ入力コネクタの名前。

Video Input Connector [2..3] Quality

ビデオをエンコードして送信する場合は、高解像度と高フレーム レートとの間でトレード オフが生じます。一部のビデオ ソースでは、高フレーム レートが高解像度より重要である場合や、逆の場合もあります。この設定は、高フレーム レートと高解像度のどちらを優先するかを指定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Sharpness

値スペース: Motion/Sharpness

Motion: できるだけ高いフレーム レートにします。通常、多数の参加者がいる場合や画像の動きが激しい場合など、高フレーム レートが必要ときに使用されます。

Sharpness: できるだけ高い解像度にします。詳細なイメージやグラフィックに高い品質が必要な場合に使用されます。

Video Input Connector [1..3] OptimalDefinition Profile

この設定は、対応する Video Input Connector [n] Quality が Motion に設定されている場合のみ有効になります。

最適鮮明度プロファイルは、ビデオ会議室の照明状態とカメラと品質を反映します。光の条件およびカメラの品質が優れているほど、プロファイルが高くなります。良い光の条件では、ビデオ エンコーダは指定のコール レートに一層優れた品質 (高解像度またはフレーム レート) を提供します。通常、Normal または Medium プロファイルが推奨されます。ただし、光の条件が良い場合、特定のコール率の解像度を大きくするために、High プロファイルを設定できます。解像度は、発信側と着信側の両方のシステムでサポートされている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Medium

値スペース: Normal/Medium/High

Normal: 照明が通常から不良の環境には、このプロファイルを使用します。解像度は控えめに設定されます。

Medium: 安定した光条件および高品質なビデオ入力が必要です一部のコール レートの場合、これは高解像度へ移動できます。

High: 優れた全体的なエクスペリエンスを実現するには、理想に近いビデオ会議の光の状態および高品質なビデオ入力が必要です。高い解像度が使用されます。

Video Input Connector [2..3] PresentationSelection

ビデオ入力にプレゼンテーション ソースを接続するときの、ビデオ システムの動作を定義します。ビデオ システムがスタンバイ モードである場合、プレゼンテーション ソースを接続すると起動します。この設定が AutoShare に設定されている場合を除き、遠端とプレゼンテーションを共有するには、追加の操作(ユーザ インターフェイスで [共有 (Share)] を選択する操作)が必要です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: OnConnect

値スペース: AutoShare/Desktop/Manual/OnConnect

AutoShare: ケーブルに接続している場合、またはソースがアクティブ化された場合 (接続コンピュータがスリープ モードから起動する場合など) には、通話中にビデオ入力の内容が遠端とローカル画面に自動的に表示されます。ユーザ インターフェイスで [共有 (Share)] を選択する必要はありません。プレゼンテーション ソースがすでに接続されている場合にユーザがコールするかまたはコールに応答する場合は、ユーザ インターフェイスで [共有 (Share)] を手動で選択する必要があります。

Desktop: ケーブル接続している場合、またはソースがアクティブ化された場合 (接続コンピュータがスリープ モードから起動する場合など) に、ビデオ入力の内容が画面に表示されます。これは、アイドル状態のときとコール中のときの両方に適用されます。また、ビデオ入力にコール終了時にアクティブな入力であった場合には、コールを終了してもビデオ入力の内容が画面に表示されたままになります。

Manual: ユーザ インターフェイスで [共有 (Share)] を選択するまでは、ビデオ入力の内容は画面に表示されません。

OnConnect: ケーブル接続している場合、またはソースがアクティブ化される場合 (接続コンピュータがスリープ モードから起動する場合など) に、ビデオ入力の内容が画面に表示されます。それ以外の場合は、Manual モードと同じ動作です。

Video Input Connector [2] RGBQuantizationRange

ビデオ入力に接続されたデバイスは CEA-861 で規定されている RGB ビデオ量子化範囲の規則に従う必要があります。残念ながら、一部のデバイスは規格に準拠していないため、ソースの完全なイメージを取得するためにこの設定を使用して設定を上書きすることができます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

値スペース: Auto/Full/Limited

Auto: RGB 量子化範囲は CEA-861-E に従ったビデオ形式に基づいて自動的に選択されます。CE ビデオ形式は、限定された量子化範囲レベルを使用します。IT ビデオ形式は、完全な量子化範囲レベルを使用します。

Full: 完全な量子化の範囲。R、G、B の量子化範囲にはすべてのコード値 (0 ~ 255) が含まれます。これは CEA-861-E で規定されています。

Limited: 限定された量子化の範囲。極端なコード値を除いた R、G、B の量子化範囲 (16 ~ 235)。これは CEA-861-E で規定されています。

Video Input Connector [1..3] Visibility

ユーザ インターフェイスのメニューにあるビデオ入力コネクタの表示を定義します。

コネクタ 1 はシステムの内蔵カメラであり、プレゼンテーション ソースとして使用できないことに注意してください。

> Video Input Connector 2 Visibility (HDMI コネクタ) のデフォルト値は Always です。

> Video Input Connector 3 Visibility (VGA コネクタ) のデフォルト値は IfSignal です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: コネクタ 1:Never コネクタ 2:Always コネクタ 3:OnConnect

値スペース: コネクタ 1:Never コネクタ 2,3:Never/Always/IfSignal

Never: 入力ソースがプレゼンテーション ソースとして使用される見込みがない場合、Never に設定します。

Always: Always に設定すると、ビデオ入力コネクタ用メニュー選択はグラフィカル ユーザ インターフェイスに常に表示されます。

IfSignal: IfSignal に設定すると、ビデオ入力コネクタ用メニュー選択は、ビデオ入力に何か接続されている場合のみ表示されます。

Video Monitors

モニタ レイアウト モードを定義します。ビデオ システムがサポートするモニタは 1 台のみのため、この値は固定で変更できないことに注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Single

値スペース: Single

Single: レイアウトは、ビデオ システムのモニタに表示されます。

Video Output Connector [1] CEC Mode

ビデオ出力 (HDMI) は、Consumer Electronics Control (CEC) をサポートします。この設定が On の場合 (デフォルトは Off)、システムはシステム自体がスタンバイに移行する際にモニタをスタンバイ状態に設定するために CEC を使用します。同様に、システムがスタンバイから復帰するとき、システム自身がモニタを起動します。これを実現するには、出力に接続されるモニタは CEC と互換性があり、CEC がモニタに設定されている必要があります。

CEC については、製造業者によって異なるマーケティング名称が使用されていることに注意してください。例: Anynet+ (Samsung)、Aquos Link (シャープ)、BRAVIA Sync (Sony)、HDMI-CEC (日立)、Kuro Link (パイオニア)、CE-Link および Regza Link (東芝)、RIHD (オンキヨー)、HDAVI Control、EZ-Sync、VIERA Link (Panasonic)、EasyLink (Philips)、NetCommand for HDMI (三菱)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

値スペース: Off/On

Off: CEC 制御をディセーブルにします。

On: CEC 制御をイネーブルにします。

Video Output Connector [1] OverscanLevel

モニタによっては、画像全体を表示できない可能性があります。これはモニタに表示したときに、ビデオ システムから送信される画像の外側が、切断されることを意味します。

ビデオ システムに使用可能なフレームの外側を使用しないように指示するには、この設定を使用します。この部分はモニタによって切断されている可能性があります。この場合、画面上のビデオとメッセージの両方が拡大縮小されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: None

値スペース: None/Medium/High

None: ビデオ システムは出力解像度すべてを使用します。

Medium: ビデオ システムは出力解像度の外側 3 % を使用しません。

High: ビデオ システムは出力解像度の外側 6 % を使用しません。

Video Output Connector [1] Resolution

接続している画面の解像度とリフレッシュ レートを定義します。この値は固定されており、変更できません。

デフォルト値: Auto

値スペース: Auto

Auto: システムは接続されたモニタのネゴシエーションに基づいて自動的に最適な解像度の設定を試行します。

Video Output Connector [1] RGBQuantizationRange

HDMI 出力に接続されたデバイスは CEA-861 で規定されている RGB ビデオ量子化範囲の規則に従う必要があります。残念ながら、一部のデバイスは規格に準拠していないため、ディスプレイの完全なイメージを取得するためにこの設定を使用して設定を上書きすることができます。ほとんどの HDMI ディスプレイは完全な量子化範囲を予期するため、デフォルト値は Full に設定されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Full

値スペース: Auto/Full/Limited

Auto: RGB の量子化の範囲は、AVI インフォフレームの RGB 量子化範囲ビット (Q0、Q1) に基づいて自動的に選択されます。AVI インフォフレームが使用できない場合、RGB 量子化範囲は CEA-861-E に従ったビデオ形式に基づいて選択されます。

Full: 完全な量子化の範囲。R、G、B の量子化範囲にはすべてのコード値 (0 ~ 255) が含まれます。これは CEA-861-E で規定されています。

Limited: 限定された量子化の範囲。極端なコード値を除いた R、G、B の量子化範囲 (16 ~ 235)。これは CEA-861-E で規定されています。

Video Presentation DefaultPIPPosition

プレゼンテーションのピクチャインピクチャ (PiP) の画面上の位置を定義します。この設定は、ユーザ インターフェイスなどを使用して、プレゼンテーションが明示的に PiP に縮小されている場合のみ有効です。この設定は、次回以降のコールで有効になります。コール中に変更された場合、現在のコールへの影響はありません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Current

値スペース: Current/UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight

Current: プレゼンテーション PiP の位置はコール終了後にも変更されません。

UpperLeft: プレゼンテーション PiP が画面の左上隅に表示されます。

UpperCenter: プレゼンテーション PiP が画面の上部中央に表示されます。

UpperRight: プレゼンテーション PiP が画面の右上隅に表示されます。

CenterLeft: プレゼンテーション PiP が画面の左中央に表示されます。

CenterRight: プレゼンテーション PiP が画面の右中央に表示されます。

LowerLeft: プレゼンテーション PiP が画面の左下隅に表示されます。

LowerRight: プレゼンテーション PiP が画面の右下隅に表示されます。

Video Presentation DefaultSource

デフォルトのプレゼンテーション ソースとして使用するビデオ入力ソースを定義します。この設定は API やサードパーティ製ユーザ インターフェイスで使用できます。シスコ提供のユーザ インターフェイスを使用する場合は該当しません。

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルト値: 2

値スペース: 2

デフォルトのプレゼンテーション ソースとして使用するビデオ入力ソース。

Video Selfview Default Mode

コール終了後にメイン ビデオ ソース (セルフビュー) を画面に表示するかどうかを定義します。セルフビュー ウィンドウの位置とサイズはそれぞれ、Video Selfview Default PIPPosition 設定と Video Selfview Default FullscreenMode 設定によって決定されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Current

値スペース: Off/Current/On

Off: セルフビューはコール退出時にオフにされます。

Current: セルフビューはそのままの状態が残ります。つまりコール中にオンであった場合はコール終了後にもオンのままであり、コール中にオフであった場合はコール終了後にもオフのままです。

On: セルフビューはコール退出時にオンにされます。

Video Selfview Default FullscreenMode

コール終了後に、メイン ビデオ ソース (セルフビュー) を全画面表示するか、小さいピクチャインピクチャ (PiP) として表示するかを定義します。この設定はセルフビューがオンである場合にのみ適用されます (Video Selfview Default Mode 設定を参照)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Current

値スペース: Off/Current/On

Off: セルフビューは PiP として表示されます。

Current: セルフビューの画像のサイズはコール終了時に未変更の状態に保たれます。つまりコール中に PiP であった場合はコール終了後にも PiP のままであり、コール中に全画面であった場合はコール終了後にも全画面のままです。

On: セルフビューの画像は全画面表示されます。

Video Selfview Default PIPPosition

コール終了後に小さいセルフビュー ピクチャインピクチャ (PiP) を表示する画面上の位置を定義します。この設定は、セルフビューがオンで (Video Selfview Default Mode 設定を参照)、しかもフルスクリーン ビューがオフである場合 (Video Selfview Default FullscreenMode 設定を参照) にのみ適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Current

値スペース: Current/UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight

Current: セルフビュー PiP の位置はコール終了後にも変更されません。

UpperLeft: セルフビュー PiP が画面の左上隅に表示されます。

UpperCenter: セルフビュー PiP が画面の上部中央に表示されます。

UpperRight: セルフビュー PiP が画面の右上隅に表示されます。

CenterLeft: セルフビュー PiP が画面の左中央に表示されます。

CenterRight: セルフビュー PiP が画面の右中央に表示されます。

LowerLeft: セルフビュー PiP が画面の左下隅に表示されます。

LowerRight: セルフビュー PiP が画面の右下隅に表示されます。

Video Selfview OnCall Mode

コールをセットアップする短い間、この設定を使用してセルフ ビューがオンにされます。セルフ ビューをオンのままにしておく時間の長さは、Video Selfview OnCall Duration 設定で定義します。これは一般にセルフ ビューがオフの場合に適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

値スペース: Off/On

Off: セルフ ビューはコール セットアップ中に自動的に表示されません。

On: セルフ ビューはコール セットアップ中に自動的に表示されます。

Video Selfview OnCall Duration

この設定は Video Selfview OnCall Mode 設定がオンになっている場合にのみ有効です。この場合、ここで設定された秒数により、自動的にオフにされる前にセルフ ビューが表示される期間が決まります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 10

値スペース: 整数 (1 ~ 60)

範囲: セルフ ビューをオンにする期間を選択します。有効な範囲は、1 ~ 60 秒です。

Experimental 設定

試験的設定は、テストのためだけのもので、シスコと同意したのでない限り使用できません。これらの設定は記載されておらず、以降のリリースで変更されます。

付録

リモート コントロールと画面上のユーザ インターフェイスの使用方法

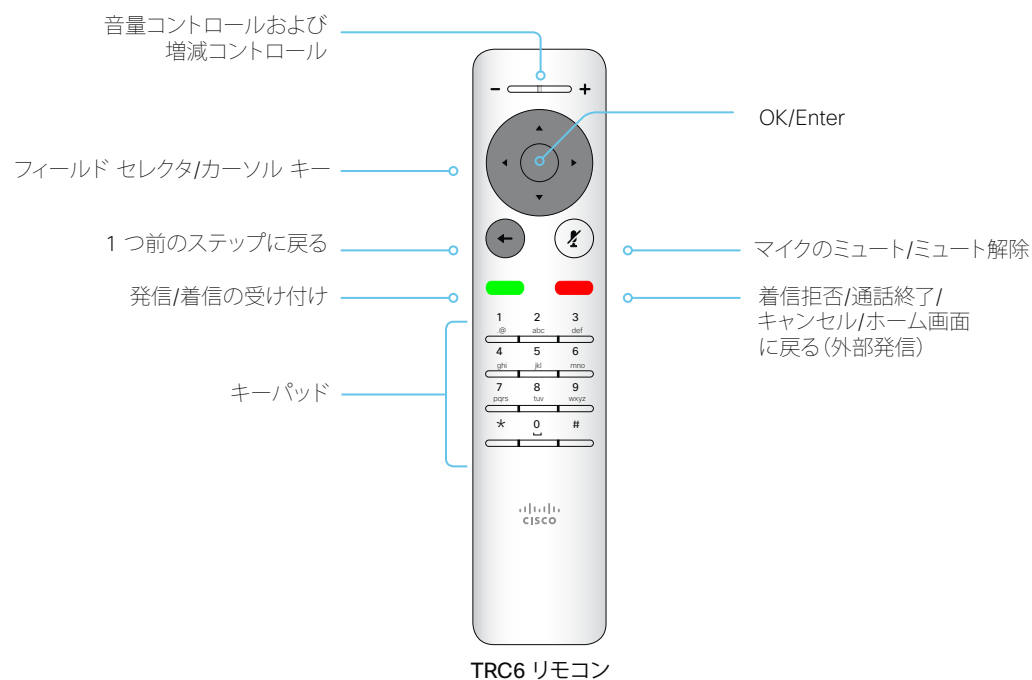
TRC6 リモート コントローラを使用してビデオ システムを操作する方法については、ビデオ システムのユーザ ガイドで詳しく説明しています。

TRC5 リモート コントローラはサポートされません。



[発信 (Call)] を押して、お気に入り、ディレクトリ、および履歴リストを含む連絡先を呼び出したり、[検索またはダイヤル (Search or Dial)] フィールドを開きます。

[共有 (Share)] を押すと、コンテンツの共有とプレゼンテーションを開始することができます。



操作のヒント

画面を移動するには、**カーソル** キーを使用します。**OK/Enter** キーを押して、選択したメニュー フィールドを開きます。

キャンセル キーを使用してメニューを終了し、ホーム画面に戻ります。変更内容を取り消します。戻るキーを使用して 1 つ前のステップに戻ります。

Touch 10 の使用方法

Touch 10 ユーザ インターフェイスおよびその使用方法の詳細については、お使いのビデオ システムのユーザ ガイドを参照してください。

プロキシミティ機能が使用可能かどうかを示します。

設定アイコン（歯車）をタップして [システム情報 (System Information)] や [設定 (Settings)] メニューを開いたり、ビデオ システムを再起動したり、[スタンバイ (Standby)]、[プロキシミティ (Proximity)]、および [着信拒否 (Do not disturb)] の各モードをアクティブ/非アクティブにしたりします。

室内制御のエントリ アイコン (使用可能な場合。システムによってエントリ アイコンが異なることがあります)。

? が使用可能な場合は、これをタップして、ヘルプ デスクにお問い合わせください。

セルフビューとカメラ制御をアクティブにするには、[カメラ (Camera)] アイコンをタップします。

時刻。

[共有 (Share)] をタップすると、コンテンツの共有とプレゼンテーションを開始することができます。

ダイヤル パッドを呼び出すには [ダイヤル (Dial)] をタップします。

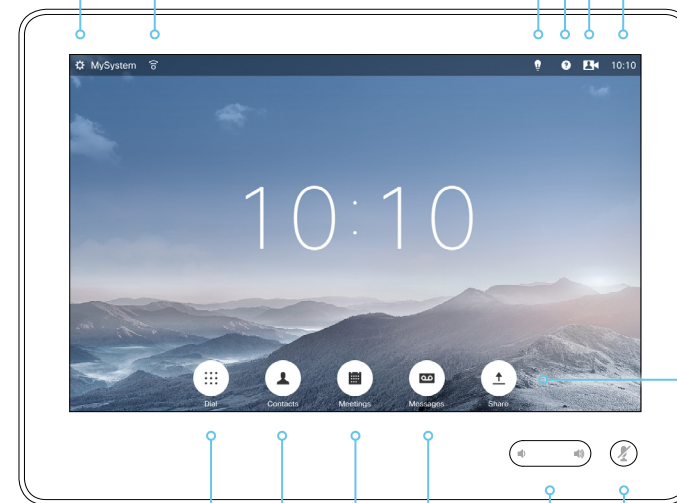
[連絡先 (Contacts)] をタップすると、[お気に入り (Favorites)]、[ディレクトリ (Directory)]、[発着信履歴 (Recents)] などを含む、連絡先のリストが呼び出されます。

次回予定されている会議のリストを呼び出すには [会議 (Meetings)] をタップします。

マイクをミュートまたはミュート解除するには、[マイク (Microphone)] ボタンを押します。

スピーカーの音量を下げるには音量ボタンの左側を押し続け、音量を上げるには右側を押し続けます。

ボイス メール システムを呼び出すには [メッセージ (Messages)] をタップします (使用可能な場合)。



リモート モニタリングのセットアップ

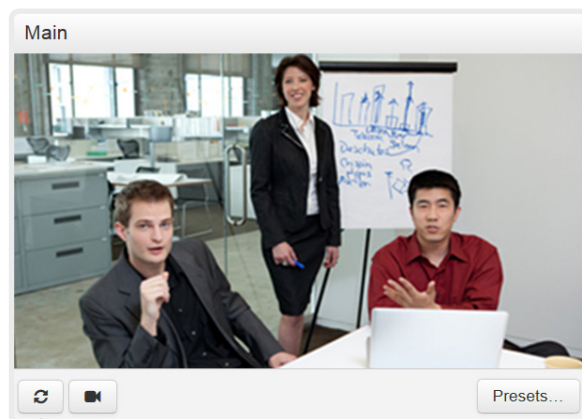
要件:

- *RemoteMonitoring* オプション

リモート モニタリングは別の場所からビデオ システムを制御するときに役立ちます。

入力ソースからのスナップショットは Web インターフェイスで表示されるので、会議室にいらなくてもカメラの画面を確認し、カメラを制御できます。

有効にすると、スナップショットが約 5 秒おきに自動的に更新されます。



スナップショットを自動更新する

ビデオ システムに *RemoteMonitoring* オプションがあるかどうかを確認する

1. Web インターフェイスにログインします。
2. [ホーム (Home)] ページで、インストールされているオプションのリストに *RemoteMonitoring* があるかどうかを確認します。
リストになければ、リモート モニタリングは使用できません。

リモート モニタリングを有効にする

RemoteMonitoring オプション キーをインストールします。オプション キーのインストール方法については、「[オプション キーの追加](#)」の章を参照してください。

リモート モニタリング オプションをイネーブルにする場合は、プライバシーに関する地域の法律および規制を遵守する必要があります。また、システム管理者がカメラや画面を監視および制御する場合があることを、システムのユーザに適切な方法で通知してください。システムの使用時にプライバシー規制を遵守するのはお客様の責任であり、シスコはこの機能の違法な使用について一切の責任を否認します。

スナップショットについて

ローカル入力ソース

ビデオ システムのローカル入力ソースのスナップショットは [コール制御 (Call Control)] ページに表示されます。

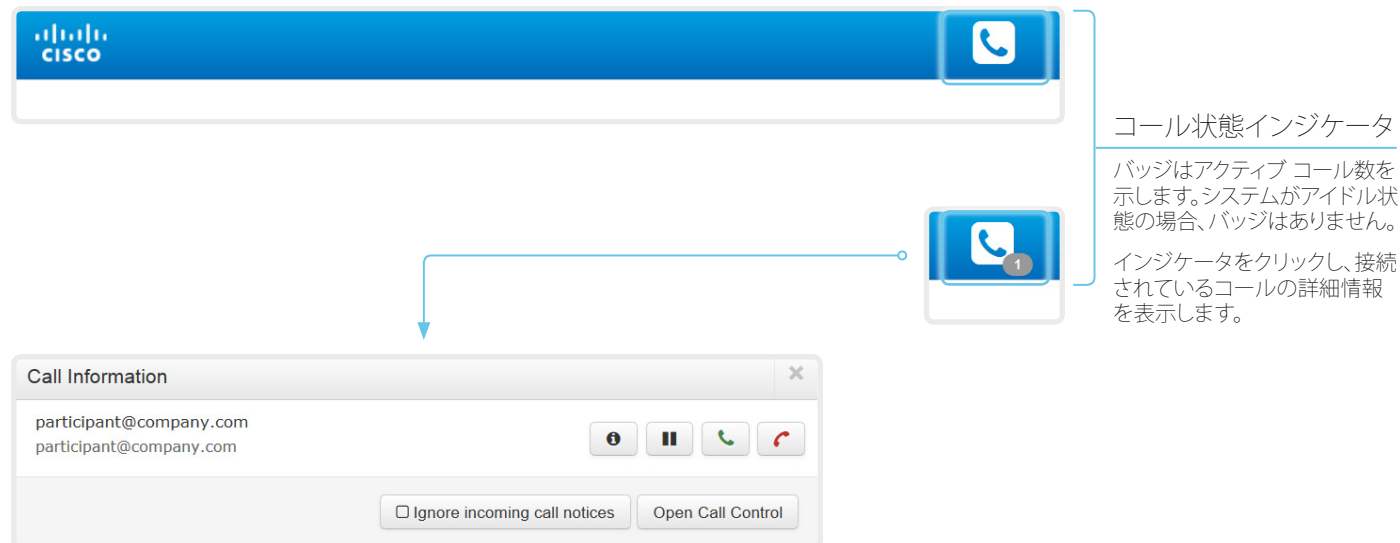
スナップショットは、ビデオ システムがアイドル状態の際にも、通話中にも表示されます。

遠端のスナップショット

通話中に、遠端カメラからのスナップショットを表示することもできます。遠端ビデオ システムに *RemoteMonitoring* オプションがあるかどうかは問題ではありません。

コールが暗号化されると遠端スナップショットは表示されません。

Web インターフェイスの使用中に通話情報にアクセスする



コール状態インジケータについて

コール状態インジケータは、システムが通話中であるかどうかを示します。着信コールについてユーザに通知することもできます。

コール状態インジケータは【コール制御 (Call Control)】ページ以外のすべてのページで使用できます。

通話情報ウィンドウを開く

【コール情報 (Call Information)】ウィンドウを手動で開くには、【コール状態インジケータ (Call state indicator)】をクリックします。

デフォルトでは、ビデオ システムがコールを着信したときに【コール情報 (Call Information)】ウィンドウが自動的にポップアップします。

着信コール通知のオン/オフを切り替える

ビデオ システムがコールを受信したときに【コール情報 (Call Information)】ウィンドウが自動的にポップアップするかどうかを決定するには、【着信コール通知を無視する (Ignore incoming call notices)】をクリックします。





このチェックボックスがオンになっていると、【コール情報 (Call Information)】ウィンドウは自動的に開きません。

【コール制御 (Call Control)】ページを開く

【コール制御 (Call Control)】ページに直接移動するには、【コール制御を開く (Open Call Control)】をクリックします。

コールを制御する

関連するコントロール ボタンが【コール情報 (Call Information)】ウィンドウに表示されます。これらのボタンを使用して次の操作を行うことができます。

-  コールの詳細を表示する
-  コールを保留にする
-  コールに応答する
-  コールを切断する

Web インターフェイスを使用してコールを発信する (1/2 ページ)

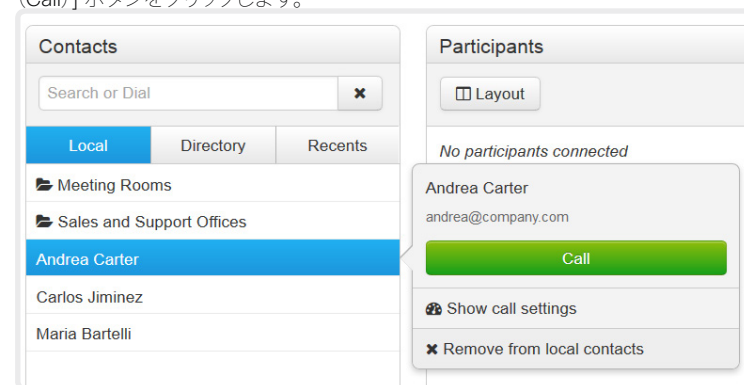
Web インターフェイスにログインし、[コール制御 (Call Control)] に移動します。

コールを発信する

i Web インターフェイスを使用してコールを開始する場合でも、コールに使用されるのはビデオ システム (ディスプレイ、マイクおよびスピーカー) であり、Web インターフェイスを実行する PC ではありません。

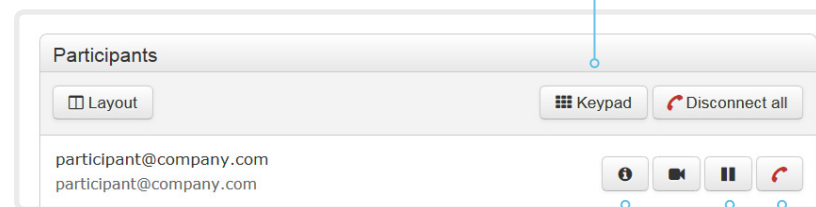
1. [ローカル (Local)]、[ディレクトリ (Directory)]、または [新着 (Recents)] リストを参照して正しいエントリを見つけるか、[検索] または [ダイヤル (Search or Dial)] フィールドに 1 つ以上の文字列を入力します*。正しい連絡先名をクリックします。
2. 連絡先カードで [コール (Call)] をクリックします。

または、[検索して発信 (Search and Dial)] フィールドに完全な URI または番号を入力します。次に、URI または番号の横に表示される [コール (Call)] ボタンをクリックします。



DTMF トーンの送信

クリックしてキーパッドを開きます。このキーパッドは、アプリケーションで DTMF (デュアル トーン多重周波数) シグナリングを必要とする場合に使用できます。



コールの詳細の表示/非表示

[情報ボタン (information button)] をクリックすると、コールの詳細情報が表示されます。

もう一度ボタンをクリックすると情報が非表示になります。

コールの保留および復帰

参加者の隣にある [] ボタンを使用すると、その人が保留状態になります。

コールを再開するには、保留中の参加者に表示される [] ボタンを使用します。

コールの終了

コールを終了するには、[全通話切断 (Disconnect all)] または [] ボタンをクリックします。

* 検索時には、入力内容に応じて、[ローカル (Local)]、[ディレクトリ (Directory)] または [発着信履歴 (Recents)] リストに一致するエントリが表示されます。

Web インターフェイスを使用してコールを発信する (2/2 ページ)

Web インターフェイスにログインし、[コール制御 (Call Control)] に移動します。

複数の相手に発信

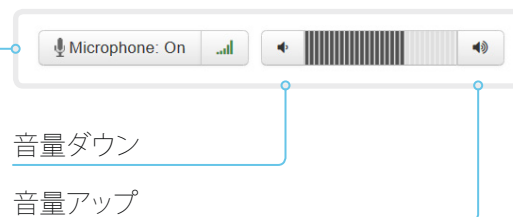
会議ブリッジを使用した複数のコール (CUCM のアドホック会議) は、ビデオ システムでサポートされていても Web インターフェイスではサポートされません。

ボリュームを調整する

マイクをミュートにする

[マイク: オン (Microphone: On)] をクリックすると、マイクがミュートされます。すると、テキストが [マイク: オフ (Microphone: Off)] に変わります。

[マイク: オフ (Microphone: Off)] をクリックすると、ミュートが解除されます。



Web インターフェイスを使用してコンテンツを共有する

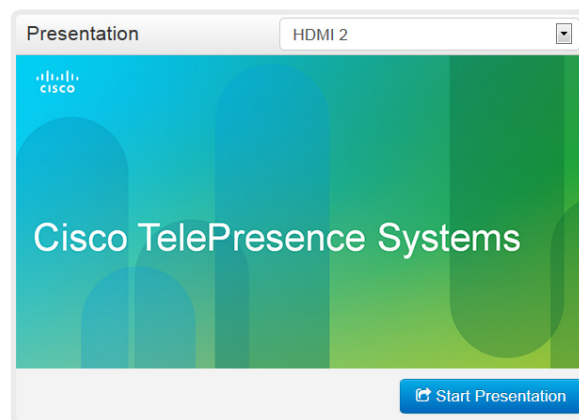
Web インターフェイスにログインし、[コール制御 (Call Control)] に移動します。

コンテンツを共有する

1. [プレゼンテーション ソース (Presentation Source)] ドロップダウン リストで、共有するコンテンツ ソースを選択します。
2. [プレゼンテーションの開始 (Start Presentation)] をクリックします。そうすると、テキストが [プレゼンテーションの停止 (Stop Presentation)] に変わります。

コンテンツ共有の停止:

共有している間に表示される [プレゼンテーションを中止 (Stop Presentation)] ボタンをクリックします。



[プレゼンテーション ソース (Presentation Source)] ドロップダウン リスト

ドロップダウン リストから、共有する入力ソースを選択します。

スナップショット領域

選択したプレゼンテーション ソースのスナップショットを表示します。

リモート モニタリング オプションのあるビデオ システムでのみ、使用可能です。

コンテンツの共有について

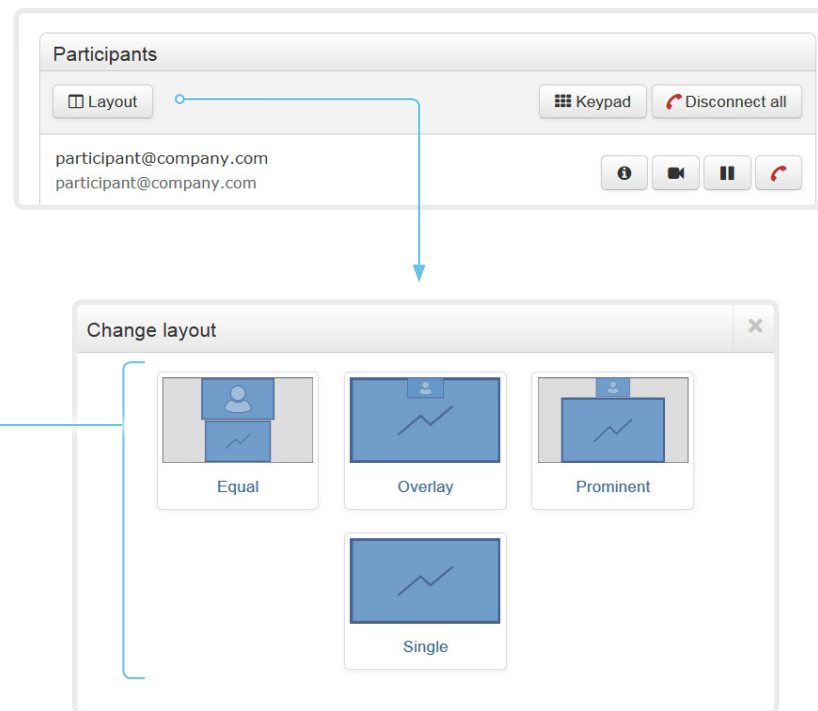
ビデオ システムのビデオ入力の 1 つにプレゼンテーション ソースを接続できます。プレゼンテーション ソースとして最も多く使用されるのは PC ですが、システムの設定によってはその他のオプションを使用できる場合があります。

コールの間、コールの他の参加者 (遠端) とコンテンツを共有できます。

通話中でない場合は、コンテンツがローカルに共有されます。

ローカル レイアウトの制御

Web インターフェイスにログインし、[コール制御 (Call Control)] に移動します。



レイアウトの変更

[レイアウト (Layout)] をクリックし、表示されるウィンドウで望ましいレイアウトを選択します。

選択するレイアウトのセットは、システム設定によって異なります。

レイアウトの変更は、コール中でもアイドル時でも可能です。

レイアウトについて

ここでいうレイアウトとは、ビデオとプレゼンテーションを画面に表示するさまざまな方法のことです。会議の種類によって、レイアウトを変える必要があります。

ローカル カメラの制御

Web インターフェイスにログインし、[コール制御 (Call Control)] に移動します。

前提条件

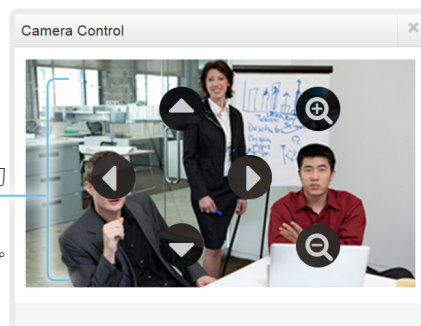
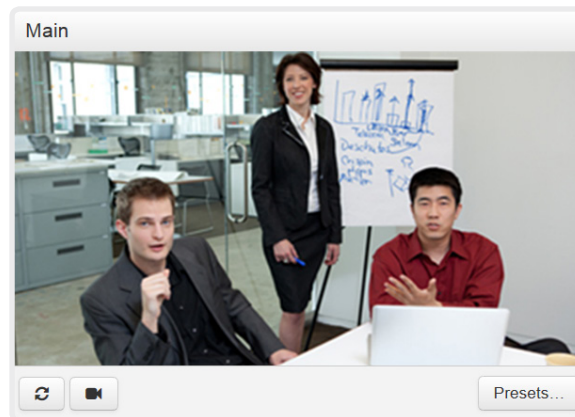
- ・ [ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ n (Connector n)] > [カメラ制御 (CameraControl)] > [モード (Mode)] の設定が On。
- ・ カメラにパン、チルト、またはズーム機能が付いている。

[スナップショット (Snapshot)] 領域

メイン入力ソースのスナップショットが表示されます。

リモート モニタリング オプションがあるビデオ システムでのみ利用できます。

スナップショットを自動更新する




パン/チルト/ズーム コントロールを使用したカメラの移動

1. カメラ アイコンをクリックして、カメラ制御ウィンドウを開きます。
部屋からのビデオ スナップショットは、リモート モニタリング オプションがあるビデオ システムにのみ表示されます。
2. カメラのパンには左右の矢印キー、チルトには上下の矢印キー、ズームインとズームアウトには + および - を使用します。
ウィンドウには該当するコントロールだけが表示されます。



カメラのプリセット位置への移動

1. [プリセット... (Presets...)] をクリックして、使用可能なプリセットのリストを開きます。
プリセットが定義されていない場合は、ボタンが無効になり、[プリセットなし (No presets)] と表記されます。
2. プリセットの名前をクリックして、プリセット位置にカメラを移動します。
3. [OK] をクリックしてウィンドウを閉じます。

 Web インターフェイスを使用してプリセットは定義できません。タッチ コントローラを使用する必要があります。

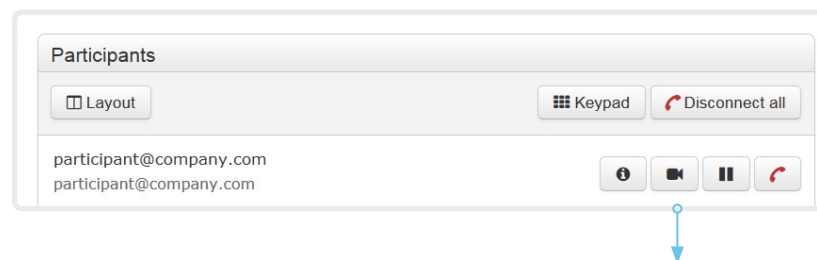
遠端カメラの制御

Web インターフェイスにログインし、[コール制御 (Call Control)] に移動します。

前提条件

以下の条件において、通話中にリモート参加者のカメラ (相手先) を制御できます。

- ・ [会議 (Conference)] > [遠端制御 (FarEndControl)] > [モード (Mode)] 設定が遠端ビデオ システムで On に切り替わっている。
- ・ 遠端カメラにパン、チルト、ズーム機能がある。関連する制御のみ表示される。
- ・ ローカル ビデオ システムにリモート モニタリング オプションがある。

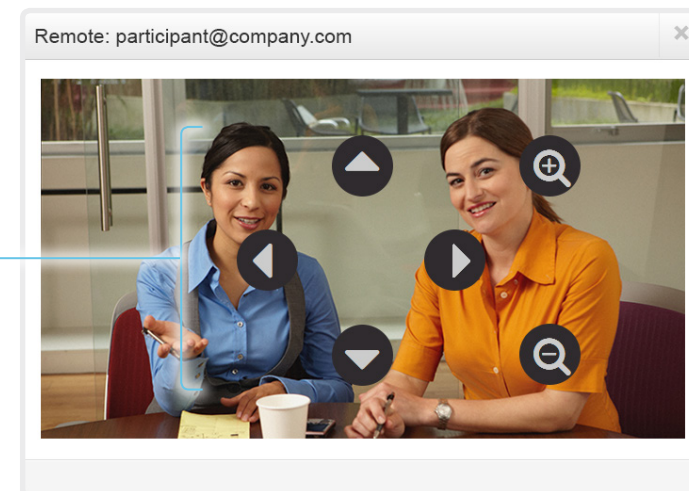


リモート参加者のカメラを制御

1. リモート カメラ制御ウィンドウを開くには、カメラのアイコンをクリックします。
2. カメラのパンには左右の矢印キー、チルトには上下の矢印キー、ズームインとズームアウトには **+** および **-** を使用します。

遠端カメラの制御が許可されていない場合、コントロールは表示されません。

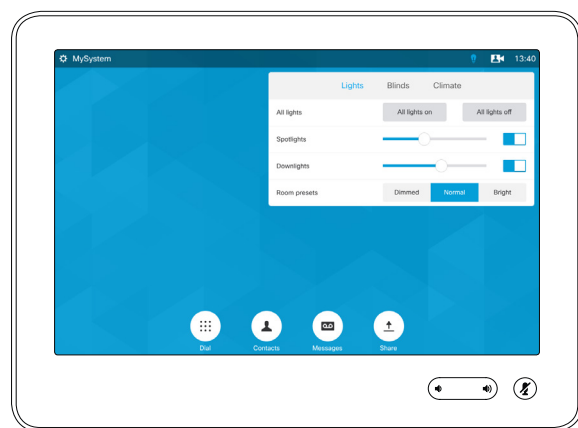
コールが暗号化されている場合、コントロールの背後に遠端スナップショットが表示されません。



Touch 10 への室内制御の追加

Touch 10 のユーザ インターフェイスをカスタマイズして、照明やブラインドなど、会議室内にある周辺機器を制御できます。

これにより、制御システムの機能と使いやすい Touch 10 ユーザ インターフェイスを高度に連携させて利用することができます。



Touch 10 の室内制御パネルの例

室内制御エディタを使用して室内制御パネルを設計する方法と、ビデオシステムの API を使用して室内制御をプログラミングする方法の詳細については、『*In-Room Control guide (室内制御ガイド)*』を参照してください。参照先:

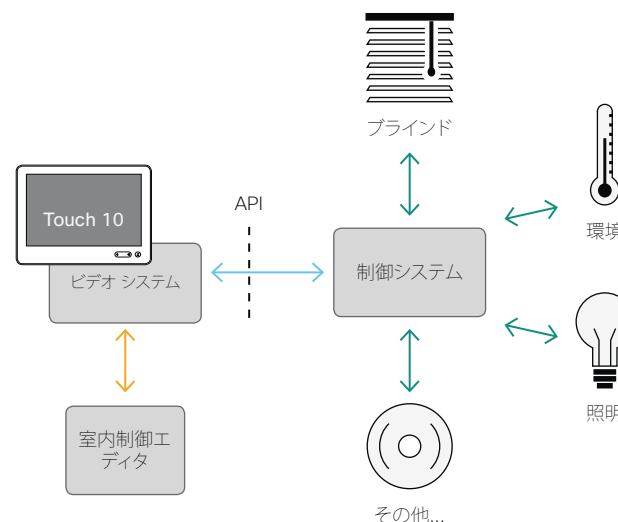
▶ <http://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

アーキテクチャ

タッチ コントローラとサードパーティ制御システム (Creston や AMX など) を備え、周辺機器のハードウェア ドライバを備えたシスコ ビデオシステムが必要です。これはビデオ システムではなく、周辺機器を制御する制御システムです。

制御システムをプログラミングするときには、タッチ コントローラのコントロールに接続するために、ビデオ システムの API (イベントとコマンド) を使用する必要があります。

ビデオ システムのソフトウェアに、使いやすいドラッグアンドドロップ型エディタが無料で付属しています。このエディタはカスタム室内制御パネルを作成するときに使用します。



室内制御の概略図

室内制御エディタ

室内制御エディタを使用して、タッチ コントローラのカスタム室内制御パネルを作成できます。

Web インターフェイスにサインイン^{*}して、[統合 (Integration)] > [室内制御 (In-Room Control)] に移動します。

- [エディタの起動 (Launch Editor)] をクリックし、ビデオ システムの Web インターフェイスからエディタを直接起動します。

新しい室内制御パネルをビデオ システムにプッシュして、タッチ コントローラで結果をすぐに確認することができます。

- [エディタのダウンロード (Download Editor)] をクリックして、オフラインでの作業に使用できるスタンドアロンバージョンをダウンロードします。

^{*} 室内制御エディタと、制御システムをプログラミングする場合に必要な API コマンドを使用するには、ROOMCONTROL または ADMIN ユーザ ロールが割り当てられているユーザが必要です。

スタートアップ スクリプトを管理する

Web インターフェイスにサインインして、[統合 (Integration)] > [スタートアップ スクリプト (Startup Scripts)] に移動します。

スタートアップ スクリプトのリスト

1 つ以上のスタートアップ スクリプトを作成できます*

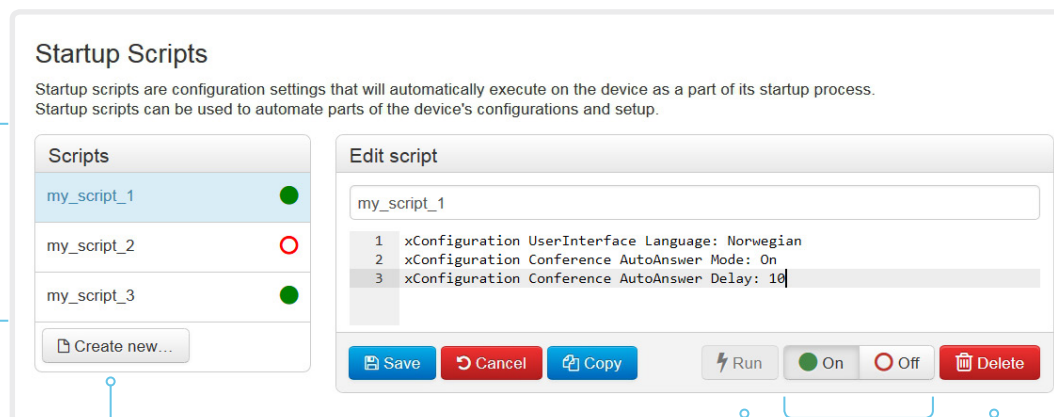
緑色の点はアクティブなスタートアップ スクリプトの横に、赤い丸は非アクティブなスタートアップ スクリプトの横に表示されます。

複数のスタートアップ スクリプトがある場合は、リストの上から下に順番に実行されます。

スタートアップ スクリプトを作成する

1. [Create new... (新規作成...)] をクリックします。
2. タイトル入力フィールドにスタートアップ スクリプトの名前を入力します。
3. コマンド入力領域に、コマンド (xConfiguration または xCommand) を入力します。新しい行で各コマンドを開始します。
4. [保存 (Save)] をクリックします。
5. On をクリックすると、スタートアップ スクリプトがアクティブになります。

既存のスクリプトを使用して編集を開始するには、そのスクリプトを選択して [コピー (Copy)] をクリックします。



図に示すスクリプト名と設定は一例です。独自のスクリプトを作成できます。

スタートアップ スクリプトをすぐに実行する

1. リストからスタートアップ スクリプトを選択します。
2. [実行 (Run)] をクリックします。
アクティブなスタートアップ スクリプトも非アクティブなスタートアップ スクリプトもすぐに実行できます。

スタートアップ スクリプトをアクティブ化または非アクティブ化する

1. リストからスタートアップ スクリプトを選択します。
2. スクリプトをアクティブ化するには On を、非アクティブ化するには Off をクリックします。
アクティブなスタートアップ スクリプトはビデオ システムが起動するたびに実行されます。

スタートアップ スクリプトを削除する

1. リストからスタートアップ スクリプトを選択します。
2. [削除 (Delete)] をクリックします。

スタートアップ スクリプトについて

スタートアップ スクリプトには起動手順の一部として実行されるコマンド (xCommand) および構成 (xConfiguration) が含まれます。

xCommand SystemUnit Boot などのいくつかのコマンドと設定はスタートアップ スクリプトに配置することができません。不正なコマンドや設定が含まれるスクリプトは保存できません。

xCommand および xConfiguration の構文とセマンティックは、製品の API ガイドに説明されています。

ビデオ システムの XML ファイルにアクセスする

Web インターフェイスにサインインして、[統合 (Integration)] > [開発者 API (Developer API)] に移動します。

XML ファイルはビデオ システムの API の一部です。このファイルには、システムに関する情報が階層構造で保存されています。

- *Configuration.xml* には現在のシステム設定 (コンフィギュレーション) が含まれます。これらの設定は、Web インターフェイスまたは API (アプリケーション プログラミング インターフェイス) から制御されます。
- *status.xml* 内の情報は常にビデオ システムによって更新され、システムおよびプロセスの変更が反映されます。ステータス情報は、Web インターフェイスまたは API からモニタされます。
- *Command.xml* にはアクションの実行をシステムに指示するために使用できるコマンドの概要が含まれます。コマンドは、API から発行されます。
- *Valuespace.xml* にはシステム設定、ステータス情報、およびコマンドのすべての値スペースの概要が含まれます。

XML ファイルを開く

XML ファイルを開くにはファイル名をクリックします。

API について

アプリケーション プログラミング インターフェイス (API) は、ビデオ システムを使用する統合技術者や開発者を対象としたツールです。API に関する詳細は、ビデオ システムの API ガイドを参照してください。

Web インターフェイスから API コマンドと構成を実行する

Web インターフェイスにサインインして、[統合 (Integration)] > [開発者 API (Developer API)] に移動します。

コマンド (xCommand) と設定 (xConfiguration) は Web インターフェイスから実行できます。構文とセマンティクスについては、ビデオ システムの API ガイドを参照してください。

API コマンドと構成を実行する

1. テキスト領域でコマンド (xCommand か xConfiguration)、またはコマンド シーケンスを入力します。
2. [実行 (Execute)] をクリックしてコマンドを発行します。

Execute API commands and configurations

In the field below you can enter API commands (xCommand and xConfiguration) directly.

For example: xCommand Dial Number: "person@example.com" Protocol: Sip

Enter commands...

Execute

API について

アプリケーション プログラミング インターフェイス (API) は、ビデオ システムを使用する統合技術者や開発者を対象としたツールです。API に関する詳細は、ビデオ システムの API ガイドを参照してください。

シリアル インターフェイス

ビデオ システムと直接通信するには、Micro USB コネクタを使用します。Micro USB から USB へのケーブルが必要です。コンピュータでシリアル ポート ドライバが自動インストールされない場合は、シリアル ポート ドライバをコンピュータに手動でインストールする必要があります。

ターミナル エミュレータ (SSH クライアント) を使用してシリアル インターフェイスに接続します。最も一般的なコンピュータ タイプ (PC、MAC) とオペレーティング システムの場合、PuTTY または Tera Term を使用できます。

シリアル接続は、IP アドレス、DNS、ネットワークなしでも使用できます。

パラメータ:

- ・ ボー レート: 115200 bps
- ・ データ ビット: 8
- ・ パリティ: なし
- ・ ストップ ビット: 1

ビデオ システムの設定

シリアル通信はデフォルトで有効になっています。次の設定を使用して動作を変更します。

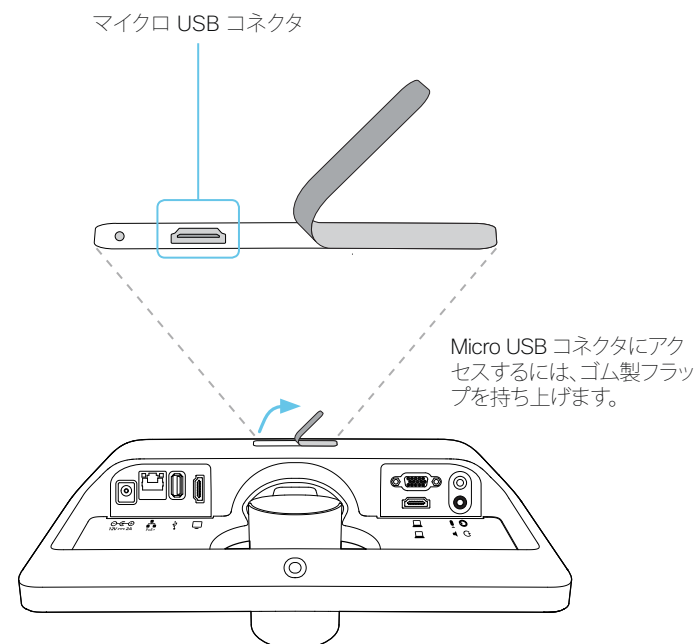
[シリアル ポート (SerialPort)] > [モード (Mode)]

セキュリティ上の理由から、シリアル インターフェイスを使用する前にサインインするように求められます。動作を変更するには、次の設定を使用します。

SerialPort > LoginRequired

シリアル ポートの設定を変更した後、ビデオ システムを再起動します。

CUCM によりビデオ システムがプロビジョニングされる場合、シリアル ポート設定は CUCM から設定する必要があります。



技術仕様 (1/2 ページ)

ソフトウェアの互換性

- Cisco TelePresence ソフトウェア バージョン TC7.1 以降
- コラボレーション エンドポイント ソフトウェア バージョン 8.0 以降

製品の同梱物:

- HD カメラとマイクを備えた SX10 コーデック
- 壁面取り付け
- TRC6 リモコン
- ネットワーク ケーブルおよび HDMI ケーブル

統合型の HD カメラ

- 合計のズーム 5x
- +5°/-25° チルト、± 30° パン
- 垂直視野角 51.5°
- 水平視野角 83°
- F 値 2.1 以上
- 1920 X 1080 ピクセル プロGRESSIVE @ 30 fps
- 自動または手動フォーカス、輝度およびホワイト バランス
- 上下が反対になったときに画像を自動反転

ユーザ インターフェイス

- TRC6 リモコンおよび画面に表示されるグラフィカル ユーザ インターフェイス
- Cisco TelePresence Touch 10 (オプション)

言語サポート

(ソフトウェア バージョンによって異なる)

- アラビア語、カタロニア語、簡体中国語、繁体中国語、チェコ語、デンマーク語、オランダ語、英語、英語 (UK)、フィンランド語、フランス語、フランス語 (カナダ)、ドイツ語、ヘブライ語、ハンガリー語、イタリア語、日本語、韓国語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語 (ブラジル)、ロシア語、スペイン語、スペイン語 (ラテンアメリカ)、スウェーデン語、トルコ語

システム管理

- 埋め込み Telnet、SSH、XML、および SOAP によるトータル管理
- Web サーバ、SCP、HTTP、および HTTPS を使用したリモート ソフトウェアのアップロード
- リモート コントロールと画面メニューのシステム

ディレクトリ サービス

- ローカル ディレクトリ (お気に入り) のサポート
- 社内ディレクトリ (Cisco Unified Communications Manager リリースおよび Cisco TelePresence Management Suite 利用)
- LDAP および H.350 をサポートするサーバ ディレクトリ (Cisco TelePresence Management Suite が必要)
- 日時を含む着信、発信、および不在着信のコール履歴

電源

- PoE 対応: 37 ~ 57 V、最大 0.35 A
- 電源
 - AC 入力: 1 A、100-240 V、50-60 Hz
 - DC 出力: 12 V、最大 2 A
- 通常の動作で最大 12 W

動作温度および湿度

- 周囲温度: 0 ~ 40 °C (32 ~ 95 °F)
- 相対湿度 (RH): 10 ~ 90%

保管および輸送の温度

- RH 10 ~ 90% では -20 ~ 60° (-4 ~ 140°F) (結露しないこと)

SX10 コーデックの寸法

- 幅: 27.5 cm (10.8 インチ)
- 高さ: 11.7 cm (4.6 インチ)
- 奥行: 9.1 cm (3.6 インチ) (下方向の最大カメラ チルトを含む)
- 重量: 0.9 kg (2.0 ポンド)

認定および適合規格

- 指令 2014/35/EU (低電圧指令)
- 指令 2014/30/EU (EMC 指令): クラス B
- 指令 2011/65/EU (RoHS)
- 指令 2002/96/EC (WEEE)
- NRTL 認定 (製品の安全性)
- FCC CFR 47 Part 15B (EMC): クラス B

各国の認定書類については、製品認定ステータス データベース <http://www.ciscofax.com> を参照。

BANDWIDTH

- 最大 3 Mbps

解像度とフレーム レートの最小帯域幅

- 768 kbps から 720p30
- 1472 kbps から 1080p30

ファイアウォール トラバース

- Cisco TelePresence Expressway テクノロジー

ビデオ標準

- H.263
- H.263+
- H.264

ビデオ入力

2 つのビデオ入力 (ユーザ インターフェイスで HDMI* または VGA を選択可能)。次のような最大の 1280 × 768@30fps までのフォーマットをサポート

- 640 × 480 (VGA)
- 720 × 480
- 704 × 576 (4CIF)
- 800 × 600 (SVGA)
- 848 × 480
- 1024 × 768 (VGA)
- 1152 × 864 (XGA+)
- 1280 × 720 (720p)
- 1280 × 768 (WXGA)

Extended Display Identification Data (EDID)

ビデオ出力

HDMI 出力 (1 個)*サポート フォーマット:

- 1920 X 1080 @ 60 fps (1080p60)

VESA モニタ電源管理

Extended Display Identification Data (EDID)

* HDMI バージョン 1.3

技術仕様 (2/2 ページ)

ライブ ビデオ解像度 (エンコード/デコード)

次のような最大 1920 X 1080@30 fps (HD1080p30) までのエンコードまたはデコード ビデオ フォーマットをサポート:

- 176 X 144 @ 30 fps (QCIF) (デコードのみ)
- 352 X 288 @ 30 fps (CIF)
- 512 X 288 @ 30 fps (w288p)
- 576 X 448 @ 30 fps (448p)
- 640 X 480 @ 30 fps (VGA)
- 704 X 576 @ 30 fps (4CIF)
- 768 X 448 @ 30 fps (w448p)
- 800 X 600 @ 30 fps (SVGA)
- 1024 X 576 @ 30 fps (w576p)
- 1024 X 768 @ 30 fps (XGA)
- 1280 X 720 @ 30 fps (HD720p)
- 1280 X 768 @ 30 fps (WXGA)
- 1920 X 1080 @ 30 fps (HD1080p)

音声標準

- 64kbps AAC-LD
- OPUS
- G.722
- G.722.1
- G.711mu
- G.711a
- G.729AB
- G.729

音声機能

- ハイクオリティ 20kHz オーディオ
- 音響エコー キャンセラ 2
- オート ゲイン コントロール
- オート ノイズ リダクション
- アクティブ リップ シンク

音声入力

- 内部マイク 1
- 外部マイク 1、4 極ミニジャック (Cisco TelePresence Table Microphone 20)
- HDMI 音声 1

音声出力

- 出力回線 1、ミニジャック
- 1 HDMI (デジタル メイン音声)

デュアル ストリーム

- BFCP (SIP) デュアル ストリーム
- WXGAp5 までの解像度

マルチポイント サポート

- Cisco Ad-Hoc Conferencing (Cisco Unified Communications Manager, Cisco TelePresence Server および Cisco TelePresence Conductor が必要)

プロトコル

- SIP および H.323

組み込み暗号化

- SIP および H.323 ポイントツーポイント
- 標準ベース: Advanced Encryption Standard (AES)
- キーの自動生成と交換
- デュアル ストリームでサポート

IP ネットワーク機能

- サービス設定での DNS ルックアップ
- 差別化サービス (QoS)
- IP 帯域幅最適化コントロール (フロー制御を含む)
- ダイナミック再生およびリップシンクのバッファリング
- NTP による日時のサポート
- パケット損失時のダウンスピード機能
- URI ダイアル
- TCP/IP
- DHCP
- IEEE 802.1x ネットワーク認証
- IEEE 802.1Q 仮想 LAN
- IEEE 802.1p QoS およびサービス クラス
- Cisco ClearPath

IPv6 ネットワークのサポート

- DHCP、SSH、HTTP、HTTPS、DNS、DiffServ に対するデュアル スタックの IPv4 および IPv6
- スタティック IP アドレスの割り当て、ステートレス自動設定および DHCPv6 をサポート

サポートされるインフラストラクチャ

- Cisco Unified Communications Manager 8.6.2 以降
- Cisco TelePresence Video Communication Server (Cisco VCS)

セキュリティ機能

- Web インターフェイス (HTTPS/HTTP) および SSH を使用した管理
- パスワードで保護された IP 管理
- パスワードで保護された管理メニュー
- IP サービスのディセーブル
- ネットワーク設定の保護

ネットワーク インターフェイス

- PoE 対応 LAN コネクタ (RJ-45) 10/100 Mbps 1 個 (自動ネゴシエーションのみ)

その他のインターフェイス

- 将来的に使用する USB ポート 1 個
- メンテナンス目的の Micro-USB ポート 1 個

すべての仕様は予告なしに変更される場合があります。システム仕様は異なる場合があります。

これらのドキュメントの画像はすべて説明目的でのみ使用され、実際の製品とは異なる場合があります。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at www.cisco.com/go/trademarks. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership

relationship between Cisco and any other company.

2016 年 12 月

サポートされている RFC

RFC (Request For Comments) シリーズには、Internet Engineering Task Force (IETF) によって作成される技術仕様およびポリシー文書など、インターネットに関する技術および組織のドキュメントが含まれます。

- RFC 2190『RTP Payload Format for H.263 Video Streams』
- RFC 2460『Internet protocol, version 6 (IPv6) specification』
- RFC 2617『Digest Authentication』
- RFC 2782『DNS RR for specifying the location of services (DNS SRV)』
- RFC 2976『The SIP INFO Method』
- RFC 3016『RTP Payload Format for MPEG-4 Audio/Visual Streams』
- RFC 3261『SIP: Session Initiation Protocol』
- RFC 3262『Reliability of Provisional Responses in SIP』
- RFC 3263『Locating SIP Servers』
- RFC 3264『An Offer/Answer Model with SDP』
- RFC 3311『UPDATE method』
- RFC 3361『DHCP Option for SIP Servers』
- RFC 3388『Grouping of Media Lines in the Session Description Protocol (SDP)』
- RFC 3420『Internet Media Type message/sipfrag』
- RFC 3515『Refer method』
- RFC 3550『RTP: A Transport Protocol for Real-Time Applications』
- RFC 3551『RTP Profile for Audio and Video Conferences with Minimal Control』
- RFC 3581『Symmetric Response Routing』
- RFC 3605『RTCP attribute in SDP』
- RFC 3711『The Secure Real-time Transport Protocol (SRTP)』
- RFC 3840『Indicating User Agent Capabilities in SIP』
- RFC 3890『A Transport Independent Bandwidth Modifier for SDP』
- RFC 3891『The SIP "Replaces" Header』
- RFC 3892『Referred-By Mechanism』
- RFC 3960『Early Media』
- RFC 3986『Uniform Resource Identifier (URI): Generic Syntax』
- RFC 4028『Session Timers in SIP』
- RFC 4091『The Alternative Network Address Types (ANAT) Semantics for the Session Description Protocol (SDP) Grouping Framework』
- RFC 4092『Usage of the Session Description Protocol (SDP) Alternative Network Address Types (ANAT) Semantics in the Session Initiation Protocol (SIP)』
- RFC 4145『TCP-Based Media Transport in the SDP』
- RFC 4235『An INVITE-Initiated Dialog Event Package for the Session Initiation Protocol (SIP)』
- RFC 4566『SDP: Session Description Protocol』
- RFC 4568『SDP: Security Descriptions for Media Streams』
- RFC 4574『The Session Description Protocol (SDP) Label Attribute』
- RFC 4582『The Binary Floor Control Protocol』
draft-ietf-bfcpbis-rfc4582bis-00『Revision of the Binary Floor Control Protocol (BFCP) for use over an unreliable transport』
- RFC 4583『Session Description Protocol (SDP) Format for Binary Floor Control Protocol (BFCP) Streams』
draft-ietf-bfcpbis-rfc4583bis-00『Session Description Protocol (SDP) Format for Binary Floor Control Protocol (BFCP) Streams』
- RFC 4585『Extended RTP Profile for RTCP-Based Feedback』
- RFC 4629『RTP Payload Format for ITU-T Rec.H.263 Video』
- RFC 4733『RTP Payload for DTMF Digits, Telephony Tones and Telephony Signals』
- RFC 4796『The SDP Content Attribute』
- RFC 4862『IPv6 stateless address autoconfiguration』
- RFC 5104『Codec Control Messages in the RTP Audio-Visual Profile with Feedback (AVPF)』
- RFC 5168『XML Schema for Media Control』
- RFC 5245『Interactive Connectivity Establishment (ICE)』: オファーまたはアンサー プロトコル用のネットワーク アドレス変換 (NAT) 通過のためのプロトコル
- RFC 5389『Session Traversal Utilities for NAT (STUN)』
- RFC 5577『RTP Payload Format for ITU-T Recommendation G.722.1』
- RFC 5589『SIP Call Control Transfer』
- RFC 5626『Managing Client-Initiated Connections in the Session Initiation Protocol (SIP)』
- RFC 5766『Traversal Using Relays around NAT (TURN)』: Session Traversal Utilities for NAT (STUN) のためのリレー拡張
- RFC 5768『Indicating Support for Interactive Connectivity Establishment (ICE) in the Session Initiation Protocol (SIP)』
- RFC 5905『Network Time Protocol Version 4: Protocol and Algorithms Specification』
- RFC 6156『Traversal Using Relays around NAT (TURN) Extension for IPv6』
- RFC 6184『RTP Payload Format for H.264 Video』

シスコ Web サイト内のユーザ ドキュメンテーション

Cisco TelePresence 製品のユーザ ドキュメンテーションは次の URL で入手できます。

<http://www.cisco.com/go/telepresence/docs>

該当する製品が見つかるまで、右ペインの製品カテゴリを選択します。以下の順にパスをたどってください。

コラボレーション ルーム エンドポイント >

Cisco TelePresence SX シリーズ >

TelePresence SX シリーズ

また、次の短いリンクを使用してマニュアルを検索できます。<http://www.cisco.com/go/sx-docs>

ドキュメントは、次のカテゴリに編成されます。

インストールとアップグレード > インストールとアップグレードガイド

- ・ インストレーション ガイド: 製品のインストール方法
- ・ スタートアップ ガイド: システムを稼働させるために必要な初期設定
- ・ RCSI ガイド: 法規制の遵守および安全に関する情報

保守と運用 > メンテナンスとオペレーション ガイド

- ・ スタートアップ ガイド: システムを稼働させるために必要な初期設定
- ・ 管理者ガイド: 製品の管理に必要な情報
- ・ 『CUCM での TelePresence エンドポイントの導入ガイド』: ビデオ システムを Cisco Unified Communications Manager (CUCM) とともに使用開始するために実行するタスク

保守と運用 > エンドユーザ ガイド

- ・ ユーザ ガイド: 製品の使用方法
- ・ クイック リファレンス ガイド: 製品の使用方法

リファレンス ガイド > コマンド リファレンス

- ・ API リファレンス ガイド: アプリケーション プログラミング インターフェイス (API) のリファレンス ガイド

リファレンス ガイド > テクニカル リファレンス

- ・ CAD 図面: 寸法付きの 2 次元 CAD 図面

設定 > 設定ガイド

- ・ *In-room control guide* (室内制御ガイド): 室内制御 パネルの設計方法およびビデオ システムの API を使用した室内制御のプログラミング方法

設計 > 設計ガイド

- ・ ビデオ会議室のガイドライン: 会議室の設計とベスト プラクティスに関する一般的なガイドライン
- ・ ビデオ会議室ガイドライン: 認識される音質を向上させるためにやるべきこと

ソフトウェア ダウンロード、リリースと一般情報 > ライセンス情報

- ・ オープン ソース ドキュメンテーション: この製品で使用されるオープン ソース ソフトウェアのライセンスおよび通知

ソフトウェア ダウンロード、リリースと一般情報 > リリース ノート

- ・ ソフトウェア リリース ノート

シスコのお問い合わせ先

シスコの Web サイトでは、シスコの世界各地のお問い合わせ先を確認できます。

URL: ▶ <http://www.cisco.com/go/offices/>

Corporate Headquarters:
Cisco Systems, Inc.
170 West Tasman Dr.
San Jose, CA 95134 USA

知的財産権

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された「Information Packet」に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知られていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

ハード コピーおよびソフト コピーの複製は公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices/) をご覧ください。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

シスコ製品のセキュリティの概要

この製品には、輸入、輸出、譲渡、使用を規制する米国またはその他の国の法律の対象となる暗号化機能が含まれています。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を遵守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の遵守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を遵守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

米国の輸出規制の詳細については、<http://www.bis.doc.gov/policiesandregulations/ear/index.htm> で参照できます。